

昭和三十九年九月

四日市市議会会議録目次

オ一号（九月二十一日）

会議録署名議員の指名

会期の決定について

故議員伊藤宗一君に対する追悼の辞

昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（オ三号）

議案説明

オ二号（九月二十四日）

一般質問

志横政一君

港管理機構についてその他

藤谷祐一君

関連質問

坂上長十郎君

関連質問

山中忠一君

公害に対処するための都市改造及びその後の経緯並びに将来の見通しについてその他

ページ

一八

一八

一九

二〇

四九

七二

七九

九〇

加藤定男君	一〇〇
関連質問	一〇〇
味岡一郎君	一〇一
関連質問	一〇一
坪井妙子君	一〇二
青少年対策その他	一〇二
鈴木愛次君	一一七
関連質問	一一七
伊藤太郎君	一一三
関連質問	一一三
才三号（九月二十五日）		
一般質問		
増山英一君	一五六
南部開発についてその他	一五六
北村与市君	一六八
関連質問	一六八
中島忠勝君	一七〇
関連質問	一七〇
喜多野等君	一七〇
都市改造についてその他	一七六
洲崎也男君	二〇〇
関連質問	二〇〇
橋詰興隆君	二〇四
関連質問	二〇四
前川辰男君	二〇九
関連質問	二〇九
酒井昌一君	二二四
農業対策についてその他	二二四
大島武雄君	二三五
関連質問	二三五
昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才三回）		
質疑、委員会付託	二三一
昭和三十九年度四日市市立即印刷所特別会計補正予算（才一号）その他	二三一
質疑、委員会付託	二三一
昭和三十九年度四日市市水道事業会計才一回補正予算	二三三
質疑、委員会付託	二三三
昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について	二三三

質疑、委員会付託……………	二三二
市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更についてその他	
質疑、委員会付託……………	二三三

四日市市才一期公共下水道事業計画の変更についてその他	
質疑、委員会付託……………	二三三

工事請負契約の締結についてその他	
質疑、委員会付託……………	二三四

才四号（十月五日）

昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才三号）	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二五二

昭和三十九年度四日市市印刷所特別会計補正予算（才一号）その他	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二七〇

昭和三十九年度四日市市水道事業会計才一回補正予算	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二七四

昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二七五

市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更についてその他	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二七七

四日市市才一期公共下水道事業計画の変更についてその他	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二八〇

工事請負契約の締結についてその他	
委員長報告、質疑、討論、議決……………	二八一

教育委員会委員の任命について	
講察説明、質疑、討論、同意……………	二八三

請願書等審査結果報告	
採否決定……………	二八四

昭和三十一年二月十一日

四日市市議会議定例會會議錄（第一号）

四日市市議會

昭和三十一年九月二十四日市市議会定例会議事速記録 才一号

○昭和三十一年九月二十一日（月曜日）午後二時四分開会

○出席議員（三十五名）

坂	宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	北	酒	米
上	崎	木	藤	横	川	多	田	井	垣	谷	村	井	田	田
長	春	愛	太	政	辰	久	妙	祐	安	与	昌	好	兼	速
十	吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	市	一	記
郎	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	

○議案説明のため出席した者（四十六名）

市	助	助	収	総	税	産	厚	衛
長	役	役	入	務	務	業	生	生
平	二	川	岩	圃	芝	平	中	山
田	宮	崎	野	浦	田	井	山	山
佐	良	祐	見	和	敬	清	英	英
矩	一	男	斉	己	太	三	郎	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君

○欠席議員（二名）

須	笠
藤	田
総	七
太郎	衛
君	君

山	増	渡
本	山	部
栄	英	植
一	一	太
君	君	郎

田	中	野	日	荒	矢	伊	大	前	加	山	高	服	橋	永	谷	訓	味
村	島	崎	比	木	田	藤	島	川	藤	中	橋	部	話	田	口	霸	岡
末	忠	貞	義	武	繁	泰	武	宗	定	忠	伊	昌	興	利	專	也	一
松	勝	芳	平	治	郎	一	雄	雄	男	一	祐	弘	隆	郎	九	男	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

教 育 長 山 本 車 一
 管 理 課 長 小 林 義 壽 君
 学 校 教 育 課 長 水 原 義 壽 君
 保 健 体 育 課 長 館 義 夫 君

市 立 病 院 事 務 長 三 輪 喜 代 司 裕 君
 〃 副 事 務 長 藪 田 裕 君

消 防 長 竹 内 鉄 雄 君
 消 防 次 長 金 田 妙 弘 君
 総 務 課 長 大 倉 尚 明 君

清 掃 二 課 長 赤 塚 啓 次 郎 君
 土 木 課 長 杉 本 義 広 君
 都 市 計 画 課 長 長 谷 川 正 逸 君
 下 水 道 課 長 天 野 助 春 君
 調 達 契 約 課 長 小 林 清 君

資 産 税 課 長 伊 藤 治 郎 君
 商 工 課 長 小 西 忠 臣 君
 農 林 課 長 鷺 野 正 和 君
 耕 地 課 長 奥 村 仁 人 君
 民 生 課 長 村 山 了 君
 青 少 年 課 長 国 保 義 一 君
 消 掃 一 課 長 荒 木 三 郎 君
 税 務 課 長 小 林 喜 重 郎 君
 市 民 課 長 喜 田 重 郎 君
 管 財 課 長 杉 本 治 芳 君
 財 務 課 長 伊 藤 涼 一 君
 総 務 課 長 天 野 正 春 君
 企 画 開 発 課 長 六 田 猶 裕 君
 人 事 課 長 佐 々 木 晃 精 君
 秘 書 課 長 阿 南 輝 彦 君
 副 収 入 役 村 木 喜 代 次 君
 建 設 部 長 鬼 頭 鉄 郎 君
 土 木 部 長 城 井 義 夫 君

○市議会议務局（四名）

技 術 部 長	山 本 文 雄
総 務 部 長	滝 伝 之 助
業 務 課 長	岡 本 林 衛
工 務 課 長	加 藤 弘
拓 張 課 長	美 濃 部 博 美

事 務 局 長	菊 地 英 也
議 事 係 長	小 坂 靖 君
主 事 佐	藤 正 俊 君
事 務 試 補 考	野 孝 君

○議事日程 才一号

昭和三十九年九月二十一日（月）午後二時開議

- 才一 会議録署名議員の指名について
- 才二 会期の決定について
- 才三 故議員伊藤宗一君に対する追悼の辞

- 才四 議案才一二七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才三号）：議案説明
- 才五 議案才一二八号 昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正予算（才一号）：……………
- 才六 議案才一二九号 昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算（才一号）：……………
- 才七 議案才一二〇号 昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（才一号）：……………
- 才八 議案才一二一号 昭和三十九年度四日市市立四日市病院事業会計才一回補正予算：……………
- 才九 議案才一二二号 昭和三十九年度四日市市水道事業会計才一回補正予算：……………
- 才一〇 議案才一二三号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について：……………
- 才一一 議案才一二四号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について：……………
- 才一二 議案才一二五号 四日市市役所出張所設置条例の一部改正について：……………
- 才一三 議案才一二六号 四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について：……………
- 才一四 議案才一二七号 四日市市用品購入基金条例の制定について：……………

オ一五	議案オ一二八号	消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定について……………	議案説明
オ一六	議案オ一二九号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について……………	〃
オ一七	議案オ一三〇号	四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について……………	〃
オ一八	議案オ一三一号	狭野伝染病隔離病舎組合規約の変更について……………	〃
オ一九	議案オ一三二号	四日市市オ一期公共下水道事業計画の変更について……………	〃
オ二〇	議案オ一三三号	簡易水道建設事業について……………	〃
オ二一	議案オ一三四号	工事請負契約の締結について……………	〃
オ二二	議案オ一三五号	市道路線認定について……………	〃
オ二三	議案オ一三六号	市道路線廃止について……………	〃
オ二四	議案オ一三七号	市道路線の一部廃止について……………	〃

○本日の会議に付した事件

オ一	会議録署名議員の指名について
オ二	会期の決定について
オ三	故議員伊藤宗一君に対する追悼の辞
オ四	議案オ一二七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（オ三号）

オ五	議案オ一二八号	昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正予算（オ一号）
オ六	議案オ一二九号	昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算（オ一号）
オ七	議案オ一二〇号	昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（オ一号）
オ八	議案オ一二一号	昭和三十九年度四日市市市立四日市病院事業会計オ一回補正予算
オ九	議案オ一二二号	昭和三十九年度四日市市水道事業会計オ一回補正予算
オ一〇	議案オ一二三号	昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について
オ一一	議案オ一二四号	市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について
オ一二	議案オ一二五号	四日市市役所出張所設置条例の一部改正について
オ一三	議案オ一二六号	四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
オ一四	議案オ一二七号	四日市市用品購入基金条例の制定について
オ一五	議案オ一二八号	消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定について
オ一六	議案オ一二九号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について
オ一七	議案オ一三〇号	四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について
オ一八	議案オ一三一号	狭野伝染病隔離病舎組合規約の変更について
オ一九	議案オ一三二号	四日市市オ一期公共下水道事業計画の変更について
オ二〇	議案オ一三三号	簡易水道建設事業について
オ二一	議案オ一三四号	工事請負契約の締結について
オ二二	議案オ一三五号	市道路線認定について

才二三 議案才一三六号 市道路線廃止について
才二四 議案才一三七号 市道路線の一部廃止について

○議長（錦安吉君） ただいまより昭和三十九年九月、四日市市議会定例会を開会いたします。

本日の出席議員数は、三十四名であります。

本日の議事につきましては、議事日程才一号により取り進めたいと思いますから、よろしくお願いいたします。要求いたしておきました議事説明者の氏名は、お手元に配布いたしました要求書写のとおりであります。

なお、本日は、教育委員長が公務のため、また衛生課長が病気のため欠席いたしましたから御了承願います。

○議長（錦安吉君） ただいまより会議を開きます。

日程才一、会議録署名議員の指名を行ないます。

本定例会の会議録署名議員は、前川宗雄議員と加藤議員にお願いすることにいたします。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才二、会期の決定についてを議題といたします。

今期定例会の会期は、本日より十月五日までの十五日間といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

「「異議なし」と呼ぶ者あり」

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって会期は、十五日間と決定いたしました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才三、故議員伊藤宗一君に対する追悼の辞。

議員伊藤宗一君は、去る九月十四日逝去されました。まことに痛惜、哀悼の至りにたえません。

つきましては、増山議員から発言を求められておりますので、この際、発言を願います。

増山議員、どうぞ。

「増山英一君登壇」

○増山英一君 議員伊藤宗一君には、去る九月八日高血圧のため倒れられ、あらゆる手当のかいもなく、十四日早朝逝去されたのであります。

ここに私は、議員一同を代表いたしまして、つつしんで哀悼のことばを申し述べるとともに、たび重なる不幸に激しい憤りさえ感ずるものでございます。

伊藤宗一君は、当年六十八才。昭和二十二年に本市議会に席を占められ、以来、連続五回当選。戦後の混乱期から今日まで十七年と四カ月の長きにわたって市政の正常化と、本市発展のために真摯な努力をなされたのでございます。

私どもは、先に山本三郎君、野呂幸太郎君、早川和一君の逝去にあい、ここにまた君のごとき有力議員を失うに至りましたことは、残されたる議員一同、ぼう然としてなすところを知らないであります。

ここにつつしんで伊藤宗一議員の御逝去に対しまして、生前の功績をたたえ、その人となりをしるのび、哀悼のまこととをささげ、衷心より御冥福をお祈りする次才でございます。

○議長（錦安吉君） 次に、日程才四、議案才百十七号昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才三号）ないし

日程才二十四、議案才百三十七号市道路線の一部廃止についての二十一議案を一括議題といたします。

市長の説明を求めます。

市長。

（市長（平田佐矩君）登壇）

○市長（平田佐矩君）　ただいま御上程の議案について御説明申し上げます。

議案才百十七号は、昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才三号）案でありまして、歳入歳出予算におきましては、三億八千五百二十三万七千四の追加補正を行なうとともに、債務負担行為として、将来の経費負担にかかるものとしては、旧税務署庁舎買収費八千八百二十三万八千四、雨池川排水路改良費立替金一千三百四十四万四及び教員住宅土地家屋賃借料一億三千二百五十七万四、契約締結にかかるものとしては、教員の住宅建設費二千九百三十万四及び高花平小学校建設費一千六百五十八万五千四等の追加をお願いするものでありますが、歳入歳出予算における主なものとしたしましては、一般職員の退職金、税務署建築交換に伴う差額の一部支払金、四日市警察署建設に伴う地元負担金、県庁舎建設負担金、国県補助金の決定による各種事業費の補正、及び高花平小学校、中部中学校屋内運動場並びに教員住宅建設費その他やむをえないものをお願いしたものでありまして、補正後の一般会計歳入歳出予算の総額は、三十八億三千二百三十九万四となるのであります。

以下、歳出から御説明申し上げます。

経務費のうち一般管理費は、職員の病欠欠勤及び出産休暇等の代替並びに事務改善のための住民補助カード作成事務等に要する臨時備人料不足分、連絡員報償金の引き上げ分、過般、市議会全員協議会にはかりいたしましたロングビーチ市への親善視察団派遣旅費、及び乗用車の購入費等の追加のほか、税務署施設建築工事費精算の結果による

不用額の減額等をお願いしたものであります。

財産管理費は、水沢市有林の管理を一層積極的に行なうための人夫費及び苗木の購入費等の不足分と、公有財産の増加に伴う保険料の不足額等を計上したものであります。

また、その他に今回固定資産税評価額の改正並びに使用料徴収条例の制定に伴い、従来、市が賃借及び賃貸しております土地及び家屋の使用料についても検討の結果、十月以降賃借ともにいずれも約六〇％の引き上げを行ないたく不足額を計上いたしました。なお、この科目には出張所敷地等の賃借料を計上しておりますが、その他は、学校、公民館等それぞれの目的に従って各科目に計上いたしました。

公有財産購入費は、過般の全員協議会ではかりいたしましたとおり旧税務署の敷地及び庁舎の取得に伴い、交換差金の二〇％を本年度支払分としてお願いしたものであります。

繰出金は、用品購入基金に対する繰出金であります。従来、事務用品の購入は、市役所費において一括購入しておりましたが、本年度から自治法の改正により経費の目的別計上の原則に従って各科目毎に計上することになり、購入について事務的に非常に複雑になり取り扱い上困難を生じておりましたので、この際、別案条例をもって御審議をお願いしておりますように、用品購入基金を設けて一括購入を行ない能率的な運用を行ないたいと存じます。

企画費は、産業公災害対策等のため、最近とくに必要となっておりました臨海地域の地図修正費を計上したものであります。

支所出張所費は、今春新設された東京連絡事務所の備品費及び通信運搬費の不足分をお願いしたものであります。公館費におきましては、従来、市民ホールの拡声装置がやや小さく音響効果が悪いため利用者から改善を要望されておりましたので、今回その改善費を計上いたしましたほか、公会堂の椅子購入費をお願いしたものであります。な

お、公会堂の椅子購入は、寄付金を財源とするものであります。

諸費は、過般全員協議会ではかりしました四日市警察署敷地地元負担金及び県庁舎建設費補助金の本年度支払分交通安全のため国道一号线近鉄ガード以南へ街路灯を建設するための交通安全対策協議会に対する補助金、四日市都市親善協会に対する補助金、市税過納返還金の不足額並びに姉妹都市ロングビーチ市に対し記念贈呈をするための経費等を計上したものでありますが、都市親善協会に対する補助金八十五万円のうち五十万円及びロングビーチ市に対する記念寄附費五十万円の、近畿日本鉄道株式会社からの指定寄付金を財源とするものであります。

選挙費は、公明選挙推進費の委託金の決定による補正と、海区漁業調整委員会委員選挙委託金の決定による補正を行なったものであります。

民生費は、青少年指導費におきましては、先般の全員協議会においておはかりいたしました家庭づくりの推進に関する事業費、ジュニアリーダー養成に関する事業費、その他青少年対策に必要な事業費等を計上いたしました。またその他としては、本年開始いたしました北郡児童館の備品充実費、毒薬園治場の修理費、季節保育所の利用者増による経費等のほか、指定寄付金を財源として養老施設、保育所、養護施設、乳児院、結核施設等の施設の充実、備品消耗品等の購入に関する経費を計上いたしました。

また、各施設の私用電話及び電気料等も本年度は、予算を通じて経理することといたしました。が、すでに不足を生じてまいりましたので、それぞれ追加いたしました。なお、これに対しては、同額を利用者の負担として歳入に計上しております。

衛生費中予防費は、家族計画の指導に要する経費を計上したものであります。この事業は、生活保護家庭及び低所得家庭の家族計画について指導を行なうもので、従来県が主体となつて行なつたものでありますが、本年度から県事

業としては打ち切りになりますので、事業の重要性に鑑み、本年度から市の事業として行なうことになったのであります。本事業は、市内に二十三名の家族計画指導員を設置して対象家庭の指導を行なうもので、財源として三分の二の県補助金が交付されます。

清掃費は、清掃奨励費において技平一名の配置がえによる人件費の差額を行なっております。

また、塵芥処理費では、塵芥埋め立てに必要なブルドーザー、及びショベルローターの借上料不足分と、新しく埋立地を造成するために必要な進入路築造工事材料費等をお願いしております。

その他下水道整備費は、特別会計公共下水道会計への繰出金を計上したものであります。

農林水産業費中農業費は、農業委員会費においては、農業労働力調整協議会設置費及び農家台帳の補正に要する事業費を計上したもので、いずれも二分の一の県補助金を歳入に計上しております。

農業振興費におきましては、今回補助金の決定した土 病害防除事業補助金、野猪捕獲事業補助金並びに紅茶工場経営合理化補助金を計上しました。土 病害防除事業は、内部地区において大根萎黄病の防除を行なうため、国のパイロット防除事業の指定を受け農協が事業主体となって実施するもので、財源として同額の県補助金を計上いたしました。また、紅茶工場経営合理化補助金は、かねてから県、市におきまして農業経営合理化の一環として、県地区で紅茶栽培の普及と、加工施設の整備を推進してきましたが、貿易の自由化に伴う海外の諸状況に鑑み、従来の紅茶加工施設に緑茶加工施設を併設して生産の多角化を推進させるための補助金をお願いしたものであります。なお、これについては、県においても別途補助金の措置が講ぜられております。

農業構造改善事業は、本年度の国庫補助決定による事業費を計上したものであります。本年度事業の概要といたしましては、土地基盤整備として水沢野山地区においては、土地の区画整理を実施し、乳牛舎及び農機具格納庫等を建

設し、トラクター等大型農機具を導入して酪農を主とした農業経営の近代化をはかろうとするものであります。また堂ヶ山地区においては、前年度に引き続き茶園を対象とした農道を新設し、和無田地区、内山地区とともに病害虫防除用機具を導入して経営の近代化をはかろうとするものであります。予算的には、これに必要な工事費及び農道用地購入費、離作補償費、事務費等を計上しておりますが、本事業は、土地基盤整備事業に対しては、県費七〇%、地元負担金一五%、施設設置費に対しては、全額県費を計上いたしました。

畜産業費は、特別会計と畜場食肉市場会計に対する繰出金を計上したものであります。

農地費は、農地総務費において、地籍調査事業関係の経費不足分をお願いしたものであり、土地改良費においては市営土地改良事業として、朝明水路工事の補助決定による事業費の追加と、非補助受託水路工事費を計上したものであります。

財源といたしましては、市営土地改良事業に対しては、県費七〇%、地元負担金一五%、非補助受託工事費に対しては、全額受託金を繰入に計上しました。また、農地防災費は、早ばつ対策応急用材料費をお願いしたものであります。

商工費は、今回、林純之介氏から貴重な古万古を主としたコレクションの寄贈を受けましたので、その陳列ケースをお願いしたものであります。

土木費中、道路橋梁総務費は、先般三滝洞りの道路工事中に発生した事故に対する賠償金をお願いしたものであります。

道路維持費は、道路の維持修繕に要する人夫費の不足分、市内一田の市道維持修繕工事費及びこれに要する材料費並びに日本電信電話公社、市水道局及び昭和四日市石油株式会社からの受託工事費をお願いしたものであります。

道路新設改良費は、塩浜・大治田線改良工事費の補助決定に伴う事業費及び事務費の追加補正と、市単独事業として市内一田の網走新設工事費及び局部改良工事費をお願いしたものであります。また、橋梁維持費は、市内一田の橋梁補修費の追加であります。

都市計画費中都市計画総務費は、街路事業費の補助決定により人件費を事務費に組みかえるための補正をお願いするものであります。

街路事業費は、今回補正決定のあった子西・八王子線街路築造工事費、千才町・小生線街路築造工事費及び金場・新正線橋梁工事費とこれに伴う事務費の追加補正のほか、県施工の国鉄四日市駅東の都市改造事業、泊山住宅団地の造成と関連して子西・八王子線のうち国道一号线以西を県が公共事業として施工するための街路事業、三和公園造成事業等に対する市負担金並びに千才町・小生線街路築造に伴う建物移転補償費等をお願いしたものであります。

なお、子西・八王子線及び千才町・小生線の街路事業並びに金場・新正線橋梁事業に対しては三分の二の国庫補助金が交付されます。

公園費は、中央通りの花壇築造費及び三滝川通りグリーンベルト築造工事費を計上したもので、この一部は寄付金を財源に計上しております。

都市下水路管理費は、南池排水路改良工事及び富田排水場築造工事の国庫補助決定により、人件費を工事事務費に組みかえるための補正、富田地内県営豊栄樋門を市に管理委託するために要する人件費及び需用費等のほか、市内一田の排水施設工事費を計上したものであります。

また、都市下水路新設改良費は、富田排水場築造工事及び南池川排水路改良工事に対する本年度国庫補助割当が決定したことによる工事費、事務費等の追加補正と、市単独事業として富洲原地内国道一号线拡布工事と関連した下水

道改良工事費その他緊急やむをえないものをお願いしております。

なお、富田排水場築造工事及び雨池川排水路改良工事に対しては、三分の一の国庫補助金と雨池川排水路改良工事に対しては、別表債務負担行為の通り三菱油化株式会社の立替金を財源に計上しております。

住宅費は、住宅管理費において国有財産山崎町住宅の土地及び家屋使用料を追加計上しております。この住宅は、市が国から借り受けて居住者に貸しつけているものでありますが、本年度は、国有財産使用料の値上げがあり、居住者から反対陳情が行なわれておりましたが、今回この問題も解決されましたので、その使用料を追加計上したものであります。なお、この使用料は市が使用しております一戸分を除き居住者が負担するものであります。

住宅建設費は、公営住宅の国庫補助単価の改訂及び本年度高花平団地に建設中の公営住宅敷地購入費の精算結果による不足額等を計上したものであります。

消防費におきましては、常備消防機構充実の線に沿って本年十月一日から南及び北の二出張所を消防署に昇格させるに伴う庁用備品等の購入費、消防団員退団者に対する記念品の不足分並びに桜及び海蔵分団の車庫改築に対する補助金等のほか、水防倉庫の備蓄用資材費を計上いたしました。

次に、教育費は、教育総務費のうち、事務局費におきまして、本年度の希望退職者に対する退職手当及び教員住宅建設費等を計上いたしました。教員住宅は、昨年度は水沢地区に二戸を建設し、へき地における教育事業の緩和をはかることといたしました。当初計画に従い本年度も昨年度と同様の方法により、二戸を建設いたしました。さらに本年度は、これとは別に市内全体の教職員を対象とした教員住宅を形式的には公立学校共済組合の受託事業として建設いたしたく予算化をお願いしております。申すまでもなくこの住宅は、市内公立学校教職員の住宅事情の緩和を目的としたものでありますが、教員の確保と住宅とが重要な関係にあることの考慮から今回とく

に建設を決意するに至ったものであります。

建設場所は、常磐地区松木山に用地確保の見通しがつき、規模は鉄筋コンクリートつくり三階建て延五百二十三坪家族住宅十八戸、独身住宅九戸のほか食堂、集会室、保育室、管理室を備え、総事業費は六千六十万五千円で、本年度及び明年度の二カ年で建設するものであります。

なお、出源的には、公立学校共済組合が市に事業の実施を委託し、市は完成後賃借料の形式で事業費の償還を行ない、償還が終ったときにその財産は市に無償譲与せられるのであります。なお、期間は、二十五年、利率は年六分であり、別表のとおり債務負担行為として御審議をお願いしております。

教育振興費は、すでに全員協議会にはかりいたしましたメリノール女子学院建設委員会負担金をお願いしたものであり、教育研究所費は、教育研究所の通信料及び郵便料の不足分をお願いしたものであります。

小学校費は、学校管理費におきましては、少年の補導と非行防止について教員各位の積極的な活動を期待してその費用を算上しましたほか、民有土地賃借料の値上げ分等を計上いたしました。

また、教育振興費では、今回新しく少年の非行性萌芽の早期発見と進路指導等に万全を期するため、小学校の五年及び六年に適応性検査を行ないたく必要な経費を計上いたしましたほか、国庫負担法に基づく教材備品費等国庫補助金の単価改訂等に伴う追加補正をお願いするものであります。

同項学校建設費においては、海蔵小学校舎建設費及び高花平小学校建設費をお願いしております。海蔵小学校は当初予算において本年度及び明年度の二カ年で改築する計画を御承認願っておるのでありますが、今回国庫補助金が決定せられたことにより単年度施行に切りかえる必要が生じてまいりましたので、明年度の予定事業を本年度に繰り上げたのと、高花平小学校が児童数の増加により教室が不足する見通しとなつてまいりましたので、本年度及び明年

度の二カ年の計画で普通教室三教室を含む管理棟一棟を建設することとし、本年度分六十九坪の建設費を計上いたしました。なお、高花平小学校管理棟は、鉄筋コンクリート二階建て延二百六十九坪でありまして、国庫補助の関係もありますので、二カ年にわたり施工するものであります。

なお、財源といたしましては、海蔵小学校校舍改築に対する国庫負担金のほか、別表をもって御審議をお願いしておりますように債務負担行為をもってまかなうものであります。

中学校費のうち学校管理費は、小学校費で御説明申し上げました校外補導員費用弁償及び中学校校地の賃借料の引き上げによる不足分等を計上したものであります。

また、教育振興費は、小学校費と同じく国庫補助金の補助単価改訂等による追加補正をお願いしたものであります。学校建設費は、富田中学校改築費及び中部中学校屋内体育館の建設費をお願いしたものであります。富田中学校校舎の改築は、当初予算におきまして二カ年の計画を御承認願っておりますが、国庫補助金の決定により単年度施行に切りかえる必要が生じまして、明年度の計画分を本年度に繰り上げましたこと及び中部中学校屋内運動場に対して今回国庫補助金の割当がありましたので、鉄筋、鉄骨づくり平家建て二百八十坪の建設をお願いするものであります。

なお、財源は、国庫負担金のほかは別表で御審議をお願いしておりますように債務負担行為により行なうものであります。なお、このたび今年度の学校建築の財源全般について、さらに御説明申し上げたいと存じます。

本年度の学校建築は、当初予算で御決議をいただきましたように、海蔵小学校、常磐小学校、富田中学校及び笹川中学校の校舎建設を債務負担行為により行なうことになっておりましたが、その後これら四校の校舎建設と中部中学校屋内運動場の建設費に対して二千三百四十七万八千円の国庫負担金が決定せられたのであります。

今回の予算におきましては、既決の四校に加えて新しく中部中学校屋内運動場と、高花平小学校管理棟の建設を追加しましたが、予算的には国庫負担金二千三百四十七万八千円と、起債二千五百万円を財源として見込めますので、議決をいただいております債務負担行為の限度額を変更することなく二校を追加することができるのであります。

社会教育費のうち経費費及び公民館費は、主として勤労青年学校、成人学校、同和教育及び婦人学級に対する補助決定により必要経費の追加を行なうものであります。

図書館費は、富洲原分館を開鎖し児童館としたための不用額及びブックモビールの購入につき、入札の結果の不用額が生じたことによる補正と、私用電気使用料及び電話料等の追加をお願いしたものであります。

また、社会会館費は、私用電気使用料及び社会会館の水配管が工事費等を計上したものであります。

保健体育費のうち体育振興費は、さる八月熊野市において開催されました県民体育大会の参加人員の増加並びに宿泊費等の経費増高による不足分と、オリンピック聖火リレー用ユニホーム及び歓迎国旗購入費等であります。また、体育施設費は、鵜の森及び海山道プール土地賃借料の値上げ分等を計上いたしました。

災害復旧費は、国庫補助割当の決定により、農林施設及び土木施設の災害復旧関係費を追加したものであります。

次に、歳入は、歳入各科目に関連した特定財源のほか前年度繰越金をもって収支の均衡をはかったものであります。この際皆さまの御了承をいただきたいと存じますのは、前年度繰越金の使用についてであります。昭和三十八年度決算におきましては、一億四千三百九万余円の実質剰余金が出ましたので、本市財政調整基金条例第二条二号によれば原則として二分の一以上を積立てることとされておりますが、今回の補正予算は、同条例第五条一号及び三号の規定に該当すると存じますので同規定を適用し、財源にあてため積立てをしないことにいたしたいと存じます。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後二時五十一分休憩

午後三時四十九分再開

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。
市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 議案第百十八号は、昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正予算（第一号）案でありまして、総額十万三千円の追加をお願いするものであります。本年度は、印刷機の買いかえをいたしました結果、臨時備入料に不足を生じてまいりましたので、追加補正をお願いするものであります。

なお、この財源といたしましては、繰越金をもって収支の均衡をはかりました。

議案第百十九号は、昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算（第一号）案でありまして、総額千二百十二万八千円の追加をお願いするものであります。本市のと畜場食肉市場は、食肉の対米輸出と畜場としての指定を受けて以来、設備の改善を計画しておりましたが、今回これに対する起債が内定いたしましたので、冷蔵庫増設ボイラー設備及び汚水固型物分離装置等の設備工事を行ないたく予算の追加補正をお願いするものであります。

この財源といたしましては、市債のほか一般会計からの繰入金をもって収支の均衡をはかりました。

議案第百二十号は、四日市市公共下水道特別会計補正予算（第一号）案でありまして、総額一億八千八百七十四万四千円の追加補正をお願いするものであります。

今回の追加補正は、第一計画画区域内の管渠工事及び日水処理場築造工事に対する国庫補助金が決定せられること

による事業費の追加と、昨年に引き続き泊山住宅団地内の下水道事業につきましても国庫補助金が決定せられましたので、これに伴う事業費の追加をお願いするものであります。

以下、主な内容について概要を御説明申し上げます。

事業費のうち業務費におきましては、今回国庫補助が増額決定せられたことに伴い、職員四名分の人件費を補助対象として建設改造費から支弁いたしたく組みかえを行ないましたのと、各家庭の汚水枋を設置基準をこえて新設する場合、受託事業として施工するための工事費及び工事材料費等を計上いたしました。なお、受託事業として行なう汚水枋設置工事請負費及び工事材料費は、全額受託事業収入をもってあてるものであります。

建設改良費は、大別して従来から継続実施しております日水処理区関係と、今回新らしく着手する泊山処理区の関係があります。日水処理区のうち細屋排水区では、すでに主要幹線工事が完成しておりますので、できる限り枝管工事を延ばして各家庭汚水との直結をはかるための工事を実施し、阿瀬知排水区では一号及び五号幹線工事と、排水場から終末処理場への汚水圧送管工事の一部を施工するものであります。

また、日水終末処理場は、当初予算におきましては、生し尿の簡易処理ができる最少限度の事業費を計上したのであります。今回補助の増額決定の概に下水の簡易処理ができるよう事業費の増額をするものであります。

施設の内容といたしましては、最初沈澱池、汚泥処理設備、放流ポンプ及び電気設備、分水枋工事等を施工するとともに、市単独事業として場内排水施設及び場内の整備を行なうもので、これにより処理場施設としては最後沈澱池及び散布ろ宋一基を残すのみとなり、これらの工事は四十年度に完成を予定しております。従って、四十一年度から計画区域内における水洗便所化が実現することになりました。

泊山処理区は、今回住宅公団によって行なわれる泊山住宅団地の造成に伴う下水道施設の建設でありまして、総体

計画といたしましては、昭和三十八年度から同四十一年度までに泊山住宅団地百六十六ヘクタール、人口一万八千人を対象として分流式下水処理施設を建設するもので、総事業費は六億二千九百万円を予定しております。

財源的には、管渠工事につきましては、国庫補助金を除いた事業費は全額公団負担となるものでありますが、排水路中に公団住宅区域外の部分の雨水を排水する工事を含みますので、その分は流出量に応じた市負担が出るものと存じます。また、処理場施設は国庫補助金を除いた事業費を市と公団が二分の一ずつ負担することになっております。

昨年度の事業は、処理場用地を買収したのみでありましたが、本年度は国庫補助金も決定せられ、団地造成が本格化する見込みでありますので、必要な工事費の追加をお願いしたものであります。

内容といたしましては、管渠工事につきましては、幹線排水路工事、処理場施設につきましては整地工事、最初沈殿工事等を計上しておりますが、これは団地造成工事の進捗状況ともみあわせながら実施したいと存じます。なお、そのほか三十八年度処理場用地買収費不足及び取付道路の買収費等のほか、今回の泊山下水道の建設に伴って職員三名の増員もお願いしております。

歳入といたしましては、国庫補助金、市債、県負担金及び一般会計繰入金等をもってあてたのでありますが、このうち県負担金は、泊山住宅団地の造成が公団から県へ委託して行なわれる関係上、事業費の支出はすべて県を通じて行なわれますので、公団負担金は県負担金として計上いたしました。

なお、処理場及び管渠についての市負担分も公団において相当期間にわたり立てかえ支出の措置が検討されておりますので、その場合は、債務負担行為の御審議をわずらわさねばならぬことになると思いますが、今回はこれらの取り扱いが確定しておりませんので、現在のところ県負担金として計上いたしました。

議案第百二十一号は昭和三十九年度四日市市市立四日市病院事業会計一回補正予算案でありまして、資本的収入

及び同支出二百一万三千円の補正をお願いするものであります。

資本的支出の主な内容は、薬局の改造費と、それに伴う備品類の整備費、現在使用している兼用自動車に緊急患者輸送車に改装し、別に乗用車を購入するための経費並びに今回看護婦養成所に対して国庫補助金が設定されたので人体模型等教材備品を購入するための予算を計上いたしました。資本的収入は、国庫補助金のほか、企業会計引継金から補てんしております。

議案第百二十二号は、昭和三十九年度四日市市水道事業会計一回補正予算案でありまして、市内下野地区山城町札幌町及び小山田地区小山町、西山町に簡易水道を建設するため事業費の追加補正をお願いするものであります。

建設する簡易水道の計画給水人口は、山城町、札幌町が市開発公社で計画しております朝明住宅団地の三千五百人を含めて四千八百人で、小山町、西山町が一千一百人となっております。

追加補正の主な内容を申し上げますと、資本的収入は、簡易水道建設に伴う企業債一千九百四十万円、国庫補助金八百六十八万五千円、地元負担金三千二百三十三万三千円計六千四十一万八千円で、資本的支出は、収入と同額の簡易水道建設事業費を計上したものであります。

なお、受託給水工事関係の職員四名が簡易水道建設工事の設計、監督等に従事するためこの人件費を資本的支出の簡易水道施設費に組みかえるため、収益的支出で受託給水工事費の人件費を百七十三万七千円減額し、収益的収入でこれと同額の受託給水工事収益を減額しました。

議案第百二十三号は、まず決算報告書につきましては、収益的収入が三億七千五百四十万四千三百五十四円で、そのうち営業収益が二億五千八百二十二万六千八百十六円、営業外収益が千三百五十五万五千五百六十三円、簡易水道収益が四百十二万一千九百二十六円であります。事業収益の大宗である水道料金は、昨年に比し一五・六%の増加でありまし

て、事業は順調な進展をしております。

次に、収益的支出は、二億六千七百七十二万四千二百八十八円で、その内訳は、営業費用二億一千八百三十三万八千七百三十六円、営業外費用三千九百四十九万一千二百二十一円、簡易水道費用三百八十九万四千四百三十一円であります。

その主な内容は、事業費用の大半を占める営業費用において予算単価と精算単価との相違等並びに必要最少限度の支出を行ないました結果、八百七十八万一千百九十四円の予算不用額となり、また、営業外費用において受託事業受注量が予定量より少なかったこと等により五百九十六万七千六百六十九円の予算不用額が生じ、また、簡易水道費用の運営費で八千九百円の予算不用額を生じました。従って、収入のほうが支出より千三百六十八万七千四百上回ることとなりました。

次に、期間外収入、支出は、過年度損益修正事項でありまして、いずれも未処分利益剰余金の増減を行ないました。次に、資本的収入は、二億七千九百九十万六千九百四十三円でありまして、本年度は才二期拡張事業の才四年度目にあたり、工事も順調に進捗し、計画を強力に推進するため企業債等の財源確保に努めました結果、昨年に比し四八・九％の増加となりました。

資本的支出は、二億九千九百七十九万七千四百九十四円で、地方公営企業法才二十六条の規定による繰越額二千五百一十一万円を加えますと三億二千四百九十万七千四百九十四円であります。

その主な内容について申し上げますと、建設改良費で三億五百一十一万四千二百三十円、償還金で千九百八十九万三千七百七十九円でありまして、昨年に比し二五・三％の増加となりました。

従って、収入のうち翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額二千四百万円を差し引いた収入額に対して支出

額が超過することとなりますので、当年度利益剰余金処分額、前年度繰越損益勘定留保資金及び当年度分損益勘定留保資金で補てんいたしました。なお、繰越事業費二千五百一十一万円につきましては、企業債留保分と当年度分損益勘定留保資金で補てんしたいと存じます。

なお、収入、支出とも予算額に対して少収及び不用額を生じておりますが、その主な原因は支出の主たる財源である企業債が申請額より二千万円減額されたことによる収入源とそれに伴う支出源であります。

損益計算書につきましては、収入額二億七千五百四十万四千三百五十四円、支出額二億六千七百七十二万四千二百八十八円でありまして、差し引き千三百六十八万七千七百七十四円の純利益となりました。

剰余金計算書につきましては、各剰余金の年間における増減を科目別に表示いたしましたして、当年度末処分並びに次年度繰越額を算出いたしました。

剰余金処分計算書は、前述の計算書により算出されました当年度末処分利益剰余金のうち地方公営企業法才三十二条才一項の規定により千三百六十八万七千七百七十四円を減価積立金として処分いたしました。なお、翌年度繰越額四百四十二万三千八百八十六円は、主として過年度損益修正措置のためのものであります。

貸借対照表につきましては、資産総額十四万二千九百十四万二千六百五十一円、負債総額五千三十六万四千四百六十五円、資本総額十三億七千八百七十七万八千八百八十六円となりました。

以上が、昭和三十八年度水道事業会計の決算の概要であります。

なにとぞよろしく御審議くださいますようお願い申し上げます。

議案才百二十四号は、工場地として昭和三十八年から石原産業株式会社が施工してまいりました市内石原町地先公有水面四万二千三百八十余坪の埋立工事がこのほど完成いたしましたして、先日、埋め立て竣工の認可が告示されまし

たので、地方自治法九条の五の一項の規定により本市の区域内にあつたに前述の土地が生じたことの確認をお願いし、当該土地を市内石原町に編入しようとするものであります。

議案第百二十五号は、さきに御決議いただきましたように羽津・海蔵及び橋北出張所の所管区域の一部につき住居表示整備事業を実施したので、それに伴う所要の改正をしようとするものであります。

議案第百二十六号委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正案は、施設の嘱託医師の報酬のうち児童福祉収容施設の嘱託医師の報酬について、実情を勘案し、改正案のように引き上げようとするものであります。

議案第百二十七号は、従来物品の購入については、各課からの購入要求のつど購入したのでありますが、各課共通物品のうち、一括購入することが有利であると認められる物品について、取得及び管理に関する事務を円滑にし効率的に行なうため基金制度による運用をいたしたく存じますので、ここに基金条例を制定しようとするものであります。

議案第百二十八号は、消防組織法の改正により、消防本部及び消防署の設置、位置及び名称並びに消防署の管轄区域は、条例で定めることにされたことと、従来南、北出張所をきたる十月一日から南、北消防署に昇格せしめ消防力の強化をはかりたく存じますので、ここに消防本部及び消防署の設置等に関する条例を制定しようとするものであります。

次に、議案第百二十九号四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定案について御説明申し上げます。

先般、非常勤消防団員等にかかる損害補償の基準を定める政令の改正をみ、また、災害対策基本法との関連上、災害に伴う応急措置の業務に従事した者に対する損害補償に関する条例を廃止し、従来四日市市消防団員等公務災害補償条例を全面的に改めることいたしました。

その内容の主な点を申し上げますと、損害補償を受けられる場合を次のように定めたこと。

一、非常勤消防団員または非常勤水防団員の死亡、負傷、疾病もしくは廃疾が公務によるものであるとき。

一、消防法の規定による火災が発生した時、現場付近にあるもので消防作業に従事した者及び災害の救急業務に協力した者が、そのために死亡し、負傷し、疾病にかかり、もしくは廃疾となった場合であるとき。

一、水防法の規定による非常勤の水防団員または水防団員の死亡、負傷、疾病もしくは廃疾が公務によるものであるとき及び水防に従事したことにより死亡し、負傷し、疾病にかかり、もしくは廃疾となったとき。

一、災害対策基本法の規定による災害が発生し、また発生しようとする場合において応急措置の業務に従事した者がそのために死亡し、負傷し、疾病にかかり、もしくは廃疾となったとき。

及び損害補償の種類等を定めたものであります。

議案第百三十号及び議案第百三十一号は、建設の地方自治法の改正に伴い、一部事務組合についても監査委員を置くこととされたので規約中にその規定を設けるものであります。

議案第百三十二号について御説明申し上げます。

本市の公共下水道事業は、昭和三十年五月認可を受け事業を継続してまいりましたが、このたび南部丘陵地帯の開荒に伴う旧山終末処理場を加え排水区の総面積五百二十六ヘクタールとし、市街地の環境整備をはかるため事業費を二十五億五千九百万円に修正しようとするものであります。

議案第百三十三号は、市内山城町、札幌町、小山町並びに西山町の各町は、従来飲料水の取水に多大の労力を要し環境衛生の面からも改善すべき状態にありますため、地元住民からも簡易水道の早急な設置を切望しており、伝染病等の予防及び生活様式の改善による高地区の文化生活向上を問うため、すみやかにこれを実現する必要があります。

幸い本年度の簡易水道建設関係国庫補助金及び企業債確保の見通しがつき、地元側の工事負担額につきましても確定いたしましたので、本年度簡易水道建設事業として着手いたしたく御提案申し上げた次第であります。

なお、総事業費の予定額は、両地区を合せまして六千四十一万八千円で、財源は国庫補助金八百六十八万五千円、起債一千九百四十万円、地元負担金三千二百三十三万三千円を予定しております。

議案才百三十四号工事請負契約案は、教育整備事業の一環である海蔵小学校の改築工事でありまして、指名競争入札に付しましたところ、金額四千八百七十八万円をもって市内相生通り大宗建設株式会社に落札決定いたしましたので、工事請負契約を締結いたしたくここに御提案申し上げるものであります。

議案才百三十五号は、現在すでに市道として認定されているものほか、その後の調査により未認定の内部地区の道路を市道として認定いたしたく提案申し上げたもので、お手元に配布いたしました参考図に示すとおりであります。議案才百三十六号は、大協石油株式会社及び日本合成ゴム株式会社等工場敷地として、市道としての用途を変更したもののついて廃止の認定をいたしたく存じ、提案申し上げたもので、お手元に配布いたしました参考図に示すとおりであります。

議案才百三十七号は、市道の一部についてその用途を変更したもののついて路線の一部廃止の認定をいたしたく提案申し上げたもので、市道の所在地はお手元に配布いたしました参考図に示すとおりであります。

以上、九月定例議会に提出いたしました議案について御説明申し上げますが、詳細につきましては、そのつど御答弁申し上げます。

暦のうえでは秋とは申せ、残暑なおさびしい折から、かくもほう大な議案を長期間にわたり御審議いただきますことは、まことに恐縮に存じますが、どうかよろしく御審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 議事日程に従いまして、本件に関する審議は留保いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次会は、来る二十四日午前十時に会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後四時二十五分散会

昭和三十九年九月二十四日

四日市市議会定例会会議録（第二号）

四日市市議会

昭和三十一年九月二十四日

昭和三十一年九月二十四日市市議會議事速記錄 第二号

○昭和三十一年九月二十四日(木曜日)午前十時四分開議

○出席議員(三十四名)

坂	宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	北	酒	米
上	崎	木	藤	横	川	野	田	井	垣	谷		村	井	出
長	春	愛	太	政	辰	久	妙		祐	安	与	昌	好	
十	吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	市	一	兼
郎	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	速
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	記

○欠席議員（三名）

○議案説明のため出席した者（四十八名）

市	助	助	収	秘	祝	産	厚	南
長	役	役	入	務	務	務	生	生
平	二	庄	川	岩	園	芝	平	中
田	宮	司	崎	野	浦	田	井	山
匠		長	佑	見	和	敏	清	英
矩	力	一	男	好	巳	郎	三	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君

田	中	須
村	島	縣
末	忠	総
松	勝	太
君	君	君

増	波
山	部
美	樫
一	太
君	郎

野	日	荒	矢	伊	大	前	加	山	高	笠	服	橋	永	谷	訓	味	山
崎	比	木	田	藤	島	川	藤	中	橋	田	部	詰	田	口	明	岡	本
貞	義	武	繁	泰	武	宗	定	忠	伊	七	昌	興	利	専	也	一	榮
芳	平	治	郎	一	雄	雄	男	一	祐	衛	弘	隆	一	九	男	郎	一
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

衛生課長	青少年課長	民生課長	耕地課長	農林課長	商工課長	資産稅課長	稅務課長	市民課長	管財課長	財務課長	總務課長	企画開発課長	秘書課長	副収入役	建設部長	土木部長	
土井久之君	國保義一君	村山仁人君	奧村野正和君	鷺野忠臣君	小西治郎君	伊藤正君	小林喜重君	喜田芳君	杉本治君	伊藤涼一君	天野正春君	六田猶裕君	佐々木晃精君	阿南輝彦君	村木喜代次君	鬼頭鉄郎君	城井義夫君

清掃才一課長	清掃才二課長	土木課長	都市計劃課長	下水道課長	調達契約課長
荒木三郎君	赤塚啓次郎君	杉本義広君	長谷川正逸君	天野助春君	小弥清君

消防次長	消防課長
金田妙弘君	大村尚明君

市立病院事務長	副事務長
三輪 喜代司 君	數田 裕 君

教育委員長	教育委員	管理課長	学校教育課長
杉浦西太郎君	山本軍一君	小林義喜君	水原好君

保健体育課長 舘 義 夫 君

技 術 部 長 山 本 文 雄 君

総 務 課 長 滝 伝 之 助 君

業 務 課 長 岡 本 林 衛 君

工 務 課 長 加 藤 弘 君

拡 張 課 長 美 濃 部 博 美 君

○市議会事務局(四名)

事 務 局 長 菊 地 英 也 君

議 事 係 長 小 坂 靖 君

主 事 佐 藤 正 俊 君

事 務 試 補 芳 野 孝 君

○議事日程 才二号

昭和三十九年九月二十四日(木) 午前十時開議

才一 一般質問

○本日の会議に付した事件

才一 一般質問

○議長(綿安吉君) ただいまから本日の会議を開きます。

本日の出席議員数は、二十九名であります。

本日の議事は、一般質問であります。お手元に配布の一般質問通告一覽表のとおり、六名の方から通告がまいっております。発言の順序を申し上げます。

一番、市政クラブ志願議員、二番、公友会山中議員、三番、民主クラブ坪井議員、四番、民政会増山議員、五番、社会クラブ喜多野議員、六番、公明会坂井議員。

以上であります。

なお、関連質問は、その所属会派の方に限り認めますが、関連の域を脱しないよう、また簡単に御発言願って、議会運営に御協力賜りますようお願い申し上げます。

また、理事者の答弁も簡明にしてくださいますようお願いいたします。

〔志願政一君登壇〕

○志願政一君 市政クラブの代表質問を仰せつかったんでありますが、昨日采少し体を痛めておりますので、極く簡単に代表質問として御通告しました五項目につきまして、お尋ねいたしたいと思います。できれば御答弁は、市長にお願いしたいと思います。

まず、才一項の港管理機構についてであります。四口市港管理問題に県・市の意見の相違となつて、長期にわたつて未解決のまま一時は、険悪な空氣をかもしたように思いましたが、最近に至りまして知事、市長の円満な話し合いのもとに共同管理、共同埋め立ての方針で妥結したということが新聞紙上に発表されておりましたが、まだ市長からは何んの話も聞いておりませんので、その後の経過をお伺いしたいと思ひます。簡単にお願ひしたいと思ひます。一点であります。

また、いよいよそれが実現し埋め立てするとすれば、どういふふうに埋め立てられるのか。場所を先日、千葉の石油コンビナートを視察いたしましたときに、かの地の約三千万坪の埋め立て実施中を見てまいったのでありますが、千葉のほうは一番先端で水深、約五メートルと聞いておりますが、当地は約二百万坪埋め立てるとしますと、その先端の水深はおそらく八、九メートルぐらいかと思ひますが、この埋立てについて、浚渫全部やられるのか、あるいは山の土砂でやられるのか、御参考までにお尋ねしたいと思ひます。

次に、港域についてお尋ねしたいのでありますが、このたび昭和石油のシーバースができます。これが約五キロ以上伸すと承知いたしておりますが、これは、特別トン税に深い関係があると思ひますので、広域拡張については、いろいろ御努力されておられることと思ひますが、これについて経過内容をお尋ねしたいと存じます。以上、港問題について三点をお尋ねいたします。

次に、市有財産管理についてお尋ねいたします。

この問題については、すでにわたくしも再三お尋ねし、また同僚各議員からも再三質問されて、市御当局もいろいろ御研究され機構も改革されて、これが管理に万全を期せられつつあると思ひますが、市有地の不法占拠はいまなおあとをたない状態でございまして、被災後、住宅難のときにできた不法占拠もいまだ処理されておられ

ませんが、それよりも現在、本年になってからもなお続々と市道の上に不法建築されつつある事実は、なんとしても許し難いことと思ひます。

これについて、新旧ともに御対策があればお聞かせいただきたいと思ひます。一点で終ります。

また、当地は石油コンビナートとして、全国にその名を知られております。おそらくオリンピックには全国各地から、名四国道を通じて四日市の現状を見て行かれると思ひますが、その国道沿いに、仮設住宅が相変わらずに建てられておる、放棄されておるといふことは、わたしは当地の恥ではないかと思ひますので、これについても何とか御処理する御意思はあるのかないのか、これをお尋ねいたします。

以上、二点をお願ひいたします。

次に、公害に対処する都市改造についてお尋ねしたいと思ひます。

市長は新潟震災以来、この問題について東奔西走されて、国・県に対し、また全国市長会におかれまして、非常な御努力をされておられることにつきましては、私たちは感謝をいたしておる次第でございますが、このことについて私どもは全力をあげて御協力を申し上げる次第でございますが、その後の経過並びにこんごの見通しをお聞かせいただきたいと思います。これが一点でございます。

次に、西浦区画整理事業についてお伺いいたします。

この事業は、すでに五年ほど前から立案、研究されて、地元の間接者の双手を上げて御賛同しておられました。本年の当初予算のときに、市長の議案説明の中に、「事業の認可手続が遅れておりましたが、ようやく認可の見通しもつきましたので、認可後、特別会計を設置して着手することとし、今回は区画整理審議委員会委員の選挙費用を計上したい」というように説明されて参加されておりますが、現在どうなつておるのか。またこんごの見通しについて、

どういうふうになりますか、お尋ねいたしたいと思います。

次に、交通安全対策について、お尋ねいたします。

極く簡単にお尋ねいたしますが、最近の交通地獄については周知の事実でございまして、その中でも、たとえば、国道一号線の阿倉川、羽津富田方面の場所、あるいは、追分二十三号線の三叉路等、連日、自動車事故が続発しておりまして、付近の住民はその掛害、あるいは通行人は非常な不安をもっておるわけでございますが、一刻も油断ができませんというような状態でございます。

このような状態は全市各所にありますが、この問題について市長はいかにお考えになっておられるのか、どういう対策を取ろうとしておられるのか、この点につきましてお尋ねいたしたいと思います。

次に、財政問題について、簡単に尋ねいたします。

非常に発展した当市の現状について、逆に財政が私どもの考えとしては苦しくなると思うのでありますが、最近の返済の時期もまいりまして、来年は六億近い借金を返さなければならぬということをお聞きいたしておりますが、このようなときにやはり必要件費はますます増大されて、これを償還することは出来ませんし、事業の面につきましてもなかなければならぬことばかりだと思っております。

しかし、収入の面は余りふえないように思いますが、今後この一年、二年じやなくて三年ののち、あるいは将来につきまして非常に心配でなためのでありますが、これについて市長の御清想を承りたいと思います。

少し間延して最後に一言お尋ねいたしますが、すでに当初予算のときに確定いたしました監査委員の選任も、その後まだ決っておらないように思いますが、そのことについてはどのように処理されておりますのか、お尋ねいたしたいと思います。

以上十点、まことに簡単でわかりにくいかもしれませんが、お尋ねいたす次才であります。

どうぞよろしくお願いたします。

〔市長(平田佐矩君)登壇〕

○市長(平田佐矩君) 専からお答え申し上げたほうが適當だと思っておりますことから、お答えさせていただきます。

港湾の管理問題でございますが、これにつきましては御承知のとおり、市と県との間にいろいろのいきさつがございますが、要するところ、あの二百方坪をどういうふうに充実にしたものにすること、また、あの埋め立て区域というものが、いかに市にとって、あるいは県にとって有効なものにするかということが、県にいたしましても市にいたしましても課せられた至上的な点だろうと思っております。

これにつきまして、いろいろ知事と御協議しまして、何んとかしてこれは一つ協力して立派なものに作り上げようということから考えまして、管理問題につきましてもいままでの考え方に必ずしも固執しないという行き方で行こうと思っております。

また、埋め立て問題についても必ずしも今日までの態度に固執しないで、双方お互いに融和しえられる所を見つけて、大きな見地から一つ善処しようじやないかということに大膽的な考えがまとまってまいりました。

したがって、そうするには管理問題をどうもって行くか、埋め立て問題を、たとえば公仕のようなものを作ったりうまくやって行ったらどうだろうというような相談が持ち上っておりますので、非常に長い間かかっておる問題でもありますし、将来にも非常に影響するところが大きいので、市長と知事との間でたび重なる懇談をもち、おるのでございますが、部分的なことになりますと、やはり専門家の意見を徴する必要がありますので、そういう意見をいま徴しております。

そして大綱と、それを実現せしめるのに支障を起こさないようなポイントをまとめ上げまして、その上で県会、市会におはかりを申し上げて、スタートを切ろうじゃないかということで、せっかくたたいま非常な懸命な努力中でございます。

ただいまのところは、部分的にはいろいろの問題がありますが、大綱といたしましてはだいたい穏やかなコースをたどっておるようだと思いますので、やがてお願い申し上げなければならぬときがくると思います。それまで御猶予を賜りたいと思っております。

それから、港域の問題につきましては、これは例の入港船舶のいろいろの関係がございますので、是非とも大きく実現したい。

それから、埋め立てについていろいろの御意見がございますが、これはやはり専門家の方々の意見と、それから将来あそこを開発いたしまする方々の見解にもよることでございますが、今日の技術的方面からまうてまいりまして七メートルあるいは八メートルというようなことは、さまで驚くに足らない深さであろうというようなことでございますので、これらにつきましても新しい大規模な技術を取り入れまして建設費の軽減をはかって、そして工場の進出に支障をできる限り起きないようにもって行きたいと、こういうふうにご考えておるような次でございいます。

その他の問題につきましては、それぞれ担当の者から一応御説明せましてその上でさらにお答え申した方がいいことがございましたら、させていただきたいと思いますが、非常に重要なことは、この財政問題でございますが、これは御承知のとおり、今、来年あるいは、さらに年というのが大きなきわんになっておるわけでございますが、やはり市の発展に伴いましてそれに要するところの公共投資と申しますか、それと税収とのこの歩みかたが必ずしも一致いたしません。

そこで市といたしましては、できる限り財政支払い面につきましては、平均をとったやり方に訂正をして行かなければいかぬというような場面も出てくると思いますが、同時にまた、市のほうのいろいろのやっておりますことに對しまして、日本の経済、財政方面があるときには沈滞し、あるときには伸びを示してくるだろうと思いますが、これはいづれも今日、ただちに的確に把握することのできないものでございますので、それ等の件と勘案をいたしましてできる限り、この市の財政の平均化した処理方法と、よく平衡のとれたやり方に思いをいたさなければならぬというふうにご考えておるような次でございしますが、必ずしも期固を要しませんが、しかしまた一面におきまして、必ずしも無条件の樂觀を許しませんので、慎重に對処して行きたいと、こういうふうにご考えていただいております。

〔管財課長（杉本治芳君）登壇〕

○管財課長（杉本治芳君） 市有財産管理につきまして、御答弁申し上げます。

ただいま御指摘になりました、道路の不法占拠でございいます。

従来、方々に不法占拠されたまま放置してあるものがございますが、いかにしてこれを撤去させていくかというところで苦慮しておるのでございますが、道路の緊急の度合いもございまして、急を要するものから順次手がけて行きたいと考えております。

現在、塩浜のほうからよく通報いただくのでございますが、通報あり次で出かけてまず建てさせない、基礎をやりかかったところを押えてすぐに撤去させる、まず一に建てさせないということを、才一の目録において増加を押えておるような次でございいます。

従来のものでございましては塩浜・大治田線の二十五メートル道路の改良工事がございまして、これを才一に取り

組んでおります。

目下、その調整に當っておるんですが、これがかたづけましたならば、これを基本にいたしまして順次その方式によって処理していきたいと考えておる次第でございます。

〔助役(庄司良一君)登壇〕

○助役(庄司良一君) 才一点の御質問のうちでありました港域の拡張でございますが、市長が簡単に触れられておりますが、御説のとおり、市といたしましても市税を口滑に適用していく上から申しまして、シーベースが利用される場合に、これが港域外であるということは非常に支障が感ぜられるのでございます。

さらに、こういった有力な施設が港域外に出来るといことは、関税面から申しましても港の管理、運営の面から申しましても一般貿易、検査等々、各方面にわたりますして支障があるわけでございまして、この施設を港域内に包含するというにつきましては、国の機關、県・市を含めまして、全機關がござって賛成のもとに拡張方を申請いたしますことに決定いたしております。

申請するにつきましてその前提といたしまして、関係漁業組合の同意があることが、申請を口滑に採択され、これが法制化されることに好都合なのでございまして、関係漁業組合と話し合いをいたしまして、楠町の漁業組合を除きまして、富洲原、富田、四日市、磯津、以上の漁業組合は、同意者をすでにいただいております。

残りの楠町につきましては、楠の町長とも話し合いをいたしまして最近の中に必ず同意を求めることにするからというような状況でございます。

それで、これは非常に急ぐことでございます。法律の改正にもなりますので、どうしても通常国会までに手続を完了させたい、こういう考えでございますので、申請書は直ちに東京のほうへ発送するという手だてで今日進んでおります。

すから御了承いただきたいと思います。

次に、都市改造の問題でございます。

この点につきましては、去る六月議会におきましてもいろいろと論議され、市長からも答弁があったわけでございますが、六月末の全国市長会に緊急請願案として、四日市から都市改造の問題を提案され、これが採択されたことは御承知のとおりでございます。

自來、私どもはこれをもってよしとせず、関係各省、通産省、厚生省、建設省、経済企画庁こういった関係各省にすでに数回、陳情をいたしまして関係の責任者と懇談を遂げております。さらに、八月二十日、当地区関係の国会議員の方々に御参集いただきまして昼食会を開きました。

その節、目的はこれ一つに絞りました是非とも国会の先生方の御協力も仰がなければこの問題は非常に重大な問題でございます。単に事務的にのみ押し進めるといことは困難であろうかと思うので、是非とも先生方からもこれについて御協力を願わしいというお願いをいたしました。

この席には知事も市長も同席いたしましたのでございます。国会の皆様はもっともであると、必ずこれについては協力して実現に努力しなければならぬ、ついては、窓口は四日市に關係のもっとも深い山手さんをお願いしよう、現在外遊中で御不在であるが、欠席裁判としてこういうふうに決めたい、政調会については、斎藤参議院議員が、副会長でもあるので政調会にも働きかけよう、各省に対しては、それぞれ關係の深い向きから働きかけよう、こういうことでお別れいたしました。

この問題につきましては、御承知のように当初から公普という面が全面に出ておりまして、産栗公普の面から通産省、環境衛生面の点から厚生省、この二省が中心になって政府調査団を作ってくれ、数回当地に調査にも来てくれ、

さらには黒川調査団という有力な調査団を結成せられまして調査をされ、報告されていることも御承知のとおりでございますが、都市改造ということになりますという、単に通産、厚生両省のみをもっては、これはまことに申しにくいですが、心もとない感じがいたしますので、去る九月十日東京事務所連絡をもとめまして、とくに建設省の幹部と懇談をいたしたいという申し出にに応じてくれたものですから、急遽、私がまいりまして官房長、都市局長、計画局長その他関係課長と十分懇談の時間を取っていただきまして、忌憚ない話し合いをいたしました。

都市計画というけっきよく問題になるのであるから、建設省がこの問題について積極的に取り組んでくれないことには、私どもとしては多くを期待できないのだ。是非とも自体の非常な緊急性に対して理解をしてくれるようお願いいたしました。

前二回行っております、これは三回目なんですが、建設省との話し合いは、非常にこのたびはよくわかってくれたようでございました。これについては、国会の先生方の働きかけも非常に役に立っているように感じたのでございますが、この問題は非常にむずかしい問題であるから、建設省としても窓口を作ろうと、そして十分な連絡のもとに資料、その他を要求したときは、直ちにくれるように、ある一定の粗案に達するまではお互いにいま一つ全力を尽して協力し合いながらやっていこう、その上で国のやるべきこと、県でやるべきこと、市のやるべきこと、さらに企業みずからが責任を負い、なすべき負担について等々、いろいろな問題があるわけでございます。こういった点についての考え方を統一しようではないかと、こういうことで別れてまいりました。

帰ってから今日まで、極くわずかな期間でございますが、建設省のこういったことについての考え方が、極めて積極的になったということのほかに通産、厚生両省におきましては、産業経済及び環境衛生間からこの問題を当初から強く取り上げておりまして、来年度の予算要求の由に厚生、通産両省の共同提案といたしまして、社会開発事業面の

構想が取り上げられております。

この内容をなすものは、社会開発とは公害防止と読みかえていただければよくわかるのでございまして、内容は公害防止、公害予防になっているようでございます。

これに対して、私どもは非常に期待してゐるわけでございますが、内容は当初、新産業都市、あるいは工業盛備地域等のこんご発展するものに対して、既成都市のような苦しみを味わわないために、予防的措置を含めるということのように私どもは願っております。内心非常に賛同していただけてございます。

と申しますのは、今日までさらに現在、日本経済の軍大な役割を果たし、国家経済に寄与している、たとえば四日市のような既成産業都市が日々、公害に困っている、地域住民がこれの被害を受けている。しかるにこんごのものは、こういう苦しみをしないようにという考え方も、もっともであります。現在苦しんでいる者に対して、なぜ手を差しのべないかという考え方を私どもは、この話し合いの間に強く主張しておたわけでございます。

数日前、東京事務所のカヤツナした情報の連絡を受けたのでございますが、当初の考え方はすっかりひっくり返されました、四日市がもっとも悩んでいた既成産業都市の公害除去を重点施策、第一に取り上げる社会開発事業団構想にかわったという連絡を受けておりまして、非常に喜んでいる次第でございます。

東京、大改この大都市につきましては、すでに社会開発が進められておりますが、われわれのような産業都市に対して、こんごは積極的な国の施策が行なわれるように私どもが念願していることがやっと実現しつつあるように思われるのであります。都市改造、それ自体についての建設省の考え方も極めて積極的になっていただいております、こんごともこの問題については、市政の最重要の問題といたしまして、絶えることなく全力を尽くしていききたいと存じております。御了承いただきたいと思ひます。

以上、経緯及び現状について御説明申し上げます。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 仮設住宅と交通安全の問題につきまして、お答え申し上げたいと思います。

仮設住宅のことにつきましては、この議会におきましても、教次、御注意をいただいております。私たちは、できるだけのことはしたはずですが、何ぶんにも市有財産という面ではなくして、いわゆる都市改造の問題であり、また、人の生活権に関する問題でありましたので、非常に延引しております。

昨今とくにあの名四の沿線が御指摘のように、人目につきやすいのでありまして、市としても発展の途上、公園のような施設をするにふさわしい土地だということで十分感じておるようなわけでありますので、この問題には強力に推進をはからなければならぬ事態に立ち至っておると信じております。

従いまして、本年の予算におきまして不良住宅の改造としまして、この地区に目標を定めまして、目下その土地の選定が行なわれておりますが、かような促進の方法のほか、他の有力なる促進方策も必要であるということを感じておりました。ゆゑゆる研究をしております。それらを合せまして、こんご努力いたしますのでオリンピックの年に、それまでには間に合なかつたのでありますが、この年を契機といたしまして、この事業は著しく進展するものと私たちは期待しておる次第であります。

次に、交通安全であります。

本市が交通安全都市宣言をしましてから努力してまいりましたが、反省いたしますとこの間におきまして感じましたことは、従来の成果は、おおむね取り締りなり訓練なりの方面において成績が上っており、しかしながら、施設方面などにおきましてはまだ、通用しないものがあるのではないかと、この点がまず一点であります。

この点におきましては、道路の面がありますし、乗りものの面もあります。また、それらの相関関係の点三の面もあります。

道路の面につきましては、さきに訪米の視察便節一行はいずれも、かの地の道路の政策を学ぶべきを感じられまして、四日市にも道路がこんごは著しく力を入れる必要があるという感じをもってお帰になりましたので、市の埋事者におきまして、道路の問題にはこんご、真摯な考えを反映するようにしたいと、こういう希望をしております。乗りものにつきましては、車庫を持たざる者は自動車を持つべからずという原則が、この建て前になりましたのでこの点も著しく近く変わってくるものと思ひます。

両者の相関関係におきましては、御案内の車輛制限令がございますが、本予算には、この九月予算には、まだ計上するに至ってはおりませんが、四十二年までの間におきまして年次計画をもって、あるいは対象を作り、あるいは一部の改良拡充をしなければならぬことを感じております。

そういう点におきまして、こんごは、交通安全の方法を一つに横らないで多元的に、あの手この手によって減殺していくという、危険を減殺していくという建て前をたてて考えております。

〔都市計画課長（長谷川正逸君）登壇〕

○都市計画課長（長谷川正逸君） 西浦のその後の事業について、どうなっておるかということですが、ただいままでの経過を簡単に申し上げます。

地元の皆さんから要望がありまして、当初三十五年十二月二十七日付で二十八万五千坪の区域の決定をみました。その後、堀本の火葬場付近において約二万五千坪の区域の拡張をみるために、改めて三十七年三月二十六日、三十一万二千坪の区域に変更いたしました。

そういった区域の決定をしまして、三十七年の六月に一応二十七メートルの道路を幹線といたしまして事業を実施すべく設計の完了をしまして、一応建設省のほうへ出すところまで、もっていったんでございますが、四日市の将来を考えますときに、駅裏の二十七メートルではどうしても満足すべきものではないという市長の強い御意見が出まして、駅前と同じ七十メートルに変更するよう御指示がございまして、あけまして、この七十メートルの事務手続を完了すべく努力いたしたわけでございまして、この変更が本年の三月二十七日付、建設省の告示で決定をみました。

御承知のように、七十メートル道路の幅員を構成いたしました場合に、県立の工業高等学校の一部コンクリート構造の建物が支障になりますので、これらの建物の支障につきまして、県と県の教育委員会等と十分、相談を願ひましてできる限り、その鉄筋の校舎につきましては、避けてもらいたいという強い御意見が出まして、最小限度の南北にあります建物を一部かかりますが、そういった状況のもとに、県市がそこで将来のことを考えて七十メートルの道路にするのなら、やむをえないということで、この七十メートルの幅員については、県も同意をいたしたわけでございまして、たがいま申し上げましたように、三月二十七日に告示ができ上りましたので、法の定むるところにより、四月の五日から十八日まで二週間この事業の内容につきまして関係方々の縦覧に供したわけでございます。

この間、百十名の方々がこの事業の内容につきまして、詳細にこちらのほうに閲覧に見えて説明をいたしたわけでございます。

この十七日でございましたか、駅裏に見えます岡本さんから、七十メートルを作ることについては、われわれとしては反対ではないんだが、将来七十メートルを作った場合の駅前広場はどういうふうに計画をされておるんだろうかという御質問がございまして、るる説明はいたしましたんでございますが、将来私どもが、その戦災復興の区域に

入っておられる民有地、約一千七百七十坪でございしますが、この方々が、七十メートルにふさわしい駅前広場を作ります場合には、さらに移転をしくちやならぬという状態になってくるから、これらの点について市は西浦の事業をやることについて十分に一つ検討してもらいたいという強い要望がございました。

で、一応御説明はいたしましたしして納得されたようでございましたが、日が収めまして五月二十八日でございました。岡本さんはか十四名の陳情がございまして、お手元にあります要領書が出されてまいったわけでありますが、まともに申しますと駅前広場を作ります場合には、その前にわれわれの行き先を決めてもらいたいということでございました。

で、将来駅前広場を考えます場合には、当然工業高校の用地のところと現征の二千七百七十坪、十七名の方々をもつて行くことが望ましいとは思いますが、現在の西浦の事業の中には、この七十メートルの広場を造成するということは切りはなして私どもは考えて今日まできたわけでございまして、その点につきましては県も建設省も御承知のことだと思ふんではございますが、そういうことについて本人達が県と建設省に行かれました陳情なさいましたこととございますので、県と建設省にもこのことについて、いろいろ本省のほうからも照会もございました。

私は先般、井上区画整理課長にもあいまして、この事情を申し上げて来たんでありますが、建設省としてはこの問題についてはそう深入りして介入したくないから地元と、市と、県とよく相談をしてこういったことの申し出のないようにしてもらいたいという強い要望がございましたので、いろいろ折衝を重ねておるわけでございますが、要はこういった大事業をやることでずから、当然いろいろな諸問題が指摘されることは覚悟はしておりますが、工業高校の移転という問題とそれから、駅前広場の造成の問題は、この西浦の事業を進める上において並行して、この問題を処理してはどうかというのが私どもの始めからの所存でございまして、いろいろの問題がありまして並行して進めて

いきたい、こういうことを再三申し上げて、私も数度、西浦のこの事業につきまして西浦の方々と会っておりますが、なかなか肯じないという状態でございます。

こんどにつきましても、もう事務的な進め方におきましては一応売りましたしておりますので、こんどもこの工業高砂の用地の確保について、当然、支障となります建物等につきましては、県とも十分、打合せを願って、その上で仕事を進めて行くことが必要ではなからうかと、こういうふうに考えております。

簡単でございますが、本日までの経過を申し上げます。

〔総務部長（岩野見齊君）登壇〕

○総務部長（岩野見齊君） 財政関係につきまして市長の先ほどの答弁に少しつけ加えさせていただきます。

将来の財政の見通しにつきましてはの大きな要素は、先ほど志願議員の申されましたように支出におきましては人件費及び予算外の義務負担の返済であります。

収入におきましては、税収入の見通しでございます。

そしてこの二つをさらに要約いたしますときには、市が将来、投資的な経費、いいかえますならば事業費にどれだけ回す余裕があるかということに思われると思うのでございます。

精密な検討を加えたわけでもなく、また将来経済変動もあることもございますから、もちろん大きくこの見通しは変わることもあり、また誤差もあることは思いますが、仮りに現在のままの状態が続くと仮定いたしますならば、本年度、すなわち昭和三十九年におきましては、投資的な経費は当初予算におきまして、三億三千万円の計上がなされておったのでありますが、来年度以降の数字的な考え方を検討いたしますと昭和四十年におきましては、だいたいこの三分の二程度の投資的な経費しか見込まれない。

もっとも本年度の三億三千万円と申しましても、一億四千万円は財政調整基金から算入しておりますので、実際には今年度は二億二千万円しか余裕がなかったわけですが、来年はさらに二億四千万円を割る数字しか見込まれない。

昭和四十一年度におきまして、だいたい三億四千万円程度、それから昭和四十二年になりますとだいたい現在よりは五割程度の投資的経費の増加が見込まれると、さらにその次の四十三年に現在の七割程度の増加が見込まれるとこういった数字が出てくるのでございますが、先ほど申し上げましたように、これはいろいろな細かい計算までは検討しておりませんし、経済変動も多いことでございますから、大きく変わるということだけは、あらかじめ御承知願いたいと思っております。

こういった状態でございますので、ここ二、三年とくに来年、再来年は非常に財政的には苦しいのでございますけれども、ただ支出の面におきましては苦しいからやめるといった考え方ではなく、十分弾力性をもちまして支出についての勘定を考えた上の処置を取るべきだと思います。

先ほど、市長も申されましたようにことばをかえますならば、平均した考え方という考え方でここ数年の財政は取り扱っていかねばならないと思うのでございますが、ただとくにこういった苦しい状態でございますので、助成金及び分担金等の取り扱いにつきまして十分慎重に支出を考えなければいけないと、かように考えております。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午前十一時休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

午前十一時十五分再開

市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 監査委員のことにつきましては、この前にもすでに申し上げましたように、早急にお決め申し上げたいとおっしゃいましたが、監査委員の中で、ちょうど霞ヶ浦の問題が起りまして、その重役をや、っていただくというような問題が起りまして、それもちょっと訂正しなくちゃならぬというようになり、また監査役の数があるいはもう少しふやしていただいて、やり方を少しく強化したほうがいいんじゃないかというような御意見も出しましたので、できる限り早急に一つ取り決めさせていただくようにいたしまして、御提案をさせていただきたいと、こう心得ています。

〔志積政一君登壇〕

○志積政一君 いろいろと御丁寧に詳細にわたりまして御説明いただきまして、ありがとうございます。どうか港の機構問題につきましては、一日も早く将来に禍根を残さないように善処されますことをとくに要望いたします。

港域の問題につきましては特別トン税にも関係がありますので、おそらく埋事者の皆さんには御才ないとは思いますが、よろしく善処されるよう要望いたします。

市有財産管理につきましてはいろいろと御説明いただきましたが、従来たびたびお尋ねしており、まして御説明は相変わらず同じようなことのように感じられますが、こんど機體改革もされましたが、その後余りなんでしょうか、本当の真意はなさそうに思いますが、私しろとが考えますのに少なくとも、不法占拠係くらいでも置いて専念するというような御意思があるのかないのか、この点を重ねてお尋ねいたしたいと思えます。

仮設住宅につきましては、いつまでも捨てておけないと思えますので一日も早く解決されるよう、切にお願いをいたします。

都市改造につきましては、先ほど助役からる詳細な御説明いただきましたが、私ども地元の関係者いたしましたしては、先ほどお話しいただきました内容につきましては、全体的に御協力は申し上げますが、その間、きょう明日にも暴発が起るか、あるいは、悪臭が出ないかと戦々きようきようとしている現状でございますが、すでに新潟地蔵以来、各所に新聞記事をにぎわしております暴発、あるいは塩素ガスの悪臭騒音等が起りつつあるのであります。

この段階になって全く明日をも知れない状態に、市民はおののいておるのでありまして、どうかこれに対する対策があるのかないのか、それに御構想の実現までの間に、何かの御所策があるのかどうか重ねてお尋ねいたしたいと思います。

西浦地区の問題につきましては、先ほどより課長からる御説明いただきましたが、非常に困難な問題もあらうと思えます。しかし、移転地問題で云々されることはあれは区画整理であって換地清算されると思えますので、おそれなく解決のめどがあるんじゃないかと思えますが、課長は過去に都計の古い経験者でありますので、どうかこのペテランがそう一そう御努力されまして、これの早期解決を是非お願いしたいと思います。

地元の関係市民は家を建てることも、あるいは農地の増産も都計区域であらうかということで、だんだん減産するような状態におかれますので、一日も早くこれに対する対策を要望いたします。

次に、交通問題でございますが、先ほどいろいろ御説明いただきましたが、まことにありがとうございます。

そこで、さて現在、交通緩和の一環として何か施策のうち、御計画があるのなら御発表いただきたい、こう思います。

財政問題につきましては、詳細御説明いただきましてありがとうございます。

市はおそらく破産ということはないでしょうが、破産に近いような状態におかないように、くれぐれも要望いたします。

先ほどの三点だけ重ねてお尋ねいたします。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 新設いたしました管材課のその後の事務の模様をみますというところ、重点とすべき事が、不法占拠のはかにもございまして、それらを含めまして取りあえず若干人数を彼此融通してでも増員しなきゃならぬということを痛切に感じております。

それらの職員の増員を終えまして配属の模様によりましては、かなりの係りの設置を改めて検討するような段階にくるかと思っております。

さようなときには不法占拠係につきましても、一応考究したいと、かように考えております。

次に、交通安全につきまして、こんごの対策としまして一応申し上げましたが、予算的な措置をしなければやれない面が多々ございますので、十分その辺を検討いたしまして、こんごの事態に対処するためにできる限りの措置をしたいと、かように考えております。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君） ただいまの交通安全対策問題でございまして、一番当初の御質問の趣旨をお聞きしておりますが、国道という問題が重点的な御質問のように私感じておったんですが、国道の交通の問題につきましては、現在二万台越しまして三万台に近かざっておりますが、非常に憂慮すべき状況になっております。

これにつきましては、根本的解決は目下まだかなりの日数を要しますが、一応国のほうでも検討されておるわけでございます。

まず一番に、名四国道の延長という問題でございしますが、この名四国道は四十三年を目途といたしまして、現在の相生通りから塩浜の石原産家の住宅の付近まで伸すと、それから通称合成ゴムの、合成ゴム道路でございしますが、市が作りました合成ゴムの南側の道路を利用いたしまして、一号線と二十三号線に連絡するわけでございます。

そういったしますと、そこに一つ問題が起きますのは追分付近の交通の解決でございまして、これが現今でも非常に憂慮される問題でございまして。

数日前も四日市の市街地の中までたまった車が並んだ状況がございまして、非常にむずかしい問題がございまして。警察部当局、その他安全協会という御立場からいろいろ便利願っております。

ところが、信号機その他では解決がつかない、むしろ信号機がないほうがいいんだというような非常にむずかしい場所でございます。

これにつきましても、やはり名四国道の四十三年度目標の開通とに遅くれないように、やはりそういった時期を目標として追分付近を改造しようということを建設省が御計画願っております。

これはかなり計画の域を前進いたしましたして、現在十月一日から調査、測量に入りたいと、調査のために現場の立ち入りを承認してくれという書類を市のほうは受け取っております。

聞くところによりますと、数億円の規模をもって、一大改革をやる計画で、来年度から相当額の予算を予定されまして、計画を進めております。

その構想を承りますと、現在の国道一号線に三重交通、三重電気鉄道との平面交差がございしますが、これを除去す

る、あるいは逃げる構想でございまして、鉄道と交じわらないように、鉄道の東側で内留川の橋まで新しい路線を計画されております。そういったしまして、この一号線を主に考えまして、合成ゴムから名四国道へ流そうと、すなわち現在の二十三号線と平面交差をせずに自然的に名四国道のほうへ入るような構想の設計が考えられております。

そういった構想は、現在の四日市の市内、あるいは富田、海蔵、桑名という現在の一号線の交通状況は、各所に改造を要するところもございしますが、非常に困難なところがございしますので、一応これはこんごの検討問題といたしまして、車を現在の一号線を通さないようにしよう、これを全部名四国道のほうへ廻そう、それによって追分から四日市、富田、桑名間の交通量を減らそうと、こういう構想でございします。

従って、名四国道が四十三年に合成ゴムの道路まで取り付き、追分の交通整理の状況が解決をつきますと市内の交通に非常に寄与するのではないかと、こういうように考えております。

次に、もう一つ大きな問題は、名四国道でございまして、中京圏から大阪圏、近畿圏にバイパスをする車は、四日市に用事がないのでございしますから、なるだけ四日市の交通を乱さない格好で早く通って行っていたきたいということにおいて、名四国道が非常に意義があるんでございします。

これにつきましては、建設省の再検討の五カ年計画には現在まだ折り込んでないでございしますが、いままでの経過からいたしまして近く路線も決定され、着工、軌道にのせていただくものと信じておるわけでございしますが、現在、亀山、関から大阪、天理の間は、着工中でございします。

これは公共事業として行なわれておるのでございしますが、四日市付近におきましては、道路公団による有料道路の計画が現在、計画をもって調査されておるわけでございします。

公共道路と有料道路の問題については、いろいろ御意見もあるとは存じますが、いずれにいたしましても一日も早

く着工をお願いいたしまして、こういった国道幹線の交通に寄与するようにしていただきたいというふうに考えております。

で、ただいまの二点を申し上げますが、一応名四国道の問題については、計画の段階ではなしに、軌道にのりつつあるということとございしますが、名四国道の問題はこんごいろいろ市会の諸先生方の御協力もお願いいたしまして一日も早く実現の軌道にのるようになりたいと思います。

〔消防長(竹内鉄雄君) 登壇〕

○消防長(竹内鉄雄君) 社会開発が行なわれるまでの現段階において防災上の計画があるかないかということだと思いますが、消防の立場からお答え申し上げます。

現段階におきましては、工場災害を未然に防止することよりはかかないと思っておりますが、この工場災害の原因を考えますときに、まず第一に施設の不備ということ。

その次には完全にはできておったけれども、のちに至っていろいろ故障が起るというような場合、それから工場従業員の運転のミス、さらには下請業者の外部の者の作業上の不注意と、こういう四つの点が工場災害の主なる原因であらうかと思うのであります。

それで防止するために、おのずからこの四つの原因を排除する考慮をすればよいのではないかと考えますので、工場の安全関係の方々といつも寄り合って、お互いに災害防止に努力するためには、たえず施設の点検を綿密にして故障箇所が発見につとめるということ、それから従業員の教育訓練をたえず行ないまして、そしてミスをなくするということ、それから外來の下請業者の工事につきましては、綿密な監督をしていくということ等を申し合わせもし、指示もいたしまして、そして事故のないような工場運転をやっていたことに努力いたしております。

〔志積政一君登壇〕

○志積政一君 先ほどの三点につきまして詳細に御説明をいただきました、まことに有難うございます。
不法占拠のことにつきましては、助役のお話だけでは増員して早くやるということをおっしゃられておりますが、現在本当に毎日のように不法占拠をしつづありますので、私も地元にもっておりまして、気が気でないというような状態でございますので、どうか一日も早く関係官庁とよく御相談いただいて、早急に善処されることを要望いたします。

交通問題につきましては、先ほど来いろいろと詳細に御説明いただきましたありがとうございます。どうかこの国道一号線問題につきましては、できればバイパスの路線を作っても緩和する方法を将来ともにお考えいただきたいと思ひます。

災害につきましては、その間にいろいろと先ほど御説明いただきましたが、私も地元民といたしましては現在でも逐次、危険な倉庫、あるいは火気厳禁と導いたようなものが身近にだんだんと建ってまいりますので非常に心配いたしておるわけですが、どうかいろいろの面からは非御注意いただきまして、災害を未然に防ぎますように是非とも御協力くださいますことを切にお願ひいたしまして、私の質問を打ち切りたいと思ひます。

どうもありがとうございます。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（鶴安吉君） 藤谷議員。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 志積議員の質問に関連いたしましたので、二点お尋ねいたします。

港湾管理問題につきましては市長からいろいろお話しがございましたが、まだもう少しつき進んでお聞きしたいこ

とがございます。

というのは、県・市がいろいろ過去のいきさつにとらわれて、またいろいろな関係から必ずしも実施しなかったところがある、知事の発表りように大衆的な立場に立って四日市の港の将来を考えてそういう相廻はやめて、手を握りあって四日市港の発展に尽くしたい、市長のいまのことばをお聞きしますとこの契付けがはっきりされまして、一つ手を組んで早く四日市港の完成を期したいということばでございました。まことにけっこうでございます。

しかしながら、九月の県会におきまして知事は港の管理問題については、だいたい県、市の了解をえたので具体的な方法については、県会にはかつて決めたということをしつづけます。知事は港の管理問題と埋め立ては不可分な問題である。これを切りはなしては考えられないとはっきりいっております。

もしもそうだといたしますと、この九月になにを知事は提案し、なにを了解するのであるか、たとえばそのことについては市と相談があったのか、埋め立てに関連し、また管理機構に關係しない取決めならよろしいが、もしも四日市に被害がある問題であれば事前に連絡し、相談して一つの案を出すべきである。

ところが、その案が出るのであったなれば市と相談があったのか、市長はこのことについて、よく相談されたのか、また理事者は参画し仕事をされたのか、この点がまだはっきりしておりませんので、もしもそうだとすれば、この説明をお願いしたいと思ひます。それが才一点。

才二点の交通対策の問題ですが、いろいろ交通の安全措置について御答弁がございましたが、さらにつき進んで、しからば予算の問題もございしますし、市は簡単に切り切つてこれを防止することはできませんが、しかしたとえば問題の多いことについては、施策としなにかをやつていき、少しでもそれを緩和していくという方法があろうと思ひます。

たとえば、国道一号線の小学児童の問題、交差につきましてはいろいろ各地から陳情がきております。非常に危険であるから陸橋を作ってほしいとか、地下道を作ってほしい、いま出ておるだけでも三つ、四つ出ておりますが、さらに五つも六つも追加が出てくる公算が強いんであります。

そうしますと、それを先にとっていいかわからなくなってくる。それでは困るので、たとえば重点的にどこをまずやりたいと、どういう方法でやるとか、だいたい七、八百万の予算で四カ所ぐらい作るとかいうことを聞いておりますが、しかし具体的に早くどこから手をつけるべきか、さらにもう一つの問題は二、三年前からやかましくいわれております新道の市立病院の前の通り、消防署の前の通りですが、あの電車の交通につきましては非常に皆困っております。いわれておるとおり、車が数十台並んでしかも場合によっては二十分も三十分も止められております。こういうことは毎日続いております。救急の患者ができた場合には病院に行けない、もしもあの西に火災が起った場合、消防車はすぐに走って行けないという状態であります。

これはやかましくいわれておりますが、これについて先だって港振興会がございまして、その振興会の席上、近鉄の常務が二人こられまして、振興会である方が質問されました。

あの状態は非常に困ったものですが、近鉄さんなんか方法ございせんですかという質問がありました。この席上であれをいま工事をしますと十数億かかります。しかもあの電車は特急も含めて運転しながら工事をせんならぬ。かわりに道を作っても電車を安全運転しながら工事することについては、十数億の金がかかります。とうてい近鉄はよいいたしません。四日市さんお願いたしますと、市のほうで一つ考えてくださいという話しがございました。

私もこれは聞いてあきれたんですが、もちろんその十数億の金がかかりますし、手がつかないとは思いますが

しかし、あのままではおくわけにはいきません。

いろいろ問題もございましょうが、最近、安城へ行ってまいりました。安城へ行きましたら、名鉄の電車の下に地下道ができております。立派な立体交差でございます。わずかな距離で、しかも完全に立体交差させております。スムーズに人も車も通っております。

あれを見てきまして、あれならば別に金がかからんのではないか、おそらく一億も八千万もかからない。ああいう簡単なことで、しかもああいう安全が期せるならば、一つ思いきってああいう方法もどうか考えたんですが、技術的な立場でまた検討を要するとは思いますが、十数億かかることはできないから自由におくということではなしに、さらに進んで方法を考えて、手近い方法からやっていくということも大事だと思います。いろいろな交通問題はたくさんございしますが、一番問題の多い早くせなければならぬことに少しでも踏み切って早く手をつけていくということが一番政治では大事ではないかと思ひます。

この点について、またお考えがあらうと思ひますし、もうすでにそういうことはまわっていると思ひます。これの一つ御発表願ひたいと思ひます。

〔市長（平田佐矩社）登壇〕

○市長（平田佐矩社） 管理問題でございしますが、さいせん申し上げましたとおり、いままでのワタを少しとりはずして、そしてお互いにやられるようにして一つ研究しようじやないかということが眼目でございます。

これにつきましては、いまお答え申したとおり、知事と市長の間でいろいろ懇談を重ねておるのでございますが、埋め立てとこれと関連するかどうかと、関連せしめてもよし、関連せしめないでうまく行く方法があればそれでもよし、とにかく大局上、四日市港の開発がうまくいく方法を見つければよいことなんでしょう。

できれば一つ、双方意見をぶつたりあわせていこうと、こういう非常な大きな立場に立っておるもんですから、いまここでこういうことはこういうふうにやらしていただくつもりだということの段階までまだ、ちょっといておりません。

そしてまた、これが県・市ばかりでなしに才三者に及ぼす影響もございますので、しばらくの間、われわれの事務局におきまして、いろいろの観点から検討を加えてまいりましてでき上りました上で、お願い申し上げたいところ申し上げるのが一番穏当でないかとこう考えますので、しばらく御猶予願いたいところ申し上げておきます。

「土木部長(城井義夫君) 登壇」

○土木部長(城井義夫君) 国道の交通安全対策の問題のうち、横断歩道の問題それから消防署の前の踏み切りの問題という二点の具体的な御質問のように思いますので、そういう具体的な問題でお答えをさせていただきます。

まず、横断歩道の問題でございますが御発言のとおり、各所から陳情がまいております。陳情の趣旨はだいたい学童の横断に対する安全処置としての問題が多いようでございまして、もっともなことだとわれわれ感じておるわけでございます。

本年等は、国におきまして榮名から、要するに三重県管内におきまして一カ所計画ができるということでございます。して、それをまず、四日市市内でやって上げようということでございます。

建設省の考え方は、これは橋をかける横断歩道でございますが、四日市市としてはいろいろな御立場、地区、あるいは構想から地下道の案や、その他いろいろございしますが、交通安全協会すなわち、警察署と建設省のお話し合い、あるいはわれわれもアドバイスさせていただいたわけであります。一応、現段階では西町に横断歩道を作ることを決めたいという結論的な構想を建設省から連絡を受けとります。

それで、これは近く着工されると思いますが、現在その橋をかける位置に市の下水道が両側に入っておりますので、これの補強を進めてくれという依頼がございまして、近く着工させていただく予定にしております。すなわち、本年度は西町に一橋、横断歩道が架設されると存じております。

次に、消防署の前の踏み切りでございますが、これも御発言のとおり状況で、われわれもなんとか解決の方法がないかというふうに考えるわけでございますが、非常に消極的といえますか効果は一〇〇％ございませんが、三滝川の右岸堤防、すなわち国道の四日市橋から明治橋までの間が現在堤防の形で道路らしくないわけでございます。これを市道認定をさせていただきまして、県の許可の上、舗装を進めたいと思っております。この予算については、本議会で御審議願う中にその御想を含ませていただいております。

従って、御了承をえれば、さっそくに着工させていただきたい。いろいろ予算の財政的な都合もございまして、四メートルから五メートル程度の幅員の舗装を四日市橋から明治橋までの間を施工させていただきたい、これによって県道の、一部にまいます県道と連絡するわけでございます。

なおもう一つ問題は、それから少し西にのびまして、工業用水の事務所の付近から舗装が切れまして、野田橋付近がずっと舗装が四、五百メートル切れておって、また日永へ行く県道につながるわけでございます。

この県道の部分は、たゞいま土木事務所の所長等に非常に協力願っております。市がそういった構想をもっておるなら県もぜひつき合いをしたいと、いうことで現在県事業の予算措置としてはございせんが、なんとか予算のやりくりによってもやるように決めたいということで、これもさせていただけるものとわれわれ期待しておるわけでございます。そういたしますと、菰野、湯の山に行きます交差が、光ほどから問題の消防署の前の踏み切りを通らなくても、四日市橋から直接、出入りができるようになります。

そういたしますと、非常に緩和をされるであらうと。これができましたらなんとか一方交通なり、あるいは一方交通の指導をしていただくとお効果が上がると思いますが、これはずい分の延長の間でございしますので、いろいろなこと、検討を要すると思いますが、名古屋方面から湯の山方面に入りますバスの大部分はこんご舗装さえ続けば、三滝川堤防を直接入っていただけるんじゃないかと、こういうように考えております。

それによって何十パーセントか解決がつくんじやないかと、なおこれにあわせて消防署の前の付近の舗装が現在五メートル余りで、車の二台幅でございしますが、これを両方に一、二メートルづつ広げまして、三車線程度にしたとこの点も本議会の予算の追加をお願いしている中に構想を織り込んでおります。

なお、近鉄の高架という問題でございしますが、この問題につきましては三滝川から天白川まで、大井の川までこの間につきましては、近い将来にどうしても高架にすべきであらうとわれわれ考えるわけでございします。

当面の問題といたしましては、新正と申しますか千歳町、小生祿が現在の鉄道の下をくぐって土工工事が終わってあるわけでございしますが、あれが道路から上の高さ、車を通るクリアランスが不足しておりまして、一メートル七、八十上げないと公式の道路として認定できないわけでございします。

そういった問題から必然的に近鉄をかき上げなくちゃいけないという問題に当面ぶつかっておりますが、これに引き続いて三滝川から国道までの間も、どうしても高架にしないで、現在計画しております西浦の区画整理の効果にも影響するんじゃないかと。すなわち、四日市市の将来の発展方向に影響があるという考え方をしております。ところが、技術的には非常に三重交通線あるいは湯の山線と一緒にございまして、非常にむずかしい問題、技術的に金のかかる問題でございします。いま十数億というようなおっしゃりかたをされましたが、そういった広い範囲の問題を考えますと、数十億すなわち三、四十億ぐらいは少くともかかるのではないだろうかという感覚をもってお

ります。これについては、いろいろ大阪の鶴橋の高架した場合の、大阪市と近鉄の間の問題等もおおいに研究しております。わけでございしますが、いずれにしても市自体も非常に思い切った御出費を願わなくてはいかぬということになりますので、十分慎重に検討はいたしたいとは思いますが、構想としては、われわれそういう構想をもっております。

〔藤谷祐一君登壇〕

○藤谷祐一君 港湾官埋問題につきましては、市長さいげんにっこり答われておられたので、十分な御自信があるというところで解釈いたします、けっこうなことでございます。

ただし県会でこんどどういうことを提案されるかわかりませんが、さっきいきましたように港の埋め立てと官埋は不可分な問題であるということから、昭和三十九年から予定どおり国の認可をえた仕事をどんどん進めていくということになりますと、浚渫の問題が起ってきます。この浚渫の土砂をどこへ捨てるか、捨てる場所を遠洋に捨てたんでは金がかかるし、むしろ近い四日市の埋め立てに関連して捨てるのが一番合理的であるということからいきますと、漁業権に関連する四日市のかって市民がいうように権利をもっておる地域に捨てにくるだろうと思われまます。

こういうことについては、やはり具体的に県・市の問題は、細部にわたって論議されるべきであらうと思われまますので、この点については、すでにもうお話しが進んでおるものと解釈いたします。たとえば県からどんな発表があるかどうかんな決議をされるかわかりませんが、そういう既成事実によって発表があった場合に、四日市が思うものと違うという、いわゆる思惑が違ったということのないように、一つ御自信をもって折衝され、円満に仕事が進んでいくような方向に御努力願いたいと思います。これだけ要望いたしましたして、私の質問を終ります。

○議長（錦安吉君） 坂上議員。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 志積議員の質問に対しまして、二、三お尋ねいたします。

才一番には財政問題でございます。

市長並びに総務部長の説明を聞きますと、本市の財政の将来、相当憂慮すべき状態にあるということが、この問題に關しましては、私は二年ほど前に、前の林総務部長に四日市の将来の財政は問題が起こるから、相当思いきった施策が必要でないかということをごの席から申し上げたことがあるのでございますが、それがいまや目の前にきたように感ずるのでございます。

ただいまの総務部長の説明では、こうなるだろうという説明でございましたが、この状態をどのように解決して進めかという道が示し願っていないのでございます。

ことに重要な問題は、今後ますますかさねところの人件費の問題と予算外義務負担の償還の問題であるとおっしゃったのですが、こういう問題についてこんごどのような方向にやろうとするお考えがあるかどうか、この点についてございましたら承りたいのであります。

ことに今回の追加予算をみますと、その財源は國・県の補助金並びに三十八年度の剰余金を主体といたしておる。ことに剰余金の処分につきましては、さきに議決されました市財政基金条例の才二条の才二項によれば、その二分の一は積立金にする必要があるのてございしますが、それは才五条の一号、二号によってこれが全部充当されておるのでございます。

それくらい主要な場面になっておるのでございますから、いまいし具体的にこの問題について私はお示しを願いたい。また、本年度の税収の状況がどうなっておるんだ、だからこうなってくるんだというように具体的に、私はお示しを願いたいのでございます。

才二点、西浦の都市計画の遅延の状況は、担当課長から伺って了承したのでございますが、私は三月議会のとときに議員の皆さんの質問に対して理事者の諸公がお答えになった状況からみますると、いまごろは西浦の都市計画には着手されておられるのが本体でございます。それがいまの課長の説明によりますると、地元の一部の皆さんの御要望があるために実行できないという、西浦の都市計画の問題は、これはなが年この壇上において、関係の議員において討論された問題でございます。

これが遅延することは、こんこの事業費の上に相当、影響するんじゃないかと。そういう立場において、これは早急に現在、問題となっている懸案を政治的に解決して一日も早く処理することが、その地区の市民の幸福でもあり、四日市発展の上においての重要な問題であると思うのでありますが、こんごこの解決の方策について市長から御答弁を願いたいのてあります。

才三点、人事問題でございますが、ただいま志積議員が人事問題についてお尋ねされたその本旨は、重要な人事が遅れておる、その具体策として実例を上げられたのでございます。人事の問題は、相当むずかしい問題でございますが、しかし、上級管理職の人事というものは、関係の方々が、大きくいふならば市民にも影響するところが相当大なのでございます。

そういう点において、こういう人事は明朗化をはかる必要があるのてでございます。まだいろいろな情報が漏れるということは、これは一部の情報でございますから、なんともいえませんが、これが市民の心境に及ぼす上に相当重大な問題なることを私は痛感するのでございます。

そういう点におきまして、市長が重要な人事に対してこんごどのように明朗化をはかっていくかという具体策があるならば一度お示しを願いたい。

かつて私は、こういう問題に関しても重要な問題については、特殊な機関を作って、だれもが納得するような政策をおとりになることが、いいのではないかということを席上から申し上げたことがございます。こういう点につきまして、市長の見解を承りたい。

以上三点、閉連で御質問いたします。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後〇時四分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に続き、会談を開きます。

〔市長（平田佐矩君） 登壇〕

午後一時六分再開

○市長（平田佐矩君） さい前の御質問に対しまして、お答えをさせていただきます。

財政問題でございますが、御高見のとおり市の伸びていく方向と、所要しまする、いわゆる需要額との間に、さらにまた、政府のいろいろの勧告案などがございまして、かつちりした数字をつかまえることが非常に困難なことは、議院諸公におかれましても御察察のとおりでございます。とくに、四日市のように、いま盛んにいろいろなことが行なわれております都市におきましては、こちらだけの計画ではまいりませんので、外部の事情によりましてその効果も異なってまいります。それらのものをできる限りうわに見まして、そうしてだいじをとっていかなきやならぬ、こういう考えからいいますと、さい前総務部長がお答えいたしましたような緑が、もっとも手がない緑でございます。従いまして、何年度こういうふうにする、ああいうふうにするということを、いまさつちり数字を申し上げてみま

したところが、なかなかこれは実行いたしたい場面も出てくるだろうと思しますので、やはり考え方によほどの収縮性を持たしていなきや、いわゆる柔軟性を持たしていまいませんかというところ、理論としてはいいことでも、実際としてはなしとけられないようなことが、政治の場面で多々できてくると思うのでございます。こういうような状態でございますすれば、できる限り抑圧するのが本旨でございますけれども、しかし、それかといってやたらに抑圧しまして、「角をためて牛を殺す」というような場面になりましても相なりません。

従いまして、結論といたしましては、やはりなるべく均衡のとれた、いわゆる平衡といえますか、この平衡のコウという字は並ぶという字でなくして、均衡の衡でございしますが、いわゆる平衡のとれたいき方をせなければならぬだろうと思いますが、これらにつきましては、やはりそのつど皆様方の御高見を拝聴しながら、よほどの前後の事情を考察いたしましてくみ上げていくことのほうがよろしいんじゃないかと、私は思っておりますのでございます。

しかば、そういうことでは非常に不安定でないかと、こう仰せられますけれども、これを不安定だといえれば不安定でございますが、しかし、また片一方はうで、現在、市で行なわれております諸般の施設が効力を発生してまいりまして、しかも、日本の経済、世界の経済というものが好転いたしますようなことを考えますれば、これらの間題もあんがい思ったより平易にいくかもしれないし、そういうことを考えないでも、きわめて平凡な状態が続いたといたしましても、やはりある程度までは抑圧をしていかなければならぬということは事実でございます。

反対にそれが行なわれましたときにはどうしなきやならぬかといえは、これは、もちろん繰り延べをするとかいうような方法もやむをえずとらなければならぬと思いますが、さしずめ御指摘になりましたように、本年におきましては、剰余金のあった場合はこれを半額積み立てておこうという建て前でございますが、そういったものでは手も足も出なくなるという状態に相なりますので、幾分緩和をいたしまして、本年度といたしましては、これを使わ

していただくというふうに踏み切りましたような次第でございます。

従いまして、相当、市の理事者といたしましても苦しい処置をしているということに思いをいたされまして、できる限りこの大きなピークのところを切り抜けていけるように、議員諸公におかれましても御協賛を賜りたいというのが、私どもの念慮でございます。どうぞ、ひとつよろしくお願いを申し上げます。

それから、西浦の問題につきましては、一部の方々からお申し出がありまして、それがいま全体に影響しておるわけなんですございますが、仰せられることのごもっともな点もありません。是非に四日市のためにとらぬことでございますので、われわれは八手方を尽しまして御了解をお願いしておる次第でございますが、やはり性格につきましては、一つのフォームといいますか、もっていき方のワクがございます。そのワクの上へやはりのっていただきませんというと、特別な扱いをするというふうなことになります。というのと、こういう全体的な、皆さんの御協力をえなきやならぬ仕事に支障をきたします。この点につきましては、さらに各方面からひとつ御勧告を願って、市のために御同調を願えるようにお願いを申したいと思っておりますのでございます。

聞くところによりますと、それぞれ県なり国のほうまでもいろいろ御了解の御様子でございますけれども、どこへ行きますとも、こういうような問題は、地元で解決をして、そして地元の発展が遅れないよう、お互いがせられるように努力してほしいという御回答しかございません。お前のいうことはもっともだからそれでやり通せというような方があるか、ということになりますと、それは、私はないだろうと。やはりお互いに襟度を開いて協調をして、四日市の地区の開発の停頓としておることを是正せよといっていたことにきまっておると思うんであります。ですから、やはりその線にのっていただけるように、この上ともわれわれの努力が足りませんが、皆衆のお力を借りまして、

とり進めていくように、いっそうひとつ努力さしていただきたい、こういうふうにご考えておるような次第でございます。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君　ただいま市長から財政問題並びに西浦の問題についてお話があったのでございますが、そのお話も、意味はよくわかるのでございますが、具体性がないわけなんです。私どもとしては、市民に接するときには、具体的なものをもって臨まないといかぬわけでございます。

そこで、まず財政問題について、いま一応、私は担当の部長でいいんですが、総務部長に伺いましょう。総務部長は、志願議員に対して、相当具体的な数字をもって答えられた。それはよくわかるのですが、その問題を解決するためにどうもっていくか。いわゆる総務部長のお話にあります来年度、さ来年度の事業費、市民に返っていくところの市税二十何億に対して、市民に返っていく金は割合に少ない。ということは、投資経費が少ないということになるわけでございます。こうなるとまいますと、私どもは市民の代表者として、相当問題点があるんじゃないかと、こう思うわけですね。だから、そのどうしても財源をえなくちやならぬわけなんです。その財源をうるのには、総務部長は、人件費の問題もあるし、予算外義務負担の減税の問題もあると、こうおっしゃったのでございます。そういう点から考えてどうか。

あるいはまた、財源の問題でございますが、私はかってここでも申したんですが、本市は石油化学工場が多い。ガソリンの使用に対して相当、国のはうに吸収されていくわけです、本市から。そういうものの還元策があるのかないのか。

あるいは、工場がたくさんあるのでございますが、各工場の賃税負担が六億五千万円と聞いて

おるのでございますが、この限界点をもっと引き上げるような運動でもして、本市の財政収入を増す必要がないかと。公害対策に対しまして、市長は都市改造のために全力を傾注しておられる。私は非常に敬服し、われわれ議員もこの実現に対して全力を傾注したのでございます。ところが、いま財政問題を伺いますと、相当、問題点がある。これも私もよく承でできる場所でありますが、この解決策には、よほど理事者側も、われわれ議会陣も努力しなくちゃならぬ。われわれの任務は、市民二十二万の福祉の増進と本市の発展ということは、よほどのこれは問題でございます。そのためには、財源的な問題をどういうようにもっていくかということが必要でございます。そういう点につきまして、ひとつ総務部長あるいは税務部長、担当のほうでありましたら、お考えをひとつ御披露願いたい、こう思うのでございます。

〔税務部長（國浦和巳君）登壇〕

○税務部長（國浦和巳君） 先ほど総務部長から昭和四十年ないし四十三年にいたる間の本市の財政事情が、財政需要が多くて財源がいまのようなペースでいくならば非常に苦しい事情を答弁されたのでございますが、それに引き続きまして、それならば、財源を待つ税の面で増徴する方法を考えているかどうか等につきまして、重ねて御質問がございましたのでございますが、税の面から昭和四十年ないし四十三年をいまの時点で直ちに予測することは非常にむずかしいのでございますが、ただ、四日市の税収の中で大きなウエイトをなしております大規模貸却資産の本市におけるこんこの姿を考えてみますと、御承知のように昭和石油あるいは三菱油化等の会社企業が若干の増設工事をやっておりますことは、御承知のとおりであります。これらが昭和四十年、四十一年度に市税に反映してくる速度と規模を考えてみた場合に、現在、増設しておりますのは、新聞紙上等によりまして、四百億とか五百億とか非常に大規模なように書かれておりますが、その辺は、いろいろと税法上の計算が複雑になっておりまして、及び完成年度等を

考えてみますと、昭和四十年、先ほど総務部長からお話がありました財政需要のピークのときの四一年度における昭和四十年年度には、税収としてはお返ってくるのがほんのわずかでございまして、むしろ昭和四十一年度の税収にしか反映されないと。従いまして、昭和四十年、来年度等は、非常に財源的には、税の面から見ると苦しい状態にあることは、建設中の各企業の竣工の時期が来年の三ないし四月ごろでないとでき上らないというふうな事情によってそういうことになるわけでございます。

お尋ねの大規模貸却資産の課税限度額の六億五千万の引き上げの問題あるいは四日市が石油化学コンビナートとして、よく二百億の国税を収めているのに対して、なんらかの形でこれを還元する方法あるいは国と県・市の税源配分の問題、再配分の問題等四日市市のことの税収を増加せしめるための方法といえますか、考え方を、どのような努力をしているかということございまして、お説のような方向に伺って、いろいろな機会あるいは機運を巡して努力中でございますが、これは、税の問題は、国及び中央の税制調査等において、さらに四日市の問題だけではなくて、全国の都市の問題あるいは県の問題あるいは国税から見た税収確保の問題等、非常にむずかしい、しかも複雑な問題を埋蔵しておりますので、努力はいたしておりますが、直ちには私たちの考える方向には、増加の方向にはなかなか向きづらいということと、課税の方向に国で、あるいは税制調査等で毎年やっておられます議論の内容を拝見いたしております。むしろ減税の方向に進んでおりまして、伸びる可能性の多い、たとえば電気・ガス税の税率の引き下げだとかあるいは所得税の減税をやることによって、住民税の減少をきたすというふうな、むしろ減税されるような方向になっておりますので、直ちに四日市市の前途は、税の面から見ますと、いままでのような伸び方は期待できないんじゃないかというふうに考える次第でございまして、しかしながら、そうだからといって、税を担当しておる私たちとしては、いま御指摘のありましたような問題点につきましては、大いに機会をとらえまし

て、国に対して働きを続けていきたい、こういうふうに考えます。

〔総務部長（岩野見齊君）登壇〕

○総務部長（岩野見齊君） 財政的に、具体的な事例を挙げて説明せよ、こういった御趣旨でございますけれども、これ、具体的に申し上げるということになりますと、個々の予算をそれぞれ検討いたさないと、すぐには出てこない問題でございまして、説明するのも非常に困難な問題だと考えられるのでございますが、たゞ要約しまして、比較的重要だと思われる問題、すなわち人件費の増大をできるだけ防いでいくとか、あるいは、おそらくむだな金というのはないのでありましようが、比較的緊急度の高い費用の節減、それから助成金・分担金の出し方について、これを慎重に考えるべきであると思います。少なくとも国・県には県・市の負担分については、とくにその区分をはっきりさせて、ほんとうに市の義務的な負担以外には、当分の間これを出すことを十分慎まなければならない状態であろうと思います。

それから、先ほど税務部長の申しましたように、税の伸びにこしはあくはあまり多くを期待できないとすれば、予算外義務負担の返却額についての調整もひとつ考えなければ、予算が組めないのではないかと、こういった気もするのでありますが、今日の財政状態は、一年あるいは二年で平常化するという状態ではないと思われまじし、また、四日市の現状は、先ほど市長の申しましたように、異常な発展を遂げつつあるような状態でありまして、角をためて牛を殺すというような結果にならせないでございしますので、こうしたいろいろの諸要素を総合的に考えまして、長い期間の調和をとりもどすといった心がまえで進まなければならぬことと思います。何が正常であり何が不正常であるかといった点につきましては、それぞれの見方もあることでございまして、その周囲をとりまく条件に従って、最も適当な措置を、それぞれの場合において考えなければならぬと思うんですが、私といたしまし

ては、一年、二年といった短かい期間ではなくて、少なくとも五年くらいを周期といたしました財政の計画に基づきまして、その破綻をきたさないように、調和のとれた市財政をまとめていきたい、かように考えておる次第でございます。

具体的と申されてもなかなかむずかしい問題でございまして、御不満とも思われまじしやうが、この程度で御了承を願います。

〔坂上長十郎君登壇〕

○坂上長十郎君 いま両部長からある程度具体的に御尽力になっておる状態、将来こうやりたいという希望を伺いまして、私は満足するものでございます。ことに財政方面のベテランの岩野さんがその任に当たっておられるので、岩野総務部長兼務の将来を嘱望するでございます。

私もはこうやっていろいろやって質問申し上げますが、要点は、市長の施策に協力して、これを実行し、市民の仕合せのために努力したいと、こういう気持ちでやむにやまれず申し上げておるのでございます。財政問題は、いちばん中心をなすことは、もう私がいろいろ申し上げるまでもないのでございます。が、このさい私は市長にひとつ提案をしてみたいのでございますが、一年や二年で四日市の財政がそうりっぱに健全になりそうな状態ではない。少なくとも五年、それ以上はかかる。だから、このさいに、こういう重大なときに、ひとつ四日市の財政を建て直すための特別委員会でもおつくりになって、そこで各方面の人材をえて検討され、そして、四日市の現状と将来をにらみ合せて、健全な発展をするような財政計画をお立てになることを、切にお願いしたいのでございます。

関連質問で長々とおつたら相済みませんから、私はこれくらいにしておきまして、また、次の機会に、あらためて財政問題をとって申し上げたいと思います。

次に、西浦の問題でございますが、私は、市長から、具体的にこれくらいの問題で解決をやりたいという御決意を伺いたかったのでございますが、相当、ことめんどろでございますので、あれ以上は私は望めないと思うのでございますが、市民は、この都市改造のためとくに西浦の土地区画整理事業に対しては首を長くして待っておるのでございますから、一日も早く解決して、この事業に着手されんことを、切に切に希望を申し上げます。あれは、二十万市民の要望であろうと、私は強く申し上げたいと思っております。

以上で、私の関連を終わりますが、一つ断っておきますが、志積議員の関連として、人事問題に触れましたが、志積議員と私の申されたのでは、多少相違がございましたから、それに対する答弁は保留させていただきます。

以上でございます。

○議長（錦安吉君） では、次に、山中議員どうぞ。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 私は、公友会を代表いたしましたして、先に御通告を申し上げました四点について御質問を申し上げますのでございますが、市政クラブの志積、坂上両議員より公書に対するための都市の改造問題、それと西浦の整理問題につきましては、詳細に理事者のほうから御説明もございましたので、この二点につきましては、次の要望と一点だけお伺いしてみたいと存ずるものでございます。

先に、市長は都市親善のために、米国のロスにまいったございましたのですが、その帰り道に、さぞお疲れであつたろうと思うにもかかわらず、東京において地元の選出議員また知事と呼ばれ、そうして三者の協力をえて、中央に働きかけていただいたということを、新聞紙上で私たちは承知いたしましたのでございますが、われわれ市政をあずかる議員でもあり、市民の一員といたしまして、市長はかく愛市の念をもちまして努力をせられたということ

に對して、私は深く感謝の意を表わさなければならぬであらうかと思つて、それを申し上げるものでございます。

この都市改造につきまして、いろいろ理事者側の説明もございましたが、この一点について私がお尋ねしてみたいということは、助役の説明におきますとさいが、非常に中央のほうも直さに取り上げて、そうして着々として進んでおるのだと、喜ばしい報告をえたのでありますが、そのことばの中に、まず公村の防止ということに重きを置いて進めてみたい、進められるようだ。私が聞き違ひをしたのかわかりませんが、まず防止を重きに置いておるということをいわれましたので、この科学の進歩した世の中ではあるが、はたして完全に科学の力をもって、工場で防止ができるのであらうか。もう都市の改造というようなことも考へて、いろいろ町の建て直しというようなことには考へなくとも、その防止一点でいいのか。それと並行して都市の改造または建て直しというようなことが必要であるのであらうかならうか、どう考へていられるかという、ただ一点だけ承わつてみたいと存ずるのでございます。

次に、西浦の区画の整理でございますが、これは、われわれ議員として参画さしてもらつてから、十年の歳月を費して、やっと今日許可をいただき、着手の段階になつたと。市民待望の大事業が完成する年だと私は思つておりましたが、その伸張を見ますに、とんでもないところにおいて行き詰つておるといふうなことを承わりますので、非常に案じておった一人でございますが、これを、先ほど理事者、市長、いろいろ詳しい説明を賜りまして、よく了承はできたのでございますから、これは、容弁はいただかなくても、ただ要望の一点といたしまして、ただ二十万の市民は待望して、この事業をやつてほしいと願つておるといふこと。そうして、尤もど市長が述べられたように、二十万市民がこい願う仕事に、幾人かの人のお蔭において仕事ができないといふことは、非常に情けないといふことでございますが、これは、私は、最後は世論が勝敗を決していくものと思ひますので、勇気をもってこの西浦の区画の整理をしていただきたい。一日も早く実行に移していただかんことを、私は要望にとめる次第であります。

次に、三点、遠洋漁業基地埋め立ての問題でございます。承りますに、遠洋漁業基地の埋め立て地が、県が最近において公社の手に一部を渡されたとかいうようなことを承るのでございますが、四日市が遠洋漁業基地を尾鷲とまず競争をしたと申しますが、努力に努力を重ねて獲得したもので、将来は大きな遠洋漁業基地として、あそこに漁業に關する工場が建つものなりと。その土地を私は造成していただいたんだと思つてはおりましたが、聞くところによると、なかなかそのような調子にもいかないのじやないかという風説を聞きますので、この話し合いは、今日、県とどのような話し合いになっておるかという一点を、詳細に市長から承りたいと存するのでございます。次に、水四点でございます。

国鉄伊勢線の短絡線の問題でございますが、これも、最近、地元選出の木村代議士が、ある紙上面において談話を発表せられたと思ひますが、もうあすにも將手できる、というようなことを、ずっと新聞紙上でも拝見いたしましたので、はたしてこんご四日市の駅から、どのような方向に市は短絡線を望んでおられるか。この計画はどのように進めておられるか。それと運輸省との話し合い、この経緯のほどはどういうふうになっておるかという点を、お伺いしてみたいと思つたのでございます。

以上でございます。よろしくお願ひを申し上げます。

〔助役(庄司良一君)登壇〕

○助役(庄司良一君) 四日市の公害対策第2として、都市の再開発について、先ほど私からお答え申し上げたのでございますが、私の発言がへたなために、十分意を尽していないようでございます。ここに再び要点だけ申し上げます。御了承をいただきたいと思ひます。

この問題につきまして、われわれは当初、公害対策として、そのうちでもとくに大気汚染対策として、これに重点

を置いて問題を提起し、これを中央に強く訴えてまいりました。たまたま中央におきましては、四日市の市長に対しまして通産省及び厚生省にそれぞれ公害対策策というものをとくに設けられまして、この問題と取り組んでいただいで、今日にいたつておること御承知のとおりでございます。鋭利的にそういう事情でございますので申し上げますたわけでございますが、災害を含めまして、都市の再開発ということになりますと、単に厚生省、通産省だけでは、とうていわれわれはその効果を期待できない。こういう観点から、土地計画の主管官庁である建設省にも強く働きかけまして、建設省でもこの問題と積極的に取り組んでくれるようになった、ということをお報告申し上げたわけでございます。

もとより、今日の化学技術の現状から申しますと、硫酸酸化物の経済的、工業的な除去方法というのは、日本はもちろん、世界各国ともいまこの問題と取り組んでおる状態でございます。たとえば、金を出してその技術を買うと申しましても、買ひ対象物が無いのが実情でございます。これは、全世界が取り組んでおる命運でございます。従つて、企業側にわれわれは最大限度の施設を要求いたしておりますが、なお、これをもって安心できないために、工場と住家との間には、ある程度の緩衝地帯を設けなければならぬ、こういう前提に立ちまして、今日、中央各省に対してお願ひもしております。たまたま大蔵省に予算要求として提出されております厚生、通産両省の共同提案である社会開発事業団も、その内容の中の重要なものとして、今日の化学技術をもってしては、工場と住宅の間には、ある程度の緩衝地帯が必要である。これに対する対策を国として講ずべきである、こういうふうにもうたわれておるわけでございます。決して公害だけでこの問題をわれわれは運動し、努力しているわけではなく、社会収容と再開発という過程内で進むことを、御了承願ひたいと思ひます。

次に、西浦地区の区画整理についてでございますが、坂上講目からもお話がありましたとおり、いままでの理事者の答弁では、もうすでに着手がされていてあたりまえだと、こういうお話でございます。私もまったくそのとおりに思っております。理事者といまして申しわけなく、心からおわびするわけでございますが、一、二の方のために全体の計画が一日でも延びるということは、影響するところばかりしれないものがあること、これも承知いたしておるのでございます。事務的に、ただいま県及び国と折衝しておるのでございますが、これをもって十分とは考えておりませんので、私自身、副知事・知事とも直接、折衝いたしまして、一日も早く軌道にのるように努力いたすつもりでございます。

次に、遠洋漁業基地の問題でございますが、今年、四月、県会の詔をへて、県におかれては、公社のほうにそのうちのたしか一部を譲り渡したと、こういう事実がございますので、さっそくと担当の部課長に命じまして、県のほうにその具体的な内容をお尋ねしてみせました。単価は坪当たり一万五千円で県の開発公社のほうへ譲り渡されている、こういう事実が判明いたしました。しかしながら、県の開発公社に県が譲り渡してはおるのでございますが、あの五万坪当たりの土地というのは、当初から遠洋漁業基地として建設されたものである。しかも、これに対して市の応分の協力をいたしておるわけでございます。従って、公社にこれが現在、形式上いっておるからといって、決して公社が自由に処分するものでなく、あくまでも遠洋漁業基地本来の目的にこれが利用されるということは、いうまでもないことと、私どもは了承いたしております。単に、県の資金繰りのために肩がわりしたというふうに解釈しているのではありません、この点について、なお詳細には産業部長のほうから、報告してもらうことにいたしたいと思います。

〔産業部長（芝田敬太郎君）登壇〕

○産業部長（芝田敬太郎君） 遠洋漁業基地の埋立地の処分の問題でございますが、ただいま庄司助役からお答えがありましたとおりでございます。坪一万五千円で五万二千坪の中、三万二千坪を開発公社に譲り渡しを三月の議案に提案されております。そして、議決がされております。金額四億八千万円で三車県開発公社理事長田中寛あてに譲り渡しをされております。

その後、その経過を申し上げますと、四月の末になりました、この三車県遠洋漁業基地の問題につきましては、県と四日市市と尾鷲市が平等負担をいたしております三車県遠洋漁業基地整備促進協議会というのがあるわけでございます。その協議会の総会の席上におきまして、こういう処置の報告をされました。それに対して市から出席されておりました二宮助役から抗議の発言があり、それに対しては、当時出席の副知事から、いま庄司助役が御答弁申し上げましたような内容的な御答弁があったことを承わっておるわけでございます。

その後、私どもはこの問題につきまして、あの富田の遠洋漁業基地をつくりますときのように、ただいま山中議員からお話がありましたように、県内に多くの、百隻からの遠洋漁船を持ちながら、県外に基地を求めて、県外荷揚げをやっておる。その不合理さを県内に揚げようやないかということから、マグロの基地を四日市につくり、カツオの基地を尾鷲に求めたという決定をいたしておりますので、その経緯から、せひあそこは当初のとおり遠洋漁業基地をつくり上げてもらいたいということの申し入れをいたしております。その後、ただいまの助役の御答弁にありますが、したように、資金繰りのために開発公社に肩がわりをしたんだということを、そういう理解をいたしておりますが、なお、開発公社の担当理事に対して、この基地設定の経緯をある説明を私どもも出ましまして、この埋立地の処分については、市と十分協議をして、そして、当初の目的である遠洋漁業基地のつくり合いのために、造成のために土地の処分をしてもらいたいというふうなことを、強く申し入れをいたしております。

なお、県内部におきましても、水産当局は、そこを遠洋漁業基地として造成するために必要な計画等につきまして、担当方面へ書類で内部連絡もいたしておりますので、私どもは、あそこが当初もくろみました遠洋漁業基地として造成されるものと、こういうふうと考えております。

〔企画開発課長（六田猶裕君）登壇〕

○企画開発課長（六田猶裕君） 短絡線の経緯について、御説明申し上げます。

当伊勢線につきましては、現在、繊維工業並びに石油化学工業都市として発展してまいりました四日市の臨海部の発展に伴ないまして、さらに、鈴鹿市内におきましての内陸、あるいは中南勢において発展してまいりました産業貨物と申しますか、輸送力増強のために、昭和三十年当時から考えられていたものでございますが、そういう貨物輸送、それから、さらには紀伊南方における観光開発、こういう両点を含めまして、ここに四日市から亀山をへずして、四日市、亀山、津の二辺を通らないで、一線において三角形の一辺として短絡化する線として計画されたものでございます。これの概略といたしましては、総キロ、現在の予定では二十八キロ、公費だいたい六十二億という想定になっておりまして、この現在の亀山を通ってまいっておりますキロから短縮されますキロ並びに時間は、距離にいたしまして約十キロ、時間にいたしまして三十分の短縮になる、こういう計画でございます。

御承知のとおり、鉄道公団の公団法が本年の二月に成立いたしましたして、それに伴ないまして三月、公団の設立をみたわけでございますが、従いまして、新線建設は、あくまでも公団自身が現在の路線開始は国鉄目体が、このようになっております。

そこで、この伊勢線につきましては、本年の六月、先ほど山中議員から御発議ございましたように、木村代議士の方々に御協力もえまして、本年度といたしまして用地費一億がついたわけでございます。これは、本年度予算として

でございますして、具体的に申しますと、この十二月末までには路線決定をいたしたいと。また、県知事から聞いておる話といたしましては、路線決定いたしました上は、県の開発公社において先行的に用地買収もとり進めたいと、このように聞いております。まあこんご、この運動につきましては、国鉄自体それぞれ分岐をどこにするかというような点につきましては、現在、岐阜の工事局において調査、検討を進めておりますが、それには、内容的に技術的な面が非常に多く加わっておりますので、その結果をみまして、議員の方々にも御報告を申し上げ、御了承もえたいと、このように存じておる次第でございます。

計画といたしましては、昭和四十五年までの五カ年計画で実施すると、こういう事情でございます。

概要、以上でございます。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後二時十分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会談を開きます。

山中議員。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 土地改道問題につきましては、助役から親切的な御答弁をいただきまして、まことに満足に存じたわけでございます。どうか、こんごとともによろしく二十万市民の発展のためと幸福のために御努力していただかんことをお願いするものでございます。

午後二時二十五分再開

次に、西浦の区画整理の問題でございますが、朝から同僚議員が詳細な質問もいたし、また詳細な説明もいただき、また、いま重ねていただきましたので、まことに、これも御苦勞ではございますが、理事者としていっそうの御努力をお願いしておきたいと思ひます。

次に、遠洋漁業基地の問題でございますが、ただいまの説明を聞かしていただきますなれば、決して遠洋漁業の基地の方針は変ってはいないのだ。県は、一時、金のやりくりのために公社には渡しておるが、四日市遠洋漁業基地のためにさしつかえないのだという力強い答弁を聞いて、まことに私は心強く、将来あそこに関連の工場が立ち並ぶものなりという解釈のもとに満足に存する次でございしますが、しからば、市長は、あの遠洋漁業基地理め立ての幾万坪かの土地に、どこから工場を誘致して、そうして、当初計画を立てたりっぱな遠洋漁業の基地として構成される計画を持っておられるのかおられないのか。私たちは、ただその一点を市長にお伺ひしてみたい。

これは、いま八幡製鉄が一時足踏みをし、中止の立場にある以上、北部開発には、私は大きな産業の発展の基盤になるのじやないかということを考えますので、とくに、考えていただきたいと存するのでございます。

国鉄の短絡線につきましては、ただいま課長から詳細な説明もございましたので、どうか、これは一日も早くそれを実現されんことを要望するのでございますが、何にせよ中央とこれは関連もあり、運輸省の関連もございしますので、一段の御努力をお願いいたします。

以上でございます。

ただ、いまお願いしました漁業基地の一点だけ市長から構想のほどを承わりとうございます。

〔市長（平田佐矩彦）登壇〕

○市長（平田佐矩彦） 遠洋基地の問題でございますが、この辺の開発につきましては、現在のところといたしまし

ては、お申し出は県を通しましていろいろおありになるように、県の方ではおっしゃっていらっしやる。市は、それに対して、いろいろどういう会社がどういうふうに来ておるかということをお伺ひしております。と申しますのは、あそこを造成いたしますときに、これは、四日市の地先でもあるんだし、遠洋漁業基地については非常な関心を四日市は持っておるのだから、でき上ったなら四日市へ譲ってくれということをお伺ひしてあるいきさつかございますので、どここの会社がどういうふうだということについては同うも遠慮しておられますし、私どもも聞いてはおりません。じや、四日市のはうへどういう会社が来るかということですが、これは、御承知のとおり水産、漁業に關するいろいろの会社がございしますが、どこでも相當の色氣を示しておるのでございますが、うっかりいつにひっかかりますというとかささしならぬことになりますので、実は非常に慎重を期しておるのでございますが、いちばん根本になりますことは、われわれといたしましては、あそこは、全部造成した上は、一応、四日市に譲渡してほしいということを、態度変えておりませんので、こんどの管理問題あるいは埋め立て問題等とも関連いたしまして、こういうものを解決していきたいと、こう思っておるようなことでございますが、いままでにはやや納得のいかないようなことが、お話しが出ておりましたものですから、ちよつと解決がつかなかったのでございました。しかし、まあこんどのようなふうに大乗的の上から処理いたしますことになりましたれば、県の方申し出も聞いて、これは是とするものはいい、また、市が立てておる方針につきまして、県の方納得いくことはそれに従ってもらひまして、許容してもらつて、そして、その企画も盛り込みというふうにいたしていきたいと、こういうふうに存じておりますのでございしますので、ただいまこれこれの工場がこういうふうにしたいといつておることについて申しますと、非常に案界にもいろいろさしつかえがございますし、また、一部は地元の方由来あります産業のためにも利用していきたいというふうな考えも持っておりますし、しばらく理事者の間で協定をさせていただきたいと、こういうふうに存じます次であります。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君　ただいま遠洋漁業基地の一点を市長にお尋ねしたのでございますが、市長は、いろいろ構想も持っておるし、将来も考えておるといふ御答弁でございます。まことに市長、ありがとうございますとお礼を申し上げますのでございますが、しかし、遠洋漁業基地を埋め立ててから一年たったであらうといふことを考えますとさいが、少々市長も知事も熱がないのかどうかといふことを、一般市民の人から聞かれますので、とくに、市民の要望を満たすために、市民の幸福と考えられまして、一日も早く一つの目的に達成するような御努力をお願いいたしまして、私はきょうの質問を打ち切らしていただきますと思います。

○議長（錦安吉君）　加藤議員。

〔加藤定男君登壇〕

○加藤定男君　ただいま山中議員が御質問し、理事者からる答弁がありましたので、私は、要望にとどめたいと思います。

才四点の伊勢線の短絡路線が今日縣長が来る御説明があったわけでございますが、要するに、これは四日市の発展を起点としての御計画のようにただいま説明があったわけでございます。そういうことをいたしますと、四日市の南の端にある河原田地区とかそういうところにそれぞれの発展の要素が含まれておるわけでございます。いろいろと岐阜県の工事務局のほうで御設計なさっておるといふことを、ただいま御説明あったわけでございますが、夢の特急を駅で変え、政治で配慮される今日でございますので、やはり地元の開発を重点に置かれまして、理事者はこんごその設計その他工事務局の示すような形になるように、十分にその点を御配慮願うことを、要望申し上げます。

どうか、政治的な配慮も必要なときは、皆さん方で一生懸命ひとつお骨折りを願いたい。

また、南部の開発は、今日、四日市の起点になることが疑いないことを信じますので、どうか、そういう点を遺憾なきよう努力されんことを要望いたしておきます。

○議長（錦安吉君）　味岡議員。

〔味岡一郎君登壇〕

○味岡一郎君　同僚議員からも、伊勢線については種々御質問がございましたが、私も重ねて伊勢・短絡線について御質問を申し上げたいと思います。

当線の開発は、四日市南部地区の開発と発展に大きな推進力に相なると考えられます。聞くところによりますと、鈴鹿市におかれましては、この路線の早期実現に、また、路線の決定に独自の案を立てられまして、運輸省あるいは岐阜鉄道建設事務所の方に陳情、請願に全市を挙げて運動を続けているように聞いております。南部開発の見地から、また大四日市の発展の上において、四日市市においても交通運輸委員会がございまして、それらに諮問をされまして、最良の案、最善の案を見出されまして、当局に具申していただく御意思があるか、お伺いしたいのであります。

才二問といたしましては、予算の決定されたあかつきには、用地の買収をスムーズに行なう場合に、建設に全面的な協力をうるためにも、地元の要望を入れることが大切であらうかと考えられます。鉄道建設には、経費の面、技術の面、種々の制約があらうと存ぜられますが、市の開発当局は、鉄道建設事務局に対して地元の要望を十分お伝えしていただく意思があるかどうか。

以上の二点について、御答弁をお願いしたいと思います。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 国鉄伊勢線の建設が、四日市としては、南部開発と重大な密接不可分の関係にある、こういう前提のもとに、交通対策委員会もあることであるから、十分これにも諮問して、市の腹がまえをきめて奮励をせよというお話でございます。鈴鹿市においては、この問題に当初からもっとも御熱心でございまして、私どもも鈴鹿市に同調させていただいて今日及んだというのが、この問題に關する実情でございます。

もとより、四日市・津間がよくなることは、直ちに名古屋・四日市間が自動的によくなるということも前提としておることでございます。この意味からもわれわれは双手を上げてこれに賛同し、強力に陳情その他にも参加し、今日までがんばってきたわけでございます。

さて、四日市から津までの起点をどこにするかという問題について、私どももいろいろと御意見も拝聴し、私ども自身としてもこれにある程度の検討を加え、岐阜の工事局さらに鉄道建設公団が設立されてからは、これと数次、話し合いを持っておることも事実でございます。ただ、鉄道の建設というものは、技術的な面がなんとしましても先行したくない。その後で本格的な相談にのるというような話し合いでもございますので、私どもは私どもとしてのある程度の意見も開陳しておりますし、それをもって安心してどうかと思っておりますが、ある程度の成案をもって話し合いをいたしたい、その上で皆様におはかりを申し上げたい、こう考えておりますので、御了解いただきたいと思います。

○議長（錦安吉君） それでは、次に、坪井議員にお願いいたします。

〔坪井妙子君登壇〕

○坪井妙子君 私民主クラブを代表いたしまして、通告いたしました五点について、質問させていただきます。

才一点は、青少年対策でお尋ね申し上げます。

今年度当初より、市民におかれましては、青少年問題に對しことのほかの御熱意を仰せいただきまして、青少年課を新設され、富洲原地区には児童館を設立していただきましたことは、青少年に對する御理解と温情に接することができました思いで、心から感謝申し上げます。市内の婦人会長たちもこぞって見学にまいり、たいへんな喜びようでございました。しかし、恵まれた環境と施設や制度を、現実目の前に拝見いたしますと、設立の事情はいかようでありましょうとも、一歩平等にその恩恵に浴したいと願うのは、市民感情としてやむをえぬものがあると存じます。過日の婦人大会においても盛んに訴えておりましたので、お聞き及びかと存じますが、主婦たちは、好むと好まざるとにかかわらず、家事以外の分野で働くことを要求され、しかも、子供に對する不安は覆い切れないものがあるでございます。

昨年来、三重県婦人会の実態調査によりますと、十万四千三百二十六人中、家事以外のお仕事（家業を含む）を持っていますか、との問いに對して、持っている、と答えたもの四二・三％、ときによって持つ、と答えた者一一・三％、合計五三・六％がなんらかの職に付き、働いているのでございます。なお、家庭におります主婦においても、子供の手が離れたら働きたい、出られたらすぐにも出たいと希望いたしております者が六三・九％もございました。すなわち、現在の社会情勢におきましては、家庭の主婦も労働力の大きな供給源といたしまして、動員されつつあるのでございます。このことは、大切な心身成長期の子供や心理的に危険な青少年が、家庭において十分守られていないということを知っているわけでございまして、その中にはいわゆるカギっ子なる呼び名で呼ばれますところの、家に帰っても、自分がカギであけて一人切りいる、母のいないさびしい子供の存在を証明しておると思うのでございます。そして、一人居のさびしさに、家のカギをポケットにして友だちを求めて町をうろつくとき、強い刺激と誘惑が

少年非行へのおとし穴となっているのではないかと察せられるのでございます。弱く母たちを、心安らかに働くことができるように、また、心の弱い児童や誘惑の危険にさらされている青少年のために、なんらかの御処置をお願いしたいと希望するものでございます。

そこで、思いますに、児童館のような形式のものを、各地区に一律に御設置いただきますことは、将来はともかくといたしましても、すぐにはむずかしいことのように存じますが、性格的に同じようなつどの場を提供する意味とカギツ子のような学童を保育する意味において、公民館とか各学校の放課後の教室を指定、開放し、カウンセラーのような方を配置していただくなり、公民館主事の御協力をいただくなり、あるいは心ある先生方とかあるいは青少年問題に熱意のある地域の方々の人間心のふれ合いこいの場を、御指導のときを御用意いただくなら、母親たちはたいへん安心であり、青少年たちにとっても大きな仕合せであらうかと切に希望するものでございます。せっかく独立の公民館の建物を持ちながら、無人のままカギのかかっているものもございますことは、残念にたえません。公民館を切実に欲している地区も多いのでありまして、転用なり運用なり利用方をお願い申し上げます。

なお、学校教育、社会教育、青少年課、体育課、民生部門、警察部門等々にわたる青少年問題をいかに組織づけていこうとされているのか。また、それぞれに、青少年のためにいかに御配慮されているのか。

なお、カギツ子対策について御計画などありましたら、お聞かせいただきたいと存じます。

次に、子供の遊び場の問題でございます。

児童遊園地の整備につきましては、先に御要望申し上げ、そのうち逐次整備をいたしておりますことを承知いたし、厚く感謝申し上げます。しかし、数も多く、既設託児所などで御厄介になります自治会設立の遊園地や神社やお寺の遊具などもたいへん満ち足りておりますところが多いようで、事故がございましてからではなり

ませんので、監査、注意し、あるいは監査の責任の所在はいずれにございましょうか。ときには、命にもかかわることでございますので、補助金などに関係なく、監査をお願いしたいと存じます。

才二点は、町の美化運動についてお尋ね申し上げます。本年、当初において緑化推進委員会の御発足があり、相金額の御予算により町々と本市の表通りが美化されておりますことについて、皆日の姿を思っ心から感謝申し上げます。次才でございますが、本年のような干天続きの夏を終えてみますとき、たくさん草木が枯死いたしております。中には市民の警感による御寄付のものもありますように承わっておりますが、命ある草木に対し、命あるものとして日々の管理をお手配いただいておりますのでございましょうか。

また、町の諸所あるいは河川の堤防に御見いたします蘆荻の山に於いても、特別収束いただきます御苦勞は、たいへんなものと感謝いたしますが、そのあとがいたって不潔でございまして、ハエの発生源となっております。くすかごも少ないようですし、町の美化は環境衛生の部分とも密接な関連がございますことは、言をまたないところでございます。すなわち、衛生課、清掃課、土木課、都市計画課、下水道課等々それぞれに分担業務の上で美しい町づくりに御努力いただいておりますことと存じますが、その上に有機的に連絡し、処置もできるような、また、市民に公德心強化の教育もできるような美しい町づくりパトロールをお願いしたいと存じます。

現在、町の美化運動は、いかに展開していただいておりますのか、また、市長の御所信などお伺いしたいと存じます。

才三点は、環境衛生と伝染病対策についてお尋ねいたします。

本年は全国的に日本脳炎が多発しており、四日市市におきましても多数の患者を出しております。ために、子供を持つ母親たちの不安は随分高まり、過日も市民ホールにおける予防注射の折には、延々長蛇の列をなし、炎天下幼

ない子のミルクビンをかかえての行列に悲鳴をあげている母親の訴えも聞かれましたわけでございます。伝染病はつねに突発的であり、予測、予知はむずかしいものではございますが、こんごの予防処置と赤痢や集団食中毒患者の発生に対し、つねに一方先んじて御処置をいただくようカやハエの発生を放置していて伝染病を語ることもできないように存じます。環境衛生を含めて、市当局は衛生対策をどのようにお考えいただいているのか、お伺いしたいと存じます。

才四点は、特別給与に対する理念についてお尋ね申し上げます。

日夜、飛躍、発展をいたしております本市の中核機関であります市役所の吏員の方々の御苦労に対し、支給されます給与のうち、勤務場所によって各種諸手当の形で特別給与がございますが、このことは、公平を欠いております場合、一般の勤労意欲を阻害しあるいは優秀な人材を逃がすようなことになることを恐れます。特別給与に対する理念と、諸手当の内容について御説明をお願いしたいと存じます。

才五点は、防災計画でございます。

新潟地震以来、幾度か叫ばれました本市の防災計画につき、過日、寄頼を御送付いただきまして、ようやく心丈夫に存じたわけでございます。せっかく御苦心いただきました御計画の骨子とお考え方など、議会において御披露いただきましたら、市民の不安も一掃できるかと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。失礼いたしました。

〔厚生部長（平井清三君）登壇〕

○厚生部長（平井清三君） 御質問の才一点の青少年問題につきまして申し上げます。

まず、カギっ子に対する措置について御質問がございましたが、富洲原につくったような児童館を全市につくって

いくことは、むずかしいかもしれないが、現在ある施設の利用方法を考えてみたらどうか、こういう御質問でございますが、児童保育に対します理論的な研究は、まだ緒についたばかりでございますので、私どもといたしましては、こんごの実践を通じて研究を進めていきたい、このように考えております。

それで、富洲原の児童館には、その補助の一環として、現在、児童保育を行なっております。これをテストとしてこんご研究を続けていきたいと思っております。現在、同館には、富洲原小学校の一年生のカギっ子十四、五名を収容しております。

それから、現在松どものやっておりますことで、先進都市のカギっ子に対する設備の状況を調査研究しております、これらの結果を見まして、教育委員会とも密接に連絡、協議して、できることから実施に移していきたい、このように考えております。

それから、青少年問題の担当課と申しますか、これについては、警察とか民生とか教育委員会とかいろいろあるが、これの連絡調整はどうしてするのか、こういう御質問がございましたが、これにつきましては、青少年問題協議会がございますので、この組織を通じて連絡調整をはかっていきたい、このように考えております。

それから、児童遊園の家具の問題が出ておりましたが、本市におきましては、三十五年度以降在庫補助をえまして、毎年児童公園をつくっておりますのと、それから、市のほうから施設費の助成をいたしまして、自治会その他でつくっていたいております公園がございます。これらの管理につきましては、ただいま都市計画課のほうといろいろ協議して、規則のようなものを考えていきたい、このように思っております。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 青少年対策につきましての御質問のうちで、教育委員会関係に関する、二つお答えい

たします。

児童館のような性格を持ったものをつくる場合に、学校、公民館のようなものをそれに転用していく意思があるかどうかということでございますが、厚生部長がお答えいたしましたように、結論が出ましたならば、私たちも協力していきたいと思っております。

それで、その次に、公民館の運用の問題でございますが、これにつきましては皆様たいへん御迷惑をおかけしておるのでございますが、これは、ブロック制を現在とって、そのブロック制の検討をしながら運営をしておりますので御迷惑をかけておもうんですが、そのカギがかかっておるとかいうことにつきましては、このカギの管理者といたのですか、管理者を現在、用務員にお預けしたりしておるのですが、それは、いま私が考えておりますのは、自治会、婦人会その他たくさん利用していただくところにおあずけして運用をしていいたらと、こういうふうに思っております。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 環境衛生と伝染病対策についての御質問にお答えいたします。

事実をもって御指摘になりました、過日行なわれました日本脳炎の予防注射に延々炎天下に並んでおったというような御指摘の事項は、数字的にも私のほうでわかっております、これは八月初旬でございます。日本脳炎の予防接種につきましては、年次計画をもちまして、六月中旬、一応計画としては実施済みでございます。一応、希望をとり、各地に出っぱって実施したのでございますが、その後ときあたかも東海地方においてまん延の徴候があると、また、事実、発生患者が東海地方に多発したという情勢のもとに、市は保健所と連絡いたしました、急きよ才二次の希望接種をするという態度をとりまして、薬品の確保それから会場設定ということを行いました、実数で申し上げます。

すと、当初、計画といたしましては、十カ所程度のもを延べ三十カ所において実施したわけでございまして、市の直営といたしましては、だいたい九千人をいたしました。事業所におかれましては、だいたい二万名、そのほか学校関係で一万三千、だいたい四万五千人されたのが実績でございます。

これは、結果論でございますが、一応この場合は、御指摘のあったようにいちばん多い、一日でやりました日は、市民ホールで千名、これは六月のときでございますが、最少のときは、九月に入りまして六十四名というふうに非常に市がございしますが、御指摘のありましたことは、各方面からもあんに並ばさぬように注意しろという御指摘を受けて、市民病院の医者の増員、それから看護婦の応援といった応援の手を打ったわけでございますが、その計画の予防接種につきましては、比較的人数、それから人数における医者の配置ができますが、先般のようにほかの地方で多発したというさいには、われわれの予想以外の人員が一カ所に集中して、御指摘になりましたように千八百名ないし千名も並ぶというふうな事態に陥ったのでございます。非難はいたしません、予測しなかった事態ということにつきまして、さらに工夫を加えたい、こういうふうに思います。さいわい市民ホールあたりを使っております場合には、炎天下にさらされるといふこともございせんが、われわれのほうでいちばん心配しておりますのは、小会場における炎天下のさらし方、このことは、あるいは冬期におきまして、寒いところにおける予防接種とも関連をいたしますので、会場の設定、予想人員の把握といったものには、さらに研究をいたしたいと思っております。

このさい申し上げておきますが、だいたい市の広報によりましていついかにやるということとは、予測いたすんでございますが、その以後に申し込まれる方が非常に多いということで、予測についていささか困惑しておりますが、実績あるいは予想判断で、平均した予防接種をして円滑にいきたいというふうに考えとります。

それから、そのほかに、一般的に環境衛生の面に触れられて考え方の御質問がございましたが、一般的に申し上げます

と、予防衛生部門、これは、伝染病の予防接種、各種の接種がございますが、これは、だいたい年間計画でもちまして、予防期及び最盛期というふうに見分けてまして、ほとんど毎月一種ないし二種のを実施しております。そのほかに、先般も少し起きかけて終息いたしました、コレラのような二次的な接種あるいは法定伝染病以外の接種につきましては、厚生省の緊急特報あるいは県の防疫情報によりまして処理していきたいと。コレラにつきましても、港関係は、さいわい本市においては、港地区は保健所の手で実施しておりますので、先般の八月下旬の場合には、一応、薬の用意の手配はいたしました、ことなきをえたということでございますが、私どもの考えといたしましてはこの伝染病の予防ということは、台風の把握よりむしろというふうに考えております。が、あらゆる情報、系統をもちまして、市はまず県の保健所と連絡をとって、場合によれば市独自の防疫体制、とくに人員、薬、器材の確保ということについては、遺憾なきを期す決心でございます。

そのほか、環境衛生面におきますハエその他の防除につきましては、おもにごみ、し尿、それから、御指摘のありましたような下水の関係、それから、先ほども実例として出されました土木部門管理の公園化の問題というのがございますが、最近、組織の連絡化ということを非常にやかましく申しております、相当、各部門も連絡がよくなりまして、共同動作的なことが非常に多い。

実例を申し上げますならば、苦情の申し立てがあったときに、下水のパトロールカーを使う、あるいは公害課のパトロールカーを使う、あるいは衛生課の薬剤を携行して、苦情を処理するというふうに、逐次、市の持つておる機動力あるいは器材、各課の分担につきまして、徐々に効果を上げるような努力をいたして、将来ともに効果のあるようにいたしたいという決意を表明して、御答弁を終わります。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君）

お答えが残っております問題といたしまして、特別給与に関する理念の点と防災計画がございます。

特別給与の理念をお尋ねのゆえんのは、おそらく特殊なる技術者あたりに対する特別給与の体制が考えられてないならば、有用な人材をうるのに困難であろうという御着眼だと、私は察しております。いったい、給与につきましては、官職と責任に応じた建て前になっておりまして、準則に基いてされなさやならぬということになっております。その準則は、俸給法が中心になっておりますが、その他いろいろなものが定めてございまして、たとえば、危険作業に従事する場合におきましては手当を考へる、というように建て前になっております。その危険作業というのが、古い時代におきましては、たとえば、税務職員あたりは非常な危険を感じまして、敬税の困難な日本に国におきましては多大の被害を受けております。しかし、アメリカなどにおきましては、むしろ納税を誇りとしておりますので、かような点は危険だとは考へておらないだろうと思ひます。

このように、時代の変遷に伴ひまして変わるのでありまして、最近、レントゲンに従事しますところの人たちは、放射能の危険にさらされるという点におきまして、危険作業の範ちゅうに入りました。しかし、これも十分なる防護が行なわれ、また、人体の許容量の範囲内におきまして作業が考へられたならば、やがては危険な作業の範ちゅうから脱するようになるだろうと私は思っております。これは、すなわち、時代のすう勢に伴ってやらなさやならぬと思ひているわけです。

それらの点を考へまして、危険作業その他特殊な勤務に対する手当というものは、制度の上に蔽として考へられる建て前になっておりますが、その実際の施行に当たりましては、十分考慮を払わなさやならぬと思っております。

中でも、ある人がある側におきかたみ危険を感じたからといって、それは、その作業自身が危険作業であるという判断はしにくい。その時代において、おほそその事務をとる場合、その作業をする場合において、一般に社会上危険なり

と考えられるときには、危険作業であるとして、特殊勤務手当が考えられる、こんなふうな理念に立っておることを申し上げておきたいと思います。

しかし、私たちがこの面におきまして、とくに科学の進歩に伴いまして、懸念をして、これは多く払わなければならないと思っておりますのは、医学の方面であります。この日進月歩の医学の方面におきましては、その学識経験の高い公務員を獲得しなきゃなりません、非常に困難でありまして、これに対する特別給与という理念はありますけれども、その体制はまだ十分でない。従って、非常に人がえにくい、こういう事情があることは、私も恐れている点でありまして、こんごこの辺の考慮を払って、十分力を尽さなければならぬと考えております。

次に、防災計画はどうなっているかというお尋ねでございますが、これは、防災計画としましては、四日市地域防災計画というものが先に、基本案に基づきまして、防災会議で作成、決定いたしました。

この会議で決定しました計画は、関係の各機関の全能力を有効に発揮しまして、自分の生命、財産、身体を災害から守るというのが目的なのでありまして、そのためには予防の計画があり、また、その事態に際会しました場合には、災害前に対しますところの消滅なりあるいは水道なり、そういう災害に対する防衛の計画があります。また、災害を受けた面に対しましての応急復旧の対策もございます。さようなものにしまして、きわめて秘密に計画しておりますが、要は、これらの計画どおりに十分なる効果を発揮するように運営されることにあります。そういう点におきまして、実施の妙を発揮することをわれわれ念願しております。

なお、この計画は非常にほう大なのでありまして、皆さんの御指摘も十分いただくことが必要だと思いますから、お手元に、もし漏れておりましたら差し上げまして、御検討いただくことが必要だと、私は考えております。

〔都市計画課長（長谷川正逸君）登壇〕

○都市計画課長（長谷川正逸君） お答えをいたします。

児童公園の設置の件でございますが、仏どもいま所管しております公園は、市内に十カ所ございますが、この児童公園につきましては、だいたい十才前後の子供たちの遊び場として、いろいろ遊具、施設等を盛備いたしておりますが、それ以外の地区に対しても、相当、神社地であるとか寺院等におきまして、広場として、また遊び場として御使用なさっておられる点があるやにいま聞いたわけでありますが、これらにつきましては、十分こんご善処していきたいと思います。

ただ、御承知のとおり遊具施設につきましては利用が、その利用度数によっても異なりますが、だいたい三年くらいである程度補修をしないといけないという状態でございますので、この点についても、こんご十分考慮していきたいと、こういうふうに考えます。

また、御指摘のありました、本年度千天祝きのため、せっかく御寄付いただきました樹木が、仏の調査では二十三日ほど枯れたのがございますが、これらにつきましては、さっそく手配をいたしております、十分こんごも注意いたす点でございます。

なお、集水、放水につきましては、実施をいたしておったのでございますが、ややその時期が遅れましたために、非常に、仰せられましたとおり御迷惑をかけて、まことに遺憾に存しております。十分こんごは注意をいたす所存でございますので、よろしくお願いたします。

○議長（柳安吉君） 休憩いたします。

午後三時十五分休憩

○議長（錦安吉彦） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

坪井議員、御発言願います。

〔坪井妙子君登壇〕

○坪井妙子君 先ほど来、私の質問に対し、お答えを賜わりまして、まことにありがとうございます。

青少年の問題につきまして、教育長並びに民生部長よりお答えを賜わったわけでございますが、青少年は訴えることを知りません。与えられた環境の中で、よくも悪くもなるのでございます。どうぞ理事者の方々は、青少年のためになびたびで恐縮でございますが、あたたかい御配慮を賜りますように重ねてお願いをいたしたいと存じます。

カギっ子の問題につきましても、他都市に例を見ないとか、まだ未開拓の分野であるからというような理由で放置されますことは、大変残念でございます。要は、運用なり活用なりいたしまして、その精神に沿うように少しでも御努力を賜わりたいと思うものでございます。

また、町の美化運動につきまして、御提案申し上げました美しい町づくりのパトロールについてお願いやらお伺いを申し上げたわけでございますが、と申しますのは、ごみの山を市民から苦情がきてから取っていただいたり、道路がでこぼこだからと不平がきてから直していただいたり、あるいは草木がかれてしまっから水をやろうとか、添え木が取れてしまっから全部直そうというのでなくて、小さな箇所からすぐ手を入れていただきますならば、もっと経費もかからずに、市民の苦情も少なくてすむのではないかと、こんなふうに考えまして、衛生課の部門とか、清掃課の部門とか、あるいは土木課の部門だとかいうのでなしに、市長直轄の、なにか市内を監査する意味でもけっこうでございますが、いつも御配慮いただいているということを知りましたら、市民もどんなにか喜ぶことと存じます。

しましてお考えを伺ったわけでございますが、お答えを賜わりたいと存じます。

環境衛生と伝染病対策につきましても、衛生部長からお答えをいただきまして一応了といたしましたが、才一清掃課とか才二清掃課だという分野に限られておりますと、これも環境衛生のほうに苦情がないことにはしていただけないというような例を聞いておりますので、この辺、有機的に動いていただくことを重ねてお願いいたしておきたいと存じます。

それから、特別給与について助役の説明でよくわかりましたが、一般職員の給与処遇について不均衡があるように思いますので、この点についていま一度お伺いをいたしたいと思うわけでございます。

一度にいろいろ申し上げまして恐縮でございますが、よろしくお願いたします。

〔人事課長（佐々木晃精彦）登壇〕

○人事課長（佐々木晃精彦） ただいまの御質問に対してお答えいたします。

先ほどの閣議といたしまして、現在の特別勤務手当の中に不均衡はないかという御質問かと思えます。

先ほど助役の説明にもございましたが、内容は時代ともに施策の重点が変りますと、その内容も変ってまいりまして、植根といたしましては、現在十八歳組でございますが、おもにはとんどが建設によるものを除きまして定額でまいておるわけでございます。わずかに税務手当におきまして一部、率によりまして、これも本給との関係でございますが、率によりまして定められておるのがございます。

おそらく御不満が出ておりますのは、発殷途上にあります現在の四日市のおもに現場関係かと思えますが、現場に出られます方々との関係かと推察いたします。

具体的には想像いたしかねますので、やはり先ほどの答弁にもございましたように、実情に即したように検討すべ

き点もあるかと考えております。

以上でございます。

〔助役(庄司良一君)登壇〕

○助役(庄司良一君) 美しい町づくりについての御提案、まことにこもったものでございます。

当初議会におきまして市界説明にございましたように住みよい町、そのためには美しく町をつくりあげていくと、当然のことでございます。私もこれにできるだけの努力をしまいいつておるつもりでございます。

ところで、こういった仕事は、一時盛り上って線香花火のような形で消えて行くことは、もっともわれわれ戒心しなければならぬことでございます。

御指摘いただきましたように、今年七、八月の旱天のために、せっかく植えました街路樹を一部枯れさせましたこと、先ほど課長から説明があったとおりでございます。

私も当時、火のようになって腹を立て、指図をいたしましたところ、もうすでにそのときの二週間も前から夜水道のタンク車まで動員いたしまして、緊急給水を行なっていたのでございます。もってしても、なお二十数本の枯れたものを出した。こういうことは、まことに申しわけのないことでございまして、いつもこれを考えておるとはいながら、大勢的にこういった問題を、単に緑化に限らず、道路の小破損、あるいは塵埃の問題等々につきまして、市長のもとに統制ある協調体というようなものをつくりあげたらどうかというお話と承わっておるわけでございます。

市内部にも、何々委員会、何々協議会あるいは審議会、まことに多いわけでございますが、御指摘ももっとも思われますので、美化運動協議会というような形のものをつくりまして、定例的に関係、責任ある部課長がこの問題を

取り上げて、常に、四六時中これについての関心を薄れさせないような考え方をしていきたい、こういうふうに考えております。御了承いただきたいと思います。(「議長、関連」と呼ぶ者あり)

○議長(錦安吉君) 鈴木議員。

〔鈴木愛次君登壇〕

○鈴木愛次君 坪井議員の質問されました環境衛生と伝染病予防対策につきまして、先ほど来、衛生部長から御答弁がありました。今日は衛生課長が病気で欠席しておりますので、実は課長に質問しようと思っていたんですけれども、まあ部長に質問申し上げます。

今回の日本脳炎の発生は、全国的に多数見ましたが、もちろん当四日市におきましても、九名の患者で、また隣村では二名、十一名の発生、患者を見ておりますが、とくに日本脳炎は、後遺症としてあとに相当病気が残ると。辛いにして四日市に発生いたしましたのは、後遺症が残ったのはわずかに一名というように、非常に脅んでおる次第でございますが、この四日市にこのたび発生いたしました日本脳炎は、他の都市と多少異なった発生を見ております。その点につきましては、地域的、職業的、また式寮学内に特殊な例が出ております。その点について、部長は研究されたことがあるか。もし、その点に研究されたなら、いかなる処置をされたか。その点について、まずお伺い申します。

次に、お伺いしたいのは、これは助役でも、また担当部長でもけっこうですが、四日市市には、衛生課員の中に保健婦がただの一人もおられない。四日市を圍繞いたしておりますところの川越、朝日また坂野、楠等におきましても、各町ともに保健婦を常設いたしております。しかも、県内の各都市を調査いたしましたのに、時鹿で二名、龜山で四名、松阪で四名、伊勢で二名、上野で三名、名張で二名という保健婦を常設いたしましたして、住宅忠告の衛生管理、

指導をいたしております。

今日、一昨日もテレビで日本の結核患者が非常に減少したといえども、五十名に一名の結核患者がまだにあとを断たないというような現状は、そうした家にある、在宅結核患者の衛生管理、指導面において欠如があるのではないかといいことでございまして、その点、各都市等におきましては、とくに保健婦を常置いたしまして、そうした在宅患者の指導をいたしております。ましてや当四日市におきましては、公害の問題でせんそく病とか、あるいは四日市熱というようなものが出まして、その罹患者が非常に家で呻吟、苦吟しておるといふ姿もあるにかかわらず、一人の保健婦も衛生課の中に常置しておらないということは、いかなる理由でなされておるか、その点につきまして、まず以上の二点をお伺いしたうえにおきまして、他に二、三重ねて御質問申し上げたい、かように思います。（「議事進行について」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 北村議員。

〔北村与市君登壇〕

○北村与市君 簡単なことですから、理事者にお願ひしておきたいと思ひます。

議員が質問した場合に、市民の意見を聞きたいといった場合に、市長が出ないではかの人が出る場合は、かならず市長に代わって答弁をいたしますということをいただきたいと思います。

そこで、なぜ市長が答弁できないのか、そういう点については市長が、私がいわなくとも助役がこれは担任しているから助役にいわせる方がいいといったような場合は、代行されてもけっこうですが、議員としてはだれだれに質問したいということをいっているんだから、その人がよほどのことがない限りは答弁しないということはやめてもらいたい。

私はずっと見ておるのに、どうもそういうところがちぐはぐになっておる。いま坪井議員の質問に対しても、市長は緑化運動に対する問題について直接市長が担当するような、そういうものをつくる意思はないのかという質問に対して、市長は答えておられない。現在のところは、市長直轄のものは必要でないが、これこれのものを一度やってみて、その上でさらに市長直轄というようなことも考えてみたいという御答弁があれば納得するのではないか。そういう点が、ずっと聞いておると、ちぐはぐになって答弁がされておる。その点を、こんご議會では十分考慮されて、市長に聞きたい、助役に聞きたい、だれだれ部長に聞きたいといった場合に、他の方がやられる場合は、その部長にかわりまして私が答弁します、だれ部長のかわりに答弁申し上げます、こういうような方法で、どうしても市長に聞きたいというときには市長がやるとか、こういうふうに順序正しくやっていただきますと、聞いておるほうも非常に聞き苦しくしょうがない。

この点を一つ、議長の方でもよろしくお取りはからい願うとともに、理事者もその自覚をお願いしたいと思ひます。

〔衛生部長（中山英郎君）登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 日本脳炎に關しましての御質問にお答え申し上げます。

本市の患者発生状況は、他の都市と異った点があると思うが、それらに対する研究したことがあるかどうかという点でございまして、この点につきましては、部内の衛生課長あるいは担当係員等秘どもの実働の席上では、これはいずれも事務上でございまして、医学的な所見というものについては、責任持った態度が取れませんので、実は市民病院の山中先生の、事務長を通じて助言をえております。発生源及び病状、それから経緯というものにつきまして——とくに市民病院に入院いたしました患者の状況というものの助言を、とくに市民病院の事務長の特別のは

からいで助言を衛生部としては受けております。

それで、私どもの医学的なことは別といたしまして、御指摘の他都市と変った点につきましての見解を申し上げますと、十一名の患者の契機、それから一部市民病院の先ほど申し上げました助言の総括的に申しますと、おおむね今回の当市の場合には熊村付近に非常に多いと。しかもそれが一点でございます。市街中心地以外の点に発生者が多いということと、それから才二点におきましては、年令の中年以上のものが多かったということでございます。

それから、才三点は、発生経路的に見ますと、蚊が媒介であるということがはっきりしておりますが、その発病時点における状態、ことに患者の状態というものが炎天下における作業によって過労に陥った場合におおむね生じておるといふふうに、この三つが特異な現象であるといふふうに私どもは理解しております。

従いまして、御指摘はなかったのでございますが、われわれ内心は、ともすれば市街密集地帯中心地に消毒その他の、消毒班がございしますが、やったのを、この際はそういう地点も重点に向けてやいかぬということと、現有勢力七名の消毒班を遅ればせではございましたが、そういう発生個所の周辺を中心といたしましてあわてて消毒をしたというのが実情でございます。これが要約しました日本脳炎に対する変った認識のしかたと申しますか、そういう点でございます。

才二点の衛生課に保健婦がいないということでございますが、現在は、衛生課には職業別の人員配置につきまして、県下各市の状況を非常に詳しくお調べになったことにつきましては、敬意を表します。

現実の問題といたしましては、衛生課には三年前、四年くらいなると思いますが、四年くらい前には一名おったわけでございますが、稲成絵図の構成上、看護婦と切りかえられまして、現在はいません。その理由は、けっきょく総同主義で押しておりますので、絵図の上で衛生課何名ということを押しておりますので、保健婦という職名の者がい

ない。これにつきましても、われわれといたしましては、とくに今回の追加予算で退職追加予算をお願いしておるわけでございますが、母子健康の現状、とくに受胎の指導ということにつきまして今回追加をお願いしておるわけでございますが、これらの方策につきましても考慮したんでございますが、これらにつきましては保健婦が必要であるということはわかっておるのでございますが、人員のしほり方によってこれが充足されていない。その結果、われわれといたしましては、他力本願というとおかしいのでございますが、市内の助産婦協会の方々を囑託にするという手を今回はもちいました。

それから、御指摘のありました公害で苦しんでいる連中、公害で苦しんでいるグループに対する指導ということについても必要だということとはわれわれも承知しておりますが、これにつきましても保健所の保健婦を数基地の機律あたしに派遣してもらいまして、記録その他を市の更員がやるというふうな他力本願で、あるいは嘱託、あるいは臨時的に応援してもらおうというふうな感勞でいまきておる状況でございます。

将来、私どもの考えといたしましては、市全体を考えた場合におきましては、せっかく国民健康保険がございまして、国民健康保険の保険向上という点から衛生課とか保険課とかいわずに、市一本の保険本部の連携のもとにそういうグループがほしい、必要だということをいま考えまわっていますが、総体人員の關係で現在は実現しておりませんが、その実現されることにさらに努力したいと存じます。

以上、一応申し上げます。

〔鈴木愛次付登壇〕

○鈴木愛次付 ただいまの衛生部長の答弁は、先ほど坪井議員の御質問に市独自の衛生対策とおっしゃいましたが、今回の日本脳炎の状況は、いま部長のいわれたとおり四日市旧市内からただの一名の罹患者も出ておりません。いず

れも付近、いわゆる農村地域であります。しかも年令的には、いまの部長の御答弁はどうかと思う点がありますが、とくに農村で農業でない方で、とくに洋服の行商人とか、あるいは牛乳の配達というような非常に体の疲れる職業の方が多いというようなことは、本年はとくに氣象学的にも湿度、本年は高温高湿、いわゆる多湿と申しまして九〇%以上続いた日が連日あったというようなことから言ひまして、そうしたために体の疲労が一つの原因となり、また、農村でなぜ多いかということは、もちろん蚊、蚊と同時に少しく衛生学、医学の本をひもどいて見れば、その蚊はなにがゆえにその発生の原因になるかというようなことは、すぐおわかりになる。それに対処するところの独自の衛生対策が打ち出されるはずと思うんですが、そこまでお聞きしたかったんですが、先ほどの説明では病院の方と御相談申し上げて善処いたしておると、まことにやむをえん次第でございます。

これにつきまして、とくに市長にお尋ね申し上げます。

四日市の、二十一万都市の衛生行政を、とくに衛生管理、指導する上におきまして、ただ一人の技術者もおらない。医学あるいは衛生学を習得した者が、ただの一人もおらない。学歴を申し上げてまことに失礼ですが、四日市の衛生部長、衛生課長、衛生課長補佐、この三名の方の学歴を調べますと、横浜専門学校貿易科、エキも防疫のエキならよろしいんですけども、物を商売する貿易科の御出身である。また、三重師範の専攻科をお出になった方。また、京都の商工学校の御出身の方。この三人のトリオで二十一万市民の衛生対策をやろうと、まことに私ははだえにあわの生ずる思いがするのであります。

その点について、市長はこんごそういう基礎的な医学、衛生学を習得された者をお入れになって、しっかり四日市の衛生行政をおやりになる御意思があるのかないのか、このままでいいんだというお考えか、伺いたいというのと、いま保健婦の問題にしましても、四日市の保健所は好意的に公費対策その他につきましても援助は忙しかかわるを申し上げます。

ずいたしておりますが、市自体といたしましても当然保健婦の三名や四名は置いて、そうした在宅患者の手厚い、あたたかい相談に応じてやる必要があるんじゃないかと、かように思いますが、その点、市長はどのように考えておられるか、お伺い申し上げます。

次に、先ほど坪井議員の御質問になりました特別給与に対する理惑、また追加で御質問いただきました一般職員の給与の処遇に不均衡があるんじゃないかという点につきまして質問がありました。これにつきまして重ねて御質問を申し上げます。

官民とも最近この技術系統の職員の不足をいたしておるということは、当然でございますが、とくに四日市市におきましては、ここ数年、土木課におきまして、土木本科と申しますか、工科を出た者はただの一人も四日市市に採用の希望はありません。と申しますのは、まだ五、六年前は三重大学の農業土木を出た者が四日市の市民だと、また長男だから他に行くのはどうかと思うという点で、志望者も一、二ありましたが、農業土木を出た者すら今日四日市の市役所に勤めるという者は一人もいない。なぜそういうような状況になったかと申しますと、まずはっきり申し上げて給与が悪い。とくに初任給が悪い。また、将来に希望がもてない。この二つの理由で、四日市市の希望者はない。しかも事務吏員は、毎年試験いたしますと十倍、二十倍の多数の志願者がありますけれども、技術吏員に對しましてはただの一人もないというのが現状です。

今日、下水道問題にしましても、相当多く事業の拡張がなされますが、おそらく土木の本科を出た者は、四日市市に志す者は一人もございません。はっきり申し上げます。

それは、一つこの土木課なりあるいは建築課にこの例をとってみますという、土木課には技術職員が約十五名おります。立派に学校を出た者が十五名おります。その内、課長はただ一人。課長補佐は事務系職である。課長はわず

か二名。その三人の役付しかないんだと。今日、職務制があつて、役付にならぬ限りは昇給はストップはさせぬが、非常に遅れるというのが現状であります。十五名近くの技術者がおつて、課長は定年になってよそに行くか、あるいは病気で死ぬか、非常に表現はまずいのですけれども、そうした事態が生じなければ係長すらならない。わずか三名しか、土木課の職員の中では三名しか役付にれないというような現状である。

また、最もはなけだしいのは建築課でございます。建築課の内容を調べてみますというと、あすこに技術職員が十九名おります。その内課長一名、幸いにして課長補佐は技術系統で二名入つております。係長は三名。しかも非常にむずかしい国家試験であるところの一級建築士、二級建築士の資格を持った者が十三名おります。それが、いま役付の者がわずか六名しかおられない。しかも一級建築士の資格を取り、他の会社にまれば少くとも五万ないし六万の給与が支給される、にもかかわらず一級建築士の有資格で勤めて七年、八年なるものが、しかも年令におきまして三十二、三十三才になつておる。それがいまだに延々遅々として女の方の同年令者と同じような給与がなされておる。

かようなことは、本当に市の吏員として、勤務意欲を盛り上げた市の吏員として活動ができるだろうか、まことに遺憾千万であると思うわけです。それらの点につきましても、とくに人事課におきましては、一応助役からも一つそれをいかにするか、こんごういうふうにして優遇してやるかというような点が一つと、もう一点お伺いしたいのは、先ほど特別手当の待遇の問題でございますが、いろいろ規定があつて、危険手当とかいろいろなことで処遇されておりますが、先ほど申したような建築課の職員は現場監督と申しまして、絶えず建築現場に派遣されて工事の監督をいたしておりますが、今日、その人夫等の状況は、きわめて程度の悪い方も見えて、現場監督をしている市吏員がスコップで頭なぐられておる。その姿を私は現認しておるのです。非常な身を挺しての努力をいたしております。また、競輪職員にいたしましても、この九月は一億六千五百万円というような競輪始つて以来の最高記録の売

り上げを示しておりますが、そういう大衆を相手になにか事故があつたら、非常にその折衝に身を挺して、自分の身を犠牲にしてその大衆と折衝する。まことに私は非常な努力、また御苦労であると常日ごろ産業経済委員の一人として、常日ごろ考えておりますが、そういう方にはなんら手当はなされておられない。しかも、税務吏員の方は、部外以下窓口におられる方も、いずれも八割増給なされておる。

また、市の監査委員の事務局の職員は、女事務員一人を除いていずれも全員が役付の三等職になつておるという例もあり、そうした非常に御苦労をみておられている市の吏員の方に対する不均衡がある。私は、決して税務吏員の八割、あるいは水道局の給与手当いろいろありますが、これはその必要に感じ、また国からの指令等もありまして、さように決定されたので、これを下げよとかあるいは中止せよということは申し上げません。そういう場合に努力しておる、本当に身を挺して市のために働いておる職員に對しては優遇してやる、同じように考えてやるということが必要ではないかと思つております。その点につきまして、先ほど助役からの答弁もありましたが、なお重ねて助役の御答弁なり、市役の御答弁をお願いを申し上げます。以上、御質問を申し上げまして、御答弁によって再度御質問を申し上げます。

〔助役（二宮力吉）登壇〕

○助役（二宮力吉）　ただいま給与の点に言及されました、職員が将来に希望を持つような体制の給与を御注意をいただいたのであります。

特殊勤務手当等の考慮につきましては、かねがね職員組合も労働条件に見合う問題としまして頻りに交渉をしております。いずれをわれわれのほうで採用しいずれを是正すべきかというようにつきましても、なお考慮すべきものがございしますが、ただいま御指摘になりましたのは、あるいは税關とか土木とか建築という方面の方々のように

であります。これらにつきましても、こんごういう給与の理念のみにとらわれず、体制を確めることがこの意義を貫く上において必要であるという御主張でありまして、その点におきましては、われわれも実情が許す限りそれらの点を研究しまして体制を整備するようにしたいと、こういうことでお答えしたいと思っております。

なお、全般的に職員の構成自体がさうなひずみを来たすというふうな点がありますので、これは全職員の構成の是正によりましてすぐわれる面があるということも考えなければならぬということも申し上げておかなければならぬと思いますが、いずれにしても人事行政につきましては、先般、一つの部の組織をほしいという意見も強力にありまして、市長公室の所屬にしまして、これを一つの部のような気持ちでこれらの点を検討加えたい、かように思っております。

ときあたかも工工〇条約が批准されようとしているときでありまして、この問題もまた人事行政の刷新を要することとなるものありと信じておりますので、勉強したいと思っております。

〔市段（平田佐矩君）登壇〕

○市段（平田佐矩君） この二十数方の市民をかかえておって、医療のお医者さまのこの立場からいっこうなにも手が打ってないじゃないか、仰せられるとそのとおり、まことに恐縮に存する次第でございますが、今日までの四日市の取ってききました方向からいいますと、そのつど權威者の御意見を聞いて善処してきたのでございますが、この公害問題に伴いまして、われわれといたしましては、これではどうも權威のある市の意見がまとまりにくいということで、市長公室関係で実は權威ある方々を招聘したいと考えておりまして、いろいろわたりをつけておるのでございます。

ところが、なかなかお医者さまのほうでも、いよいよ入ってそうして市の責任をもって善処していくということに

ついては、責任も非常に重くなりますので、なかなか踏み切っていただくことができない。同じことならばやはり權威ある方々と同時にやはり四日市の実情を御存じの方々がいいだろうということを、われわれ考えておるのでございますが、なおこの手はきめたわけではございませんので、もそっといま考えておりますような事を進めまして、そうして筆に御了承をえしましたならば、その方の御意見を御取り入れて陣容を固めていきたいと、こう存じておるような次第でございます。

それから、いま御指摘になりました各部門におきます専門家がまことに之しくて貧弱じゃないかと、これもごもつともでございますが、実際問題となりますと、なかなか内部のほうにもいろいろな不つり合いの場面がたくさんできてきてまして、そういうものを是正しなきゃならぬ。これが相當な分岐になり、相當な困難な問題もございます。ですから、今日の各市の傾向といたしましては、やはり専門的な方々にお願いをし、そしてそういうものを一つの意見よりどころとして進めていこうというふうな傾向がふえてまいりました。なにかのことがあったために、それを阻止するためにやたらに人を入れて、それがなくなるという、その人のやり場に困ってしまってもならぬと、そのためにはほとんどその年の財政の大部分というものを消滅せんならぬ。

ある点のごときは、そういう例がたくさんあるんでございまして、これがなかなかそのよほどよし感じを考えませんというところ、そこは非常に分岐の点でございまして、ここがあれと思いますが、しかしやはり市にも立派な専門家を招聘しまして、そうして解成委員としてその御意見を中心として愚図を廻していくという取組にいたしますことは、こりやまあ一番正しい道でございまして、できるだけ取り入れていきたいと思いますが、直ちに全般的にそれを踏み行なうということが非常にむずかしいと思います。

この点につきましては、十分一つ御了承を願いたいと思いますが、なおそれならば現任のメンバーの中で、非常に

難儀をして働いておる人もあると。それにかかわらずいろいろの手当の問題等について、少しいびつがあるように考えられる場所もないではございません。こういうような場面は、漸次取り上げまして、是正をしていきたいと常々考えておるのでございますが、やはりそういうことをやりますのには、一つの機会がまいりまして、そうして大きく物事を変革していくときにやったほうがいいんじゃないかなというような考えから、ただいま公室でもっていろいろ検討加えておるような次才でございます。できうる限り御趣旨を尊重いたしまして、善処さしていただきたいと存じます。

〔鈴木愛次君登壇〕

○鈴木愛次君　ただ今の発言中に、部長等の責任と申し上げましたが、いずれもその筆にある部長、衛生課長、衛生係長は、全く確然爽直な方であって、決して公務員といたしましては、立派な方でありますが、ただし衛生課長とか衛生課長補佐では不適任であると申し上げておるわけでございます。先ほど申し上げておるとおり少くとも衛生学、医学というものは専門の技術者です。その技術を習得し、しかも技術を市当局が無視しておるではないかと思われる点があるので、さように申し上げた次才でありまして、かならずしも高級の医者でなくても、基礎的な衛生学、基礎的な医学を習得いたしておれば、先ほどの日本脳炎の予防対策は必然的にどこであるのか。蚊にいたしまして、蚊もいろいろ種類があって、コガタアカイエカという蚊によって伝染されるのだ、その蚊を撲滅すれば当然予防措置もできる。また、予防注射にいたしましたけれども、おそらく二回の皮下注射を実施すれば九五〇の予防措置がなされるというようなことは、先ほど再三申し上げたとおり基礎的な衛生学、衛生学を習得いたしておれば、その発生状況、地域、気象学的にいろいろと考察すれば、その医学書をひもどいて見ればおのずから四日市市の独自の発生対象が、予防対策ができるわけでございますので、そういう点についてとくに一つすみやかなるそういう方の設置について強く要望

すると同時に、また保健婦の設置につきましても、まことに恥しい。他の都市でもみなはいとる。この四日市市はただの一人もおらないということは、きわめて残念なことでございますので、この点もとくに市長は一つお考えを願いたいと思っております。

なお、そこで最後にお伺いしたいのは、そういう職員の処遇については、いろいろな問題がありますので、とくにそうしたこんごの採用面について、また現在の職員の現状から見まして、大学を出て五年たったら係長にしてやるのか、係長待遇にしてやるのか、係長を七年くらいしたら課長待遇にしてやるのか、課長を十年したら部長待遇にしてやるか、一つの待遇職ですね、その職を十分一つ処遇についてのお考えは願えんものかどうか。人のために課や部はつくる必要は絶対にありませんが、そういう一つの待遇職によって、本人の身分を安定してやる。また、そうした職階があるために、役付にならなければなんとしても昇給が遅延するという点がありますので、そういう役付に対しては、待遇職を与えてやるというような点についてのお考えはあるかないか、この点について重ねてお尋ね申し上げます。

〔助役(庄司良一君)登壇〕

○助役(庄司良一君)　技術職員の処遇について、いろいろと御指摘がございましたが、私、先ほどお話のありました土木、建築等の技術関係を担当いたしておる関係から、私からこの点についての考え方を御説明させていただきたいと思っております。

職員全般の給与が高いはいいことでございまして、まず市役所は給与が少ない、もっと上げてやれというようなお話をございまして、まことにありがとうございます。(笑)

ところで、公務員といえどもやはり経済原則に全く従うようでございます。需要供給がそのまま現われてまいりま

す。一般社会が給与がいい場合には、それに該当する人たちは、そのほうへ流れてまいります。技術者が今日、四日市役所に希望者がほとんどない、こういう御指摘、そのとおりでございます。私もこれについて非常に悩んでいるわけでございます。

しかしながら、これは国・県・市を通じまして、公共団体の中では四日市市は決して悪くはないんでございます。この三者を比較いたしますと、四日市市が一番いいわけでございます。この点も一つ、とくに悪くしておるわけではございませんので御承知いただきたいと思ひます。

ところで、喫緊問題として新たな職員がこない、これについては、私どもも十分責任を感じておるわけでございます。PRに努めて、各放生源である学校等とのわたりをつけて、四日市市というしにせを逐次つくり上げていきたい。これはもうしにせがないためにこないりであらう、こういうふうに私は考えておるわけでございます。

ところで、部課によりましては、御指摘のように非常な英才がたくさんならんでおります。終戦後のどさくさまぎれに、たいていくずが集るといふ表現になるんでございますが、四日市市におきましては、その当時に非常に優秀な方々が入ってきてくれておる。そこからつまっておるんでございます。

ところで、職階制をとっておる建て前から申しますというところ、お説のように改叙につかないという給与が遅ってくる。まことにそのとおりでございます。この問題については、私どももかねがね頭を痛めております。国におきましては、こういった矛盾が同じようにあるわけでございます。これの救済策として、専門官という名前の職名をつけ、あるいは調査官、計画官こういうような課長以外にそういう職名をつくりまして、なんとか是正しているのが実情でございます。

この考え方というものを、四日市市におきましてもそろそろ取り入れなければならぬ時期に到達したのではないか。

今日まではなんとかまいました。順序から申しまして、そう特別の矛盾もないように思ひます。しかしながら、もう考えなければならぬ段取りに立ち至ったと思っておりますので、そういった問題の担当の私といたしまして、市長及び二宮助役、さらに人事課長に対しまして特別の専門職の調度を取り入れようじやないかと、こういう建て前で現在検討を加えつづけておりますので、御了承いただきたいと思います。

〔鈴木愛次君登壇〕

○鈴木愛次君 ただいまの助役の御答弁には、特別に矛盾はないように思われる。四日市市は、そう待遇そのものは悪いということはないんだというような御答弁が一部なされましたが、私はよしあしよりむしろ公平なる給与、不均衡なる給与の是正ということが非常にいいことであると思ひつづけてございまして、元はどから申したとおり一級建築士の資格を取っても、必ずかしい試験を受けながら、その者が五年も七年も八年も現任勤めておって、それが四等給で処遇されておる。かほどの過酷な処遇は、どう考えても私としてはなはだ納得いかない点があるので、そういう不均衡の点を強く申し上げておるわけでございます。あとの御答弁に専門職を取り入れたことについてのようやく調査の段階にきておるといふお話をいただきましたので、それを了としまして一日も早くこれが実現に最善の御努力をお願い申し上げますと同時に、この席で失礼ですけれどもとくに市長に要望を申し上げますが、大四日市建設のために非常に日夜東奔西走、御努力をいただいておりますのは、非常に感謝をいたしておる一人でございますが、先ほど来申し上げておるとおり陸健婦一人も四日市市におらない、職員の処遇には非常に差違があるというふうな、またそういうした悩める在宅患者にあたにかい半をのべるといふようなこまかい点に、ややもすれば市政というものはなされておらないかというふうに思われますので、せめて日曜の半日なりとも静かに休養されまして、戸なき戸に耳を傾けられまして、あたたかい市政、さめのかまかい市政に一段の御配慮をお願い申しまして、質問を打ち切ります。

(「議長」と呼ぶ者あり)

○議長(錦安吉彦) 伊藤議員。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 坪井議員の御質問に関連をいたしまして、きわめて簡単に二問ほどお伺いを申し上げたいと思います。その第一番は、防災計画でございます。とくに工場地帯の防災について、具体的にお尋ね申し上げたいと存じます。申すまでもなく市政の第一番にかなめと申すものは、市民生活に不安を与えない、安んじてその日の生活ができるということであると確信をいたしております。この点から、私は、六月議会にもこの席上からお願いをいたしたのでございますが、確答を求めることがなかなかおぼつかしなかった。ここに重ねてお尋ねを申し上げるのであります。市民生活に不安を与えない。安んじてその日の生活がでるような環境をつくってやる、この点についてであります。

このことにつきましては、市当局非常に御心痛になつて、私どもの手元に四日市地域防災計画という百六十ページにわたるこの御計画をいただいております。ずっと初めからしまいまで非常な期待をもって再三見せていただきました。防火の方面や、あるいは防水の方面、水防の方面に、あるいはその他の地震などの災害にわたっていろいろと詳細な御計画が立てられておるんでありますが、このことがただ単に計画ということであつて、実際にこれが生きて働くようにありたいと願うものであります。

さて、その五十四ページにこういうことが書かれてあります。「危険物火災を誘発することが予想せられるので、つねに関係者と打ち合せを行ない、地震時に使用可能な消防水利を敷地内に」云々と書かれてございまして、つねに関係者とのことについて詳細打ち合せをするということが書かれてございしますが、この点につきましては、大きな

期待をもっております。この間も新潟地震の被害書、応急対策の状況調査の報告書をいたしておるのでございますが、ちょうど六月十六日から今日で百日目でございます。人のうわさも七十五日とか申しますが、この工場地帯には絶対にこれが消えやるものではございません。この中にこういうことが書かれてあります。「石油タンクの爆発によって新潟市の消防本部は、必死の消火作業を取行したが、いよいよ勢いを増して民家に類焼し、そのありさまはまさに京焼投下を見るようなものであった。そうして市民は、もう右往左往にうばいした」というようなことが書かれてございしますので、この計画書の関係者との打ち合せと、これと勘案いたしまして、どのような具体的な御指導、御計画がさらに横まれてあるのかお伺いを申し上げたいというのが第一点でございます。

第二点。第二点につきましては、九月十五日に塩浜小学校に突如として悪臭ガスが襲いました。これは、単なる悪臭ガスというよりも、災害の域にはあると存するのでございます。すなわち八時ごろ悪臭、玉ねぎのくさったような非常な悪臭があつた。被害の域に襲ひまして、十時ごろがその最盛に達しておる。十時三十分ごろになると、各教室において授業中の教師、あるいは児童すべてが頭痛、そうして胸の痛み、悪寒、嘔吐逐には低学年が鼻血を出す、こういうような状況が現われまして、授業を放棄するのやむなきに至つた。こういうような事実があつた。年寄りの日の午前中にありました。

これについて、どのような措置が取られたのであるか、この件についてお伺いを申したい。

以上の二つの点について、承りたいと存じます。

○議長(錦安吉彦) 暫時、休憩いたします。

午後四時四十分休憩

○議長（綿安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

〔消防長（竹内鉄雄君） 登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君） 防災計画の中の事前措置として危険物製造所等の施設は云々と、そして絶えず関係者と打ち合せを行ない地震時に使用可能な云々ということがうたつてあるが、具体的にどういふことを打ち合せておるかという御質問のようでございますので、お答え申します。

これは、ここに書いてあるように、消防器材、消火薬品、人目等をつねに災害に対処できるように配置する、あるいは水利の確保をはかるということでございます。この打ち合せの結果といたしまして、大脇石油、三菱油化、合成ゴムそれから四日市昭和石油これらの工場におきましては、地震時に地上の水槽であるとか、あるいは地下においてもコンクリート作りの水槽はこわれるおそれがありますので、掘り抜きとかあるいはいろんな地震のときを考慮して、こわれないような水槽の計画をただまいたしております。

それから、消防力の強化といたしまして、三菱油化におきましては化学消防車の増強を計画し、すでに発注をいたしておるようでございます。なお、化学薬品の原液運搬の車等も増強しておるところでございます。

さらには、各工場で百七、八十トンの化学消火液を持っておりますけれども、それでは不足ということで、さらにこれを増強しているような状況でございます。

以上でございます。

〔衛生部長（中山英郎君） 登壇〕

○衛生部長（中山英郎君） 九月十五日の悪臭の件のお尋ねでございますが、ちようどその日は、弘、及び公害対策

課長は、市の公害対策委員会の出行をいたしております。東京、千葉方面へ出張中でございます。私自身、その状況をつまびらかに承知しておりません。はっきり責任もってお答えできませんことは、残念でございますが、いま係の者に事情を聴取いたしてみますと、その日は無風ないし二メートルの北風の風であったと。それから訴えといたしましては、高砂町及び塩浜のほうにあったと。午起方面には全然なかったということでございまして、当日の行動といたしましては、留守部隊は、保健所は所長もわれわれと同行しておりました。保健所の公害対策課長の一班は、大脇石油、北部のほうに走り、それから市の公害対策課の係長は昭和石油のほうへ、塩浜へ走って、公害パトロールカーによって調査し、それから電話照会によって主要工場の事故の有無を尋ねたところ、しばらくたって内部点検したところが、装置の故障はないという返答があったと。それから、情報といたして検知管を持って行ったそうでございますが、パトカーが検知管を持って行ったじぶんには吸引できないような微量のものであったと。ただ一つ立証できることは、築港病院において硫化水素系のものが微量発見されたという状況でございます。教育委員会へ入った情報といたしましては、塩浜小学校がくさいということで、訴えがあったからということで、市の公害対策課のほうへ連絡があったという状況でございます。悪臭ガスの成分分析は不成功に終わったようでございます。

それ以上のことは、現在判明しておりませんが、事後の時点では短かい時間であって、現在の判定としては無風状態と気象の条件によって上空のものが降下した。しかもそれが全地域でなくして、むらむらの地点に降下したというのが、今回の、十五日の発生状況でございます。

従いまして、短かい時間でございます。また、科学的裏づけがございませんので、特別な処置は取らなかったというのが実情でございます。以上。

それから、先ほど私の発言中、市民病院という発言がございましたが、議長の御注意によって市立四日市病院の誤

まりでありますので、御訂正申し上げます。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君　ただいま私の尋ねたことに対して、御答弁を賜ったのでございますが、災害防止につきましては、ただ薬材を準備する、あるいは防火の必要水の確保ということだけではなしに、あの大きな重油タンク、あるいは原油のタンク差し渡し八十メートルもあるという大きなタンクが学校のすぐそばに建てられておる。それに対してどのような御指導をなさっていただけるのだろうか。あるいはまたあの防災計画書を見ますというと、運河の水を御使用になられるようなことを拝見したのでございますが、干潮時にはもうたゞいまでは運河の底がさがりまして、ほとんど水をくみ取るという役には立たないのが現状でございます。そういう点をしさいに御検討を賜わって、そうしてあの運河を万一の場合で、あそこで原油なり重油なりの流出をくい止める非常にいい防壁になるようにあれをもう少ししものような深さに堀るとか、あるいは外側に防壁を設けるとか、こういうような御指導、あるいは市の計画、こういうものが好ましいのでありますが、それについていま一昨お尋ね申し上げたいと思います。

次に、塩浜小学校の問題につきましては、私がきわめてこれを重要視いたすゆえんは、学校当局にお伺いしますと、金児爺、全職員が頭痛、それから胸の痛み、涙が出る、そしてその玉ねぎのくさった耐えられないような悪臭に襲われた。そうして、鼻血を出すにいたる子供までが出た。あまつさえ授業を中止するのやむなきに至った。たとえ二時間でも三時間でもそういう状態に置かれたということについて、これはよほど善後処置を考えていただきたい。単なるこれは、公害、悪臭だと片づけるべき性格のものではないと私は思うのでございます。

それにかかわらず、そのときに来ていただいたパトロールの方々も、これはなんとも仕方がないなおしやるだけで、なんらこれについて探求をしていただけなかったということを非常に父兄の人たちも残念に思っておるわけで

ございます。

従いまして、発生源がどこであるということがわからないためか、会社、近くの企業の方々はいっこう平常と受けたことがないのやから知らぬというような形。こういうようなことではたしていいのであろうか。元来、塩浜の小学校には、そういう猛烈な悪臭が襲ってきたということは、過去にはなかったことでございます。それが今回、このような、十五日のことで授業ができなかったということについて、いまだ少し私は関係の方々の御意見を伺いたいといと、こんなに思います。重ねて御質問を申し上げます。

〔消防長（竹内鉄雄君）登壇〕

○消防長（竹内鉄雄君）　あすこの運河の水利は、干潮時には使えないのじやないかというようにお話でございすけれども、仏どもといたしましては、地盤時におきましては、電気が止まり、その他いろいろの故障が起きまして、消火せん等の水利を使えないものだということを考えまして、できうるだけ自然水利を利用することの考えから、あの水利も当然使わなければならぬものとして防災計画の中にはめたのでございます。

・むろん、あのクリークは、油が流れとる場合に、こちらへ、一畝民家のほうへ流れてくる油を止める役目をいたしております。そういうことで御了承いただきたいと思います。

それから、もう一つ塩浜の小学校付近にあるタンクはどういうふうに指導したかということでございますが、これは御承知のように現在の消防法、並びにそれに基づく危険物の規制に関する規則の内では、これこれこういうぐあいの施設をもって、これだけの距離がある場合にはかならず許可を与えなければならぬという法制の建て前になっております。それでは、そういう学校の近くでなしに、もうちょっとはかのところへ建てさすように指導すればいいじやないかというようにお話も出ると思いますが、あの工場内にあれだけのタンク群を作るだけの地所もござい

ませんし、工場側におきましてあれだけの、いわゆる消防法上の技術上の基準に適合した申請を出してきた場合に、私どものほうにおきまして、その許可について裁量の余地が全くございませんで、まだあれでも相当の保安施設からの距離がございますので、許可を与えなければならぬということに基づいて許可をいたしておるのでございます。

ただし、それだからといって行政指導上を放置するというのではございませんで、規則には防油堤は鉄筋コンクリートでもよろしいし、あるいはブロックでもよろしいということでございますけれども、新潟地震の実例から考え合せてみまして、どうも鉄筋コンクリートなりあるいはブロックの防油堤では、いったんこわれた場合に補修がなかなかかかないということで、さらに土盛りをして防油堤を作るということを、指導はいたしております。

○議長（菊安吉君） 伊藤議員にお尋ねしますが、塩浜小学校を襲った悪臭の問題は、防災計画に関連して御質問ですか、環境衛生に関連しての御質問ですか。再度の御質問のようでございますので、才一回はまあ議長もうっかりしておりましたけれども、ちょっとお答えいただきたいと思います。どういうお考えですか。

○伊藤太郎君 この席で――。

私はですな、あの災害に公害は、単なる公害とは事情を異にしております。鼻血が出たり、あるいは全校生徒が頭痛を訴えるというようなことで、ほとんどいわゆるわれわれの常識という公害の域を越えている、いわゆる公害の域をもう越えて、災害とみなすべきではないか、こういうような考えでおりますので、塩浜地区の特殊な防災を……。

○議長（菊安吉君） 理事者、答弁願います。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 九月十五日の当時、私は市の北部にありまして、塩浜方面の情報は全く聞いておりませんが、いま伺いますというと、いわゆる公害というよりも、塩浜地帯に将来もあるいは起るかもしれないというような災害

に属するのではないかという懸念があるというお話をございますので、すんだこととしないで、もう一度それをよく探求しまして、そしてその原因が那边にあったかということ、並びにそれがこんごはどんなふうな形でまた再発を予想されるかというふうなことをよくさわめまして、災害と目すべきものでありましたら災害の対策として十分戒心したいと思います。

また、たとえ公害でありましても、それは非常に激烈なものであるということにおきまして、こんごの公害対策としまして早い教訓であると思えますから、このままに過去のものとして驛らないで、もう一度一つ新しく探求して、しかるのちに御納付のいくようなお話をまた直接申し上げたいと考えております。（伊藤太郎君「了解」と呼ぶ）

○議長（菊安吉君） ほかにございませんか。

本日はこの程度にとどめ、あとの方の質問は明日お預けすることにいたします。

明日は、午前十時に会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後五時十二分収会

昭和三十九年九月二十五日

四日市市議定会定例会会議録(第三号)

四日市市議会

四日市市議會定例會議事速記録

昭和三十三年九月二十五日

昭和三十三年九月四日市市議會定例會議事速記録 才三号

○昭和三十三年九月二十五日(金曜日)午前十時五分開議

○出席議員(三十五名)

米田好兼速記	酒井昌一君	北村与市君	錦安吉君	藤谷祐一君	安垣勇君	坪井妙子君	岩田雄君	喜多野等君	前川辰男君	伊藤太郎君	鈴木愛次君	宮崎春吉君	坂上長十君	田村末松君
--------	-------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

○議案説明のため出席した者（四十八名）

市	助	助	収	総	税	産	厚	衛
長	役	役	入	務	務	業	生	生
平	二	川	岩	長	長	長	長	長
田	宮	崎	野	長	長	長	長	長
佐	良	祐	見	長	長	長	長	長
矩	一	男	芥	長	長	長	長	長
君	君	君	君	君	君	君	君	君

○欠席議員（二名）

山	地	渡
本	山	部
栄	英	権
一	一	太
君	君	郎

中	野	日	荒	矢	伊	大	前	加	山	高	笠	服	橋	永	谷	訓	味
島	崎	比	木	田	藤	島	川	藤	中	橋	田	部	部	出	口	岡	岡
忠	貞	義	武	繁	秦	武	宗	定	忠	伊	七	昌	興	利	專	也	一
勝	芳	平	治	郎	一	雄	雄	男	一	祐	衡	弘	隆	一	九	男	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

衛生課長	青少年課長	民生課長	耕地課長	農林課長	商工課長	資產稅課長	稅務課長	市民課長	管財課長	財務課長	總務課長	企画開発課長	人事課長	秘書課長	副収入役	建設部長	土木部長
土井久之君	國保義一君	山村了君	奧村仁人君	鷲野正和君	小西忠臣君	伊藤治郎君	小森正君	喜田喜重郎君	杉本治芳君	伊藤涼一君	天野正春君	六田猶裕君	佐々木晃精君	阿南輝彦君	村木喜代次君	鬼頭鉄郎君	城井義夫君

-146-

清掛才一課長	荒木三郎君
清掛才二課長	赤塚啓次郎君
土木課長	杉本義広君
都市計画課長	長谷川正逸君
下水道課長	天野助春君
調達契約課長	小林清君
消防隊長	竹内鉄雄君
消防次長	金田妙弘君
絲務課長	大倉尚明君
市立病院事務長	三輪喜代司君
// 副事務長	藪田裕君
教育委員長	杉浦西太郎君
教 育 長	山本軍一君
管理課長	小林義喜君
学校教育課長	水原壽君

保健体育課長 館 義 夫 君

技術部長 山 本 文 雄 君

総務課長 滝 本 伝 之 助 君

業務課長 岡 本 林 衛 君

工務課長 加 藤 弘 君

出張課長 美 濃 部 博 美 君

○市議会事務局(四名)

事務局長 菊 地 英 也 君

議事係長 小 坂 靖 君

主 事 佐 藤 正 俊 君

事務試験補 芳 野 孝 君

○議事日程

昭和三十九年九月二十五日(金)午前十時開議

才一 一般質問

才二 議案才一一七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算

(才三号)質疑.....委員会付託

才三 議案才一一八号 昭和三十九年度四日市市印刷所特別会計

補正予算(才一号) "

才四 議案才一一九号 昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特

別会計補正予算(才一号) "

才五 議案才一二〇号 昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会

計補正予算(才一号) "

才六 議案才一二一号 昭和三十九年度四日市市立四日市病院事

業会計才一回補正予算 "

才七 議案才一二二号 昭和三十九年度四日市市水道事業会計才一

回補正予算 "

才八 議案才一二三号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算

認定について "

才九 議案才一二四号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの

確認並びに町の区域の変更について "

才一〇 議案才一二五号 四日市市役所出張所設置条例の一部改正に

ついて "

才一一 議案才一二六号 四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁

才二 議案才一二七号 債に関する条例の一部改正について……………質疑……………委員会付託
 才三 議案才一二八号 四日市市用品購入基金条例の制定について……………
 消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定について……………

才四 議案才一二九号 四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について……………

才五 議案才一二〇号 四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について……………

才六 議案才一二一号 孤野伝染病隔離病舎組合規約の変更について……………

才七 議案才一二二号 四日市市外一期公共下水道事業計画の変更について……………

才八 議案才一二三号 簡易水道建設事業について……………

才九 議案才一二四号 工事職員契約の締結について……………

才一〇 議案才一二五号 市道路線認定について……………

才一一 議案才一二六号 市道路線廃止について……………

才一二 議案才一二七号 市道路線の一部廃止について……………

○本日の会議に付した事件

才一 一般会計

才二 議案才一二七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算(才三号)

才三 議案才一二八号 昭和三十九年度四日市市印刷所特別会計補正予算(才一号)

才四 議案才一二九号 昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算(才一号)

才五 議案才一二〇号 昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(才一号)

才六 議案才一二一号 昭和三十九年度四日市市市立四日市病院事業会計一回補正予算

才七 議案才一二二号 昭和三十九年度四日市市水道事業会計一回補正予算

才八 議案才一二三号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について

才九 議案才一二四号 市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について

才一〇 議案才一二五号 四日市市役所出張所設置条例の一部改正について

才一一 議案才一二六号 四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

才一二 議案才一二七号 四日市市用品購入基金条例の制定について

才一三 議案才一二八号 消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定について

才一四 議案才一二九号 四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について

才一五 議案才一三〇号 四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について

才一六 議案才一三一号 孤野伝染病隔離病舎組合規約の変更について

才一七 議案才一三二号 四日市市外一期公共下水道事業計画の変更について

オ一八 議案オ一三三号 簡易水道建設事業について
オ一九 議案オ一三四号 工事請負契約の締結について
オ二〇 議案オ一三五号 市道路線認定について
オ二一 議案オ一三六号 市道路線廃止について
オ二二 議案オ一三七号 市道路線の一部廃止について

○議長（錦安吉君） ただいまから本日の会議を開きます。

出席議員数は、二十七名であります。

本日の議事につきましては、議事日程オ三号により取り進めたいと思っておりますから、よろしくお願いいたします。
この際、昨夜来の台風二十号による被害状況を理事者から御報告をいたさせます。

〔総務課長（天野正春君）登壇〕

○総務課長（天野正春君） 台風二十号につきまして、現在までわかりました状況を御報告申し上げます。

台風二十号につきましては、最大風速が二十四メートルの現在でございます。七時現在でございます。雨量は百十七ミリ、二十三日の十時から二十五日の九時まで、気圧は最低気圧九百九十六ミリバールでございます。これは七時三十分現在でございます。

予報につきましては、警報発令の日時につきましては、本市におきましては、二時に台風の情報の発令と同時に災害対策本部を設けまして、現在まで被害状況をまとめましたところを申し上げます。

人的の損害に至りましては、全然ございません。

建物の損害につきましては、全壊、半壊ございません。

床上浸水につきましては、富洲原の朝日町に二戸、床下浸水につきましては、七十九戸ございます。これは玉川町に八戸、本郷町に五戸、末永町に五戸、天ヶ須賀の本町に八戸、住吉町に三戸、南町に二十戸、朝日町に三十戸と計七十九戸でございます。

一部破損、それから非住家の全壊、半壊、浸水はございません。

耕地につきましては、田畑の耕地につきましては流木、冠水はございますけれども、ほとんど苗が倒れた程度でございます。ただ、河原田地区におきまして、ミカンの木が相当倒れておる状態でございます。

公共施設につきましては、全然、道路、橋梁、河川、堤防については、現在ございません。

船舶につきましても、異状ございません。

その他の山くずれ、地すべり、鉄道、通信一般の木材流失とかそういう点についてもございません。

避難状況につきましては、朝五時ごろ市民ホールに五名、橋北の西橋北小学校、東小学校に二十名ずつ四十名避難の方がお見えになりましたが、朝七時ごろお帰りになった状態でございます。

現在までの状態といたしましては、そういう被害状況でございますが、電灯の問題につきましては、六時ごろから停電をいたしまして、本庁の中におきましては、自家発電で一応やっておりますが、いまついておりますので、自家発電と電灯会社の電灯と切りかえたところでございます。

水道につきましては、自家発電で給水を行なっておりますので異状ございません。

以上でございます。（「議長、緊急に質問したいのですが」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 台風のこと。（「はい」と呼ぶ者あり）どうぞ。

〔永田利一郎君登壇〕

○永田利一郎君 二十号台風が強くすみまして、お互いにけっこうでございます。

ところが、雨が少なかったもようでもよろしいのですが、あの雨もかなり降りまして、稲葉町の水門並びに朝日町の水門を締めたがために、わたしのところの前の運河が琵琶湖になりまして、水があふれまして、先ほどの床下浸水といわれたのは南納屋町のほうはかなり床下浸水が出ております。中納屋町のほうも出ておりますが、これはどうも設計の誤算であつたか、どれほどいったいあの水門を締めた場合に水がたまるかということ予想できなかったらうと思いますので、もう少し雨が降ったならばわれわれのところも水が入るようになりますし、ゆえに北納屋町の利水の処理場に自家発電の装置をして三滝川のほうへ放水をするように御処置をするように願いたいと思います。これは富洲原並びに塩浜のほうも御同様やったやうと私は考えまして、ここにお願ひする次第であります。終ります。

〔下水道課長（天野助春君）登壇〕

○下水道課長（天野助春君） ただいまの永田議員の、工務局で作っていただきました運河の樋門が二つあるわけでございます。すなわち稲葉水門と昌栄水門、これは高潮対策事業のあの辺一帯の護岸を高くするというかわりに、二つの樋門を作っていただきまして高潮を防止するという樋門でございます。それが先ほどからわれわれも現地へ行つて調査してきたわけでございますが、潮が相当に高くなつてから樋門を締めましたので、その中にありますすなわち四日市市の下水道で管理しております稲葉町の公共下水道のポンプ場と、それから四ツ谷のポンプ場、それから西末広町に一つポンプがあるわけでございますが、その三カ所から排水をしたわけでございます。樋門を締める時期が少し遅かったのでポンプの排水の水があふれまして、護岸から流れ出したという状況でございます。これは工務局へも昨日からよく連絡いたしましたして、樋門を早く締めてくれということをいっておたわけでございますが、実情と

いたしましたして遅れまして、そのような状態になつたわけでございます。

こんごよく工務局とも連絡とりまして、まだ樋門ができてから初めてでございますので、こういう結果になつたわけでございますので、よく連絡をとりまして、これから排水の万全を期したいと、そのように考えております。

そこで、納屋の排水場におきましては、あの運河の中へ樋門を締めてから出しても意味がございませんので、別に三滝川のほうへ排水する方法が取られておるわけでございます。下水道課といたしましては、あのポンプを利用いたしまして直ちに三滝川のほうへ放水しておりますので、あのポンプ場から排水します水は、あの運河へは出ないという状態でございますが、なお、西末広町のポンプ並びに四ツ谷のポンプは依然として運河の中にほつておりますので、そういう状態になるわけでございますので、よくこんご連絡いたしましてかかりえないようにいたしたい、そのように考えております。

○議長（錦安吉君） 水田議員、これでよろしいですか。ほかにございませんか。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 ただいま水田議員が稲葉町地方の下水の樋門の締め方において非常に浸水した箇所があつたという報告を受けて、何か善処せよということでございますが、ただいま下水道課長の説明によりますと、その樋門の締める時期が非常にまずかつたということでございますが、ただ一点お聞きしたいと思いますのは、その管理の責任はどこにあるかということを一点お尋ねして見たいと思います。

〔下水道課長（天野助春君）登壇〕

○下水道課長（天野助春君） お答えいたします。

運河に作られました稲葉水門並びに昌栄水門の管理は、県の工務局でございます。だからポンプの時間には、始動

行なっております。

○議長（錦安吉吉） それでは、日程第一、一般質問を昨日に引き続き行ないます。

増山議員。

〔増山英一君登壇〕

○増山英一君 民政会を代表いたしましたて、御質問をいたします。

まず、才一点の南部開発につきましてお尋ねをいたします。

都市に住む人々に健全な生活の場を与え、住みよい町づくりをすることが理想的な都市の建設であることは申し上げるまでもございません。

さる昭和三十七年の一月、四日市市は臨海工業地帯の急激な発展に伴い、その用途に適した住宅地帯の整備、商業地帯の適正化と防災計画とを地域指定を変更して、四日市市にふさわしい近代的な総合開発計画を樹立されましたが、これらは一切机上のプランと、平田構想といわれておりますが、一向進捗しないのが現状のようであります。北部総合開発と南部総合開発は、市長の政治生命をかけた二大政策であることは、市民もよく承知をいたしておるのがあります。どのように実現をしていくのか、市民は大いに期待しておるのであります。ところが、市民に対する市長の公約が遅々として進まないのが実情のようであります。

とくに、市民が大いに期待されているのは南部総合開発計画であります。市長は、さきに策定した総合開発の基本構想に基づき、四郷・日永・内郎地区にまたがるいわゆる南部丘陵地帯に市民の一大レクリエーションセンター並びに大住宅団地を開発する計画を発表されましたが、すでに住宅につきましては、住宅公団並びに県当局の手によ

って着々進められておりますが、総合緑地公園計画、あるいは陸上競技場等々の施設の机上プランは、現在どの程度まで進んでおるのか、また、こんごどのように進めようとするのか、この点具体的に市長の御説明をお願いいたします。

次に、才二点の教育行政について質問をいたします。

工業都市として飛躍的な発展をとげるわが四日市市にとって、教育行政は次にくる重要な施策であります。

さる昭和二十三年七月、いわゆる教育の基本人權を主目的とした教育委員会法ができましたことは御承知のとおりであります。その委員の選出方法は、公選をもって臨んだのであります。

ところが、昭和三十一年六月に新教育委員会法ができて、再び中央集権的な制度に改められたのであります。

要するにこの任命は、都道府県知事や市町村長が縣会の同意をえて任命し、市町村教育長には、県の教育委員会の承認を必要といたしまして、都道府県教育長は、文部大臣の承認を要するのであります。以来、公選制から任命制に切りかえられてからちょうど八十年、本県の市町村教育委員会も選渡期からようやく安定期に入り、それぞれの地方ではいくらかの差はあるようですがございますけれども、だいたいその行政、運営等も軌道に乗ってきたようでございます。

四日市市の教育行政も、戦後いくたの困難を克服しながらも、全国的水準を上回る学校整備等教育の改革が行なわれてきたことは、これは歴代の市長、教育委員会あるいは先輩の議員諸君の深い理解と熱意によるものでありまして市民のもっとも誇りとするところであります。

従いまして、本市の現教育委員会、及び山本教育長は、染川前教育長の亡きあとは、そのあとしまつと整理、それに教育行政の正常化を推進されてきたのであります。とくに市内の小・中学校の整備、増改築に力を入れ、全国的水準をはるかに上回る好成績を納めておるのでございます。

このような時点の中で、こんごますます重要な案件を処理していかなければならないときに、杉浦教育委員長及び山本教育長の任期が今月末をもって切れるわけでございますが、これら人事問題に関連いたしましたして、かんばしくないうわさを耳にいたしておるのでございます。市長はじめ関係者にお尋ねして、ことの真相をただしておきたいと思うのであります。

よく教育の中立性ということばが使われますが、教育の中立性とは、すなわち市民全体に奉仕すべき公立の教育に特定の政党・宗派の支配が及んではならぬということを意味し、従って、教長行政の中立性が求められ、一般行政から教育行政の独立が完全に分離されておるのもそこから導き出されていることを、市長はよく銘記されて、私の質問にお答えを願いたいのであります。

従って、九月末でないと任期のこない教育委員長及び教育長の後任人事が、早くも昨年ごろからうわさはされてきたことは、教育行政を混乱させるものであります。教育の中立性を侵害するものであると思うのであります。しかもその震源地が平田市長にもっとも近い二、三の側近によって煽られたことはなほ遺憾なことでございます。

これは、市議会並びに教育委員会を軽視するものであり、田々しき問題であると私は思うのであります。とくに最近明らかにされたところによりますと、市長の側近グループによる人事の策動は目に余るものがあり、このたびの教育長だけでなく他の一般人事面におきましても全くいやなうわさを耳にすることが多いのであります。これら側近にあやつられた平田側近政治に対する市民の批判は、最近とくにきびしくなってきたのであります。

これは、市長は知ってのうえでやっておられるのか、またみずから自主性がないか、これらを市長はどのように考えておられるのか、この際お伺いしたいのであります。

従いまして、側近政治はやっていないとか、あるいは教育委員会余の人事問題で側近から圧力があつたとかなかった

とか、全く私の知らぬことであるとか、いずれかをはっきりした答弁を願いたいのであります。市長の答弁いかんによつては、本席かあるいは教育委員の人事問題が議案として提出されたときに、具体的に事実を示して市長に改めて質問をしたいと思ふのであります。本席において市長が納得のいくようすっきりした答弁をお願いしたのであります。教育委員会や市議会が全く知らぬ間に、市長の一部側近によつてこのような重要な人事がなされているとすれば、全く重大な問題でございます。

先に述べましたように、教育の中立性を侵害するものであるといわざるをえないのであります。私の耳にしたところによりますと、本年三月に某側近を通じて、山本教育長に民生部長に転出を交渉したということを聞いておるのであります。市長は、この事実を知っているのかどうか、この点もお尋ねしたいのであります。

また、某側近独自によるものか、あるいは市長と話し合いのうえでのことか、この点をただしておきたいのであります。教育委員会が全くつんばさじきにおかれ、一部の内外側近によつてこのような重要な人事が感情やあいりは利害によつて策動されておるとするならば、教育行政は全く混乱するのであります。このままでは教育委員会委員全員が総辞職といううわさも私は耳にしておるのであります。

しかも、早くからこのような人事がうわさされておるため、市内の小・中学校長をはじめ教育委員会事務局では、三月ごろから動揺をきたして、仕事も満足に進捗していないと聞いておるのであります。

このような事態の発生は、全く市長の責任であり、こんごどのような人事行政と運営をはかろうとするのか、またいままでのうわさについて市民にどのようにこたえようとするのか、うそ偽りのない率直な御答弁をお願いいたします。

〔市長（平田佐矩彦）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 南部開発の問題につきましては、たびたび申し上げておりますし、進行状態については十分御了承のことと思いますが、おわかりにならぬようでしたらもう一度申し上げます。

と申しますのは、ただいま仰せられましたとおり南部の開発の根幹をなしております住宅建設問題でございますが、これは、市と住宅公団との間に締結いたしました進行しておったものでございますが、ただ公団におかれましては、整地をする人々にことを欠くからこの点をぜひ市でやってくれないかという交渉がありました。しかし、御承知のとおり市にそういう余分な人をおかえておるわけではございませんから、これはぜひ他でおやりになっておるよう、公団御自身でやっていたきたい、こう申し上げてきたのであります。公団のほうでは幸い県のほうでいろいろの大きな事業が手があいてきて、その人々の仕事の上にもちやうど都合がいいから整地問題については一つ県でやってあげましょうというふうなふうに、向こうさま同士でお話がまとまりまして、そして整地は県でおやりになるということになったのでございまして、ただいま県側のようなお話がございましたが、私はそういうことは存じません。たびたび県へお出でになるあなたがそういうことをこぼの上でいわれますので、ややもすれば市民は、せっかく四日市市が手がけたものを県にやられるのかという、市民感情からいいたしても非常にうつとしい気分を起しますので、十分気をつけて御発言を願いたいと思います。

従いまして、これは、公団の計画に従いまして取り進めていくわけでございますが、それに伴います事業につきましては、御承知のとおり市におきましては随伴いたしまして踏み行なっていききたいと思ひまして、現在いろいろのことをお願いしておる次第でございいます。

その隣の、二十五万坪のいわゆるいろいろの施設をしたいと、とくにスポーツに關するようなものをそこにやりたいと、こういうことにつきましては、一番最初に起こりますのは土地の問題でございいます。

これは、財務当局におかれましてはもつともしたことであるというので、四日市市に払い下げをするか、貸し下げをするという方針をきまして、たしか昨年だったと思うのでありますが、地方の国有財産の処分の委員会がございしますが、その席上でこれを御発表になりました、あらかじめこれは四日市市のためにこういうふうにするのであるから委員の諸君に御了承を願いたいということで、皆さんの御了解を御当局がお取りになりました。

ただし、これには予算も伴うこととございしますし、また、その計画の内容につきましても、県はなんとかして国体を誘致したい、だから国がいくばくの貢献をしえられるかと、まあ早くいえばどういう役割を務めてくれるだろうかというようなことも問題になっておりましたので、具体的にこれを取り上げて今日からやるといふ野取までにはまいりませんのでございますが、計画といたしましてはすっくりでき上っておりますし、それはもはやすでに皆さま方にも御報告済みだと私は考えておるのであります。

その中でとくにブルの問題につきましては、四日市市は強く市営でやりたいということを申し出ておるのでございまして、県はそれに対して数千万円の補助をしようと、こういうことに話し合ひはなっております。それは例のたぐさんの高校を建設いたしますときに、いろいろの面で四日市市がとくに力を入れてくれたから、この金額は一つ増そうじやないかというふうなことから、三千万円、ものを四千万円にしてくれまして、してあと三分の二程度のものは市で出して、これは市営でやるといふふうなことになるのであります。総合的な計画とにらみ合わせまして、そういう財源的な処置のつきやすいものから踏み行なうて、市民の皆さんの御希望の一端を現わしていきたいと、こういうふうにご考えておりますし、また、それに伴います道路につきましても、他の地方の道路よりも比較的優先いたしまして、ただいま取り上げて県・国とも交渉を進めつつあることは、たびたび御報告申し上げております。うな次第でございしますので、南部の開発のうちの根幹をなしますこの計画は、相当大規模でございしますので、時

間はかかると思いますが、新しい天地ができ上ってくるものと存ずるのであります。これにつきましては、ぜひ一つ議員諸公の御協力を賜りたいと考えております。

次に、教育問題でございますが、ずいぶん御辛らつな御質問を受けましたが、四日市市の市長は、今日まで側近なことはやったことはございません。また、いろいろの御意見はどなたにでも聞いております。どんな方面の方にもずいぶん懇親に聞いております。

しかしながら、ことを処しますときには、自分の信念でやっております。決して私情を交えたり、あるいはいろいろのことで屈するようなことはいたしません。とくに人事の問題につきましては、私は、絶えず今日まで叫んでまいりました。決して人事の問題について市長が自分の信念をまげたり、また、いろいろの圧力を受けて、それに屈するというようなことはいたしません。自分で考えてこれがいいと思うことはお願いを申し上げ、議会の御批判をして乞うという一途であります。

従いまして、ただいまの御指摘のような問題を私のところへもちかけていただいても迷惑千万。とくにこれから四日市市が生々として発育しようという矢先にあたりましては、できうるかぎり市政の明朗を期さなけりやならない矢先でありますので、私はとくにそういう方面については、お互いによく事実をたしかめ、また、現在起こっているというのでなく、将来いまから起ころうとする問題であり、人事の問題である。よほど慎重に一つお願い申し上げますと思うのであります。

とくに教育問題につきましては、今日まで慎重を期してきましたことは御承知のとおりであります。前教育長の染川さんが、全国にもまれなる悲しむべきケースをとっておしまひになったそのあとを受けまして、いかに市の理事者が苦勞したかということは御承知のとおりであります。隠忍自重、よくこの問題に耐えまして、しかも教育委員の方

方が一致御協力をしていただきまして、御善処に相なりようやく安定線にまいましたことは事実であります。こと今日に及びまして、これをいかに処するかということにつきましては、市長は市長なりの所見をもって善処させていただきたいと、こう考えておる次才でございますが、仰せられるまでもなく、貴重な推選を申し上げて議会におはかりしなければならぬ問題でございます。また、委員会におかせられましても、いろいろのお考えがお起こりになることと思いますが、単に市内部だけでなく、これにつきましては、県の了承もえなければならぬ広い視野から行なわなければならぬことでございます。その人選たるや困難をさわめると思うのであります。また、御協力願うことにつきましても十分考慮しなければならぬと思いますが、いずれを取りましますにしても人事問題であります。御承知のとおり人事問題は、できうるかぎりいろいろ内部で御相談を申し上げて、そうしてそのでき上った結果をお願いするのが定石になっておるように思いますので、私は、やはり旧来の慣例に従いまして、この問題につきましては、十分正当なるコースをたどってお願い申し上げたいということを市長の立場からお願い申し上げる次才でございます。

任期がたとえ近かよつとるにいたしましても、事前にこの問題についていろいろ論議をいたしますことは、私といたしましてはできうるだけ御遠慮申し上げたいと思っておるのでございますが、あくまでも聞かなければならぬとおっしゃるならば今のとおりであります。

私には少しも偏向した考えを用いたり、指図をしたりそういうことはございません。いろいろの経過にかんがみまして、こういうことはどうであらう、ああいうことはどうであらう、またその人の及ぼす影響はどうであらうというようなことを、これは市長として心配しただけのことは心配をしておりますが、しかし、まことに失礼でございますが、人さんからだえそれがどの方面の方であらうと威圧を加えられてことを行なうというようなことをやる

べき男であるかないかというくらいのは、今日までの市政の経過を御覧になればおわかりになると思う。あえてこういう問題について、私は論争をさしはさむことを御遠慮申し上げたいと思いますので、どうか御了承を願いたいと思います。

〔増山英一君登壇〕

○増山英一君　ただいま市長の答弁の中に、南部開発の御答弁でございますが、いかにも私が錯覚を起してそういうことを県へしよつちゆう出入りしているものはいってもらつては迷惑だというような意味のことをおっしゃいました。市長がむしろ錯覚を起して聞いておるのではなからうかと、私はこう思ふんです。私は、こういうことをいっておるわけです。

市長は、さきに策定した総合開発の基本構想に基づき、四郷・日永・内部の三地区にまたがるいわゆる南部丘陵地帯に市民の一大レクリエーションセンター並びに大住宅団地を開発する計画を発表しておりますと、ね。すでに住宅については住宅公団並びに県当局の手によって、着々進められておるといっておるんですよ。なにも県がやっておるというておるわけではないんです。はじまりから市はこういうふうだといっておるんですから、その点あなたも錯覚されぬように一つお願いします。

それから教育問題でございしますが、この人事の問題については、なかなか市長はりっぱな方でございますので、私障をまじえたり、あるいは私の信念でやっておると、非常にけっこうなことでございますが、とにかくにも市長の耳には入っておるかおらないか、この点はわかりませんが、庁内でも、あるいは四日市市の市民でも何々行政、何々人事ということをよくいわれておるわけです。これだけ立派な市長がわれわれの考え方でいきますならば、まるっきしロボットに過ぎないではないかと、こういうふうにも考えられるのであります。

従いまして、この教育長問題におきましても、去年の九月にすでに新丁の某料亭で楠の高臣町長とある議員と、ある教育ボスと三人でこの話がされて、それが高臣町長から県の教組にその問題がつたわって、それからずっとこの問題が、情報が流されたわけでございます。

で、従いまして、もう教育情報にもこうした問題はすでに掲載はされておるのであります。また、市長は自分の信念でやっておるとおっしゃいますけれども、今年の三月に教育長にまあこれは市長が知らんとおっしゃればそれだけのことでございますが、お前どうやと、本庁へ行かないかと、あるいは部長に転出しないかとかいう勧告を受けているというようなことは、これはどうもわれわれが納得がいけない問題であると、こういうふうに考えるわけですが、そうした某側近議員がそうした人事問題に介在しておるわけでございますから、おそらく杉浦教育委員長にもこうした人事の問題につきまして御相談があったかないかを委員長に一つお尋ねします。

オ二に、山本教育長にもお尋ねいたしますが、そういう交渉があったかかったかということをはっきりと一つ率直に申していただきたいと、かように考えます。その上でまた質問させていただきます。

○議長（鍋安吉君）　暫時、休憩いたします。

午前十時五十五分休憩

午後零時三十四分再開

○議長（鍋安吉君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

〔教育委員長（杉浦西太郎君）登壇〕

○教育委員長（杉浦西太郎君）　午前中の御質問に対して、お答えいたします。

その前に台風二十号も十二時現在、新潟の沖を北上して本州を横断して山陸方面に去るということで、非常に被害がなく御同慶にたえないと思います。この台風も、昨夜の二時ごろに急に東北に進路を変えまして、若狭湾へ向けたということなのです。

私、先ほど御質問を受けておりまして、ちょうど二十号台風のようにこの台風は市長のところに向いておるのかと思っておりましたところ、突然、途中から急に右のほうに回りまして、私のところへふりかかってきたので、びっくり仰天したというのが偽りない心境でございます。

さて、どのようにお答えしたものと、とつおいつ考えておったわけでございますが、何分にも御承知のように人事と申します問題は、公開の場できめるべきものではなくて、なんだかわからないうちにきめるということに含みがあるように考えます。

人事を事前に公開して、ああだのこうだのということになりますれば、それぞれに人それぞれの思いもあり、また利害もございますので、なかなかそういうことになると、人事というものは決めにくいものだという事は御承知のことかと思えます。

市長の人事ももちろんでございますけれども、教育委員会も人事ということについてタツチはいたしておりますけれども、こと教育委員会の場合でございますと、事前に人事についてのことを漏らしたこともなければ、また人事の内容について、あとからあのときはどうであったかということを開かれて、あのときはこうでございましたといわないう方針に当委員会はいたしております。

そのためにかえってことを荒立たせると、波を立てるというふうなこともございますので、なかなかこの問題は簡単にはイエス・ノーでお答えいたしかねる複雑な、デリケートなことがございますので、こと過去のことに属し

まするし、また、教育委員会といたしましては自主性をもちまして、皆さんに御心配をかけないような堅実な歩みをこれまでいたしてきておりますので、どうかさような点にもし御懸念がありますれば、私、責任をもってさようなことは当委員会にないということをおき上げておきたいと考えます。

ことにこの問題は、人事の基本的な方針ということではなしに、もう一つ深く入り込んだ個人的な問題も含まれておりますので、公開の席上で申し上げることもいかかかと考えまするし、またその問題については当の教育長においても同様だと考えますので、さようなことについては、私、責任をもって皆さんに御懸念のないようにならうに善処したいと考えておりますので、この辺のところでもことにばく然としたお答えでございませうけれども、御賢察をいただいて御答弁にかえたいと思えます。

〔増山英一君登壇〕

○増山英一君　ただいま教育委員長の御答弁で了解をいたしました。市長に一つお願いしたいことは、私の質問は増山個人の質問でないと、いわゆる私は会派を代表しての質問であるということをお頭から申し上げておるんですが、いますから、その点錯覚を起こさないように一つこんごお願いしたいと、かように存ずる次第でございます。

そこで市長は、午前中の私の質問に対して側近政治はやらないと、私の信念をもって公平な人事を行なっていると、こういう御答弁でございますので、非常に私は意を強くしたわけでございます。

で、どうか近く行なわれるところの教育委員にいたしましたも、また監査委員にいたしましたも、いわゆる側近人事でなかったという才三者がみてもなるほど市長は議会で答弁されたように実に立派な公平な人事であったというように、こんごの人事をとくに要望いたす次第でございます。

それから、南部開発につきましても、知らなければ教えてやろうというような意味のことをおっしゃい

ましたが、これは実に議員を侮辱するものではないかと私は思うのでございます。

これも先ほど申し上げましたように、私個人の質問でございませぬ。会派を代表しての質問でございませぬから、これも会派を実に侮辱することになります。従って、私も増山個人ではございませぬ。いわゆる市民の代表としてここへ出てきておる以上は、もっと議員の立場もこんごは尊重していただきたいということを要望いたしまして、私の質問はこれで打ち切ります。

○議長（錦安吉君） 北村議員。

〔北村与市君登壇〕

○北村与市君 午前中からいろいろ人事の問題で議会が紛糾したような状態になりましたけれども、これはひとえに四日市の行政ということについて議員の方々がいろいろな心配して御質問なり御意見をいわれたことと思ひますし、それがなにか私は、市長とは長い付き合いでよく知っているんですが、市長は非常に温厚篤実な方で、非常に柔和な方であんまり怒った顔を見たことがないのですが、今日はどうも御機嫌が悪かったか、非常に興奮なされてお話になったことに対して、私は議席で聞いていてちよつと意外に思ったわけであります、この会議というものは、興奮して怒ったほうが負けでございますので、なるべくそういうことのないようにしていただきたいと思いますが、いまも増山議員がいわれたように教えてやろうかどうか、なんとかいうようなことはを使われるということとはちよつと意外だったわけで、私も長い間歴代の市長に仕えておりますけれども、そういうことはなかったわけで、そういう点について一つ市長が、今日はこういう風の吹き回しであつたかそういうような御発言があつたわけで、意外に思ったわけです。

こと、人事の問題でございしますので、関連的に御質問申し上げようと思つておりましたけれども、増山議員といた

しましても要望をされて降壇されておりますし、これ以上私もお話し、また御質問申し上げるということもしたくないと思う。

要するに私は、平田市政というものがあと残された二年数カ月において立派な業績を残され、真にいい市長であつたという御高名を天下にとどろかしていただきたいということで、いろいろの話が耳に入るわけでございますので、それを率直に申し上げ、そうでないとするならばけつこうでございしますので、市長として信念をもってやっていただければけつこうだと思ひます。

ただ私は、南部の開発委員長として、南部開発の問題につきましては、みずから質問に立つということは非常に筋違いだと思つて遠慮したのでございますが、今日の御答弁の中に公団の云々については質問がいたしておりますが、レクリエーションセンターの問題についての質問をし、これをどのような市長構想によつて進めていかれるかということが委員会にも出されずしておりますので、そういう点について市長のこんごの方針そういうものをお聞かせ願ひたいと思つていたところが、興奮してあのような状態になって、何か筋違ひのようなところに答弁があつたように思ひますが、この点についても市長が、いま私が申し上げたことについて、市長としては怒るのは当り前だと、あるいは興奮するのは当り前だというお考えなのか、あるいはそうでなくて、いろんな問題が自分のことに対してきたから興奮したんだということなのか、そういう点について私は、こんごの議会運営というものの、市長と議員は対々であり一対一の関係で運営されておる。議場の整理、運営その他は最高責任者は議長である。そういうようなルールというものを考えくださるならば、あのような形で御答弁はなかったのではなからうかと思ひ、そういう点について市長がもし私に対して、いやそうでないんだという御答弁があれば承るし、いやそんな必要はないと、よくわかつたということならば御答弁していただかなくてもけつこうですが、どうかこんご長い間いろいろと議会の運営を市長とし

でも、みずからそれを見ていかなければなりませんので、そういうようなところにわだかまりのないように、スムーズに議事が運営できるようにしていただくために、本日午前中の市長の御答弁の中の興奮状態といいますが、あのような形というものについては一つ改めていただきたいし、またいただけるだろうと思います。

賢明な市長でございますので、そのくらいのことはよくおわかりだと思いますから、あえて出る必要はなかったのですが、教育問題についても再質問をさけまして、一つ市長のこんごの行政面における真に市長の信念の実が上ることを祈念いたしまして、教育問題につきましては打ち切りたいと思います。

○議長（錦安吉君） 中島議員。

〔中島忠勝君登壇〕

○中島忠勝君 南部開発の問題で増山議員が質問されましたが、私も南部開発に関連して質問させていただきたいと思ひます。

市長も午前中のように怒らんと、市民の中には頭の悪いやつもたくさんおるんでございますから、頭の悪いやつにわかるように一つ説明していただきたいと思ひます。

南部開発の問題で一番私のほうの地区、四郷地区が関係が深いのでございまして、いま市民、四郷地区のものが一番心配しておるのは、いつからかかってどういうふうな計画で、年度計画が立てられておるのか、来年も米作っているのかという、イモさしているのか、大根作っているのかというようなことがかかってくるし、もっと具体的にいきますというと、土地の問題であれば海軍省の払い下げ、農林省のほうへいきまして、農林省から各個人側の耕地は払い下げておるのでございます。

そのときの土地は、券上面でいっておりますので、台帳面でいっておりますので、非常に縄のびがございまして、

もし将来それがいまの価格の進められておるように整地をして、おのおの持ち前の半分を返すと券上面ではちよつと納得がいかと、だから市民といたしましては増歩申請をして、その増歩申請に基づいて半分返してもらえるのかどうか、そういうことは可能か不可能かということを非常に心配しておるわけです。

続々とそういう人たちが関係者は室山地区においても、八王子地区においてもやっておるはずなんですが、そういう疑問点がございしますので、この南部開発とくに市担当の二十五万坪については、もう年数もたっておりますと思ひますので、年度計画はどのように立てられておるのか、いろいろの、なるほど市長やないが、いままでの大構想は聞かされております。たびたび承っており、また想像図といひますか計画図といひますか、それらを見せてもらっておりますが、三十九年度にはどこに手をかける、四十年にはどこまでいくんだと、四十一年度にはどこまでいくんだと、五年間でやるなら五年間で、こういうような計画のもとに進めるんだということをはっきりしていただきませんと、関係者の地主たちは非常に疑心暗鬼のつもりで、あまり長いことはつかれますと、やるのかやらんのかいな、いうような疑いもここにもたれてきますので、市民がその計画によって、そうすると来年はほくのところはかかっていないからイモをさしてもいい、また田を植えてもいいんだというふうに、はっきりわかるような案がございましたら一つその年度計画をお示し願ひたい。

また、あとで二問としまして増歩申請をした場合に、その増歩申請で法的手続きがすべて終つたら還元される土地は、これはちよつと市に関係が薄いのでございますが、しかし企画当局では、よこの連絡でよく御存じだと思ひますが、その増歩申請ですべての法的処分が終つた場合には、その増歩のとおり半分返してもらえるかどうか、この二点についてお尋ねいたします。

〔企画開発課長（六田猶裕君）登壇〕

○企画開発課長（六田猶裕君）　ただいまの中島議員の御質問に対しまして、市長にかりまして御答弁いたします。ただいまのお話の中には、南部丘陵のうち、住宅団地に関係する分と、二つ織りまぜての御質問かと存じますが、そういうことでよろしいでございましょうか。

住宅団地の開発につきましての、いまのイモをさしてもいいか、植え付けをしてもいいかと、こういう問題でございましたが、昨日も県の事務所のところへまいりましてその補償問題についての協議を明日行ないたい、自治会長のほうと話を進めたいと、このように申しております。それによって具体的なことにつきましては、協議がなされるものと存じております。

およその考え方でございますが、現在三十九年度、四十年年度並びに四十一年度までに区画整理は終了すべく工事計画は立てております。そのどこから着手するか、総事業費はいくらかという点でございしますが、総事業費的には住宅団地の経費は、最終的にはまだまとまっておりませんが、およそ二十二億程度になる見通しでございします。

それから、一つ公団関係のことでございますが、公団のほうにつきましては、現在すでに四月に公団の定期決定はいたしました、現在事業決定として準備中でございます。

で、国有地の処理につきましては、さい前市長から話がございましたように、すでに昨年十二月に坪当たり四百円の補償いたしますときに、すでに財務当局からは当用地については、無償貸し付けに異存がないとこういう公文書をもらっておりますので、この点は解消しております。

で、中の事業をどのように進めるかということでございますが、これは一日も早く市民の方々に喜んでいただけるようなことを、財政能力に応じて助成して取り進めていきたいと、このような念願をしております。年度としては、本年度どうやるかというところまではまだ事業決定をやっておりませんので、現在ではまだ御報告いたしかねる点で

ございます。

以上でございます。

〔中島忠勝君登壇〕

○中島忠勝君　ただいま六田課長から聞きますという、年次計画はまだできていないと。それでは何年先になるかわからんような気がいたすのでございまして、ぜひ一つ急いでこの年次計画を立てていただきたい。とくに来年県体の当番市としておるこの当市においては、先ほど市長が申されましたとおり、プールなんかにおいては早急に手をかけていただきますと、来年の県体にも間に合わんということになってきますので、その位置だけでも早いと私のほうへ何か市のほうがどういっておるか知りませんが、総合訓練所のところ、池のところがこれがプールになるんやていわれたと聞いておるものもございします。なおその付近の土地の持ち主が売ろうと思うがどうしますかと聞きに行った。わかるかわからんか、とにかくあそこら全体使用することはいちゆうやけれども、何年度にいま市がすぐにかかるのか、来年かかるのか、今年かかるのかとにかくプールは早いと思うが、そこへプールいくんかいな、と。ほくら聞いたら知らんやというような答えをしておいたわけでございしますが、まあいろいろ近いので私のほうへ地区民が尋ねにくるわけでございまして、それについて早急にやるべきものは早急にやると一つ案を立てていただきました、手っ取り早く一つかかっていただきたい。聞くところによりますと、住宅のほうは近いうち、来月から再来月あたりすでに工事にかかるらしゆうございますが、市のそのレクリエーションセンターといいますが、総合グラウンドといいますが、それについても一つお忙しいでしょうがこの方面についても、せっかく専門の課も設けられておるのでございますから、早急に一つ年次計画というものを立てられまして、そうして地区の住民に申していただきたい。こういうことをお願いするのであります。

もう一つ、その住宅公団に入っておるところの増歩申請についてのお答えがなかったようにございますので、一つの件についてお答えを願います。

〔企画開発課長（六田 猶裕君）登壇〕

○企画開発課長（六田 猶裕君） 重ねての質問に対してお答えいたします。

ただいま増歩のことにつきましては、御質問ございまして、遺漏いたしましたして申しわけございません。おわび申し上げます。

この増歩申請でございますが、これを取り扱いをどうするかという問題につきましては、現在の段階におきましては非常にむずかしい問題があると、こういうことを事務局は申しております。

それから、いまの公園計画につきましてはの年次でございますが、これにつきましては、プールの場所とか、そういうところにつきましては先ほど御説明申し上げましたように、区域決定、計画決定をいたしておりますので、場所等は確定しております。

こんご諸情勢を見まして、どうしても都合が悪いというときには変更するかも知れませんが、現在としては確定しております。

以上、御答弁申し上げます。

〔中島忠勝君登壇〕

○中島忠勝君 増歩申請の取り扱いについては、いま非常にむずかしいことを聞きまして、たしか一昨年でしたか名古屋の住宅公団、泉のほうの開発、市のほうの開発が志横議員によって宝山へ案内されて説明されたときには、早いと増歩申請やっておけばそれによってやるというようなことを承ったようにも、私、記憶しておりますが、いまに

なつてむずかしいといわれるとちよつと地区民もがっかりするのではないかと思います。

また、プールなんかも惣がなければならぬ、もう市長もおっしゃる通りに、三千万が四千万になつて、これは故山本議長が非常に骨を折られた。その県のなんも、金もすでにわかつておるはずだ。そういうものについてまだ一部はつきりしていないことでは、まことに心もとないので、はたして来年の県体に間に合うか合わんかということは、これは非常に疑われるのでございます。

これは余談でございますけれども、ここで私これに関連して申し上げたいことは、そういう地区においていろいろ計画をなされる、あるいは計画を実施される場合には、その地区の議員にも一応一つ横連絡をいただきたい。こういうことを一つお願いしたいと思うんですが、でないといろいろ聞きにきますので、役所へ聞きにいけばそれはいいかも知れませんが、電報を使うてくるよりも近くの議員に聞きにきますので、およそその自分の近くのことはその土地の議員が知っておりたいと思いますので、これはお願いしたい。

たとえば土木の仕事をするにつきましても、地区の議員なり自治会長はここやってほしいと思つておるのに、いろいろ市長のところへ手紙出したり、あるいは税金を納めんぞというてやかましゆうがあがさわぐときは、われわれの知らんときにちよつと舗装できておる。どうしてもつと、たつた一軒の家でも舗装されている。十軒も二十軒も迷惑しておるところでも税きであつて舗装されないというような妙な現象が起こつてゐる。怒られるのは私らでございます、まあわれわれ無茶いうてがんばつておつたからやつてもらわんかったというふうになつてきますので、一つそういうものの実施については、ぜひわれわれにも御厄介でございましょうが耳打ちしていただきたい。

私が、かつて十数年前に市会議員のなりたてに市御当局に御 理申しまして、材料をもらつて地区で市道を舗装したこと、舗装やない、コンクリートで固めたことでございます。そうするというと、その区長、自治会長、四郷の

区長でございますその自治会長にえらいしかれた。あんどこやってもらならもつとほかにやってもらった。私もなるほどなあとしけれながら思ったんですが、いま自分が身にしみてそういうことを感じました。やっぱりああそこをやってもらなら四郷地区としてはここをやってほしかったということを自治会長も私も異口同音に申したことでございますが、そういうこともございますので、四郷地区は四郷地区としての対策をされば、順番もあると思いますので、これはほかの地区でも御同様と思います。

もしそういうようなことをやられるならば、一つその土地の自治会長とか市会議員にはこういうことを組んでおるがどうやぐらい一つ横の連絡を願えれば、まことに幸せだと存じます。

私は、その南部開発のことにブルなんかを早急に実施されんことを要望いたしましたして、私の質問を打ち切ります
○縣長（錦安吉君） 次に、喜多野議員どうぞ。

〔喜多野等君登壇〕

○喜多野等君 社会クラブを代表いたしましたして、報告いたしました六点につきまして御質問を行ないます。

その前に、去る六月の定例会におきまして、社会クラブの代表質問として訓諭議員が立ち、いろんな事項につきまして理事者の見解をただしております。これも答弁が研究するとか、善処するとかいうような御答弁になっておりますので、この点につきましても一つ御答弁を賜わりたい。

たとえば保育所の保育料の不均衡をどのように是正するかというような問題等につきましても、御答弁いただければ非常にけっこうではないかと思ひます。

まず才一点といたしまして、都市改造の問題でございますが、本件につきましては、同僚議員のほうから二回にわたりまして昨日いろいろな方面から質問がなされております。

とくに國に対する働きかけ等の問題につきまして、いろいろな理事者のほうからの説明もございます。これを了としておりますが、地方自治体も四日市市として具体的に起こってきた問題について、どのように処置をするか、たとえば昨日伊藤議員のほうから、実際、小学校の子供が鼻血を出したり嘔吐をしたり、そういうような具体的な問題が出ておる。また、タンクヤード等が具体的に隣接してできていますと、こういうような問題等について、やはりこれを全部を抱含して國にというようなこともできない問題でございますので、やはり当地で行なえる処置については当然当地のほうで処置をして積極的にこれを行っていただきたい。この点についての考え方をお聞かせ願ひたいと思ひます。

なお、都市改造につきましては、いろいろ國のほうへ市長は行かれていますいろんな問題等について、知事または地方代表の代議員等とも打ち合わせされて、御努力賜わっておるといふような点につきましては、昨日いろいろお話聞いたわけでございますが、それも基幹となっていく用途地域の設計図というふうなこの図面が、四日市市としては石川、高山両氏によるマスタープラン等もできまして、相当強力にその計画が進められてきたわけでございますが、それとの関連性についてどのようにこんごやっていくが、いふ点につきましてもお伺ひしたいと思ひます。まず、都市改造については、その点をお伺ひしたいと思ひます。

次に、才二点の経費の節減について、この点について御質問をいたします。

この問題は、端的に言えば小、中学校の校舍新設に際して支払われておる設計料を節減して、その節減された経費を実際の備品教材購入費等に充てて、学校教育の実質的な向上をはかるということにできたら非常にうまいんではないか、まあこのように考えてみたわけでございます。

本件の問題は、ここにも資料をいただいておりますが、三十一年から二十二軒の学校の設立を見てお

ります。まあこの間に四％ないし五％程度の設計監督委託手数料というものが払われておるわけでございますが、非常に長い年々にわたって学校等の建設を行なわれておりますので、当然現在の段階においては、標準化された一つのタイプを作ってそのタイプによって進めていくという考え方をもち出してもいい時期にきておるんじゃないか。A B Cというような形に新設の場合はきめて、やはり昨日の鈴木議員のほうから建築技術者の問題等も出ております。やはり四日市市の職員の技術者というものに対しても、そういう観点から十分そういう設計等の業務等を扱わして、やはり有能適切にやはり職員等も使っていく、なおかつ経費の節減をはかるような点ができうれば非常にうまいんじゃないか。なお、実際にはそういう新設校舎の備品什器等も、その費目によってまかなえるということになれば、父兄等も喜ぶと、このように考えてみたわけでございます。この点についての教育長の御答弁をお願いしたい。

なお、本件につきましては、建築関係の技術者のほうからはいろいろな問題点は関連して出てくるかもわかりませんが、まあその点は担当課長のほうから問題があるならば、いつていただければけっこうだと思います。

次に、オ三点に移ります。オ三点は産業教育についてであります。

産業教育のオ一点といたします。す定時制の高校の問題を取り上げるわけでございます。

これにつきましては、前会六月の定例議会におきまして訓諭議員が質問をいたし、理事者が善処するという旨の答弁があったわけですが、勤労学生をしてほんとうに安心して勉強させるための定時制高校の設置の計画は、その後どのように進展しているか、その点の御報告を賜りたいと思います。

改めて私がいうまでもなく、向学の志にもえて勤労学生の熱意があくまでも尊重してやらなければならない、まあこのように考えております。そのためにはまず交通の便利な、ほんとうに快適な校舎を与えて将来の社会人としての人格形成に十分沿え、または中堅幹部となっていけるようないい校舎をお願いしたいと、このように思っているわけで

ございます。

なお、この中にもう一点、質問のオ二の要点といたしましたのは、四日市市に工業大学を誘致あるいは設置する考えはないかということであります。現在の四日市市は、人口二十一万の工業都市を誇っておりながら、市民の子弟に対して工業に關しての専門的な教育を施すような施設がございません。とくにこの点については、全部臨海工業地帯に各工場が展開しているわけでございますが、これは外部から技術者が提供されて入ってきているのは現状でございます。四日市市の市民の子弟の方がやはり十分工業大学で勉強をされて、やはりその地区の、工業地域における技術者の中堅となつて、やはり工場の経営に参加されていくのが一番望ましい形体ではないか、このように考えております。

それがためには、やはりそういうような施設を誘致するなり、設置するなりしていくことがたいせつなことではないか。現在の状況においては、やはりそういうものを設置していく段階にきておるんじゃないか。まあ本件につきましても、市長のいろいろおことは賜りたい、このように思います。市長がいろいろ工業専門学校等の問題につきまして、鈴鹿の問題でいろいろ御活躍賜ったという点についても聞き及んでおりますので、この際四日市市のことだけの工業都市に工業大学を設置するというような問題につきまして、どういう考え方をもちおるかお聞かせ賜わりたい。

オ四点に入ります。

オ四点は、生牛乳の給食についてであります。

要するにこれは、結論的に申しますと、米・國の余剰農産物である脱脂粉乳をもってきて、それを現在の給食にあててゐるわけでございます。脱脂粉乳といいますと、家畜のえさというようなことになるわけでございますが、もちろん

これはわれわれも当然、兵隊に参加いたしましたして、その責任の一端を背負うわけでございますが、やはり日本の国は米国に負けたんだから、やはり押し付けられたら余剰農産物でも賣ってそれをなんだか処理しなければならない。こういうところに日本がおかれておりますので、学校給食の子供らに脱脂粉乳を与えて、それを処理しておるといのが現在の脱脂粉乳のミルクの現状でございます。

本件について、これは非常に脱脂粉乳というのが最近になって悪い結果が出てきておるわけでございます。これは確實なものであり、人体にほんとうにそのように影響するのかもしれないことについては、まだ各方面からの明快な回答がえられておらないというようにござりますが、まあ少なくとも三重大学の三上教授の脱脂粉乳を調査してみたところ、非常にストロスチウムが非常に含まれておる。人体に非常に影響すると、とくに女子の学童によくはない。ある程度不症になるような傾向がみられるというような三上教授のデータも出ておるような状態でございます。こういうふうな報道上からもこういうような状況が出ておるといことは、こんこの日本の国を背負って立つ青少年に悪影響を及ぼすようなものは好ましくないわけでございまして、たまたま当地におきましては、酪農振興というようになことで産業経済におきまして、相当の資金を投下して酪農を奨励しております。そういうような生牛乳は、実際の子供たちにそれにかわって与えられるとするならば、非常に幸甚ではないか、ぜひともそのようにすべきではないかと、このように考えるわけでございます。

なお、できるならばそういうような酪農から発展して、いろいろバターやチーズを農業組合で共同経営するとかいうようなところまで発展形がとれば、非常にうまいんではないか。よその市町村で、昨日、一昨日の夕刊でござりますが、そういうところにも農林省のいろいろな状況が新聞に載っておりますが、茨木とか栃木とか各所においてはそういうような生牛乳を子弟に提供しております。

こういうようなことで、実際に四日市市で酪農振興しておるならば、やはりそういうような実際の生牛乳を将来の青少年の子供たちに与えていくことが酪農振興にもなるし、なおかつ子弟にもいいということで、やはりこの点について、やはり担当課長の御意見、または教育長の御意見を賜われれば幸甚だと思っております。

次に、清掃事業について、し尿のくみ取りにつきまして担当課長の説明を求めます。

市民のし尿くみ取りに対する要望は、最近ますます非常に強くなってまいりました。とくに富田、富洲原、塩浜、大矢知等の地区におきましては、事業を民間の業者に委託してやっている関係から、不親切で料金の計算が明確でないとか、作業につけ加減をしなければならぬとか、そういういろいろな問題がございまして、やはり直営で作業をやってほしいという希望が非常に強いわけでございます。担当の課長といたしましては、もちろん私もより以上に市民の直接の要求を聞いておられると思うんです。もしも市民の声を土台にした具体的な措置、またはその計画の進め方等について御案がありましたら御提示賜りたい、このように考えます。

オ六点に入ります。

オ六点は非常に抽象的なことばになりますが、包含される範囲が広いので市民文化の向上というようにことで表現しておきます。こういうと市長は怒られるかわからないのですが、単的にいいまして、四日市市ほど市民のための文化施設の貧弱なところは、全国的に例を見ないんじゃないか、このように考えるわけでございます。

たとえば市民一人当りの公園面積の比較を出した場合どうかと、おそらく中以上はいかないんじゃないかと、市長はつねに明るい住みよい町づくりというようなことが市長の市政方針として述べられております。しかし、市民のための文化施設というものは、ここ数年間なにつ施設されておらないわけです。ほとんどいま、四日市市においては文化施設というようなものはないんじゃないかと。とくに二十一万の人口を擁しておる四日市市でございす。たま

たま私たちが日曜日に子供をつれて諏訪公園に行ってみますと、大きなオリの中にサルが二匹しよんぼりとすわっている。横のほうではストリップの音楽が聞こえてくる。その公園の中を高校生が一人本をもって貧弱な図書館に通う。現在の四日市市に日曜日に子供をつれてのんびりと遊びに行けるというようなところはないわけです。諏訪公園の施設が貧弱すぎて子供が退屈してきたら、こんどは近鉄百貨店の屋上か、岡田屋の屋上でも行って子供のきげんをとると、こういうのは実際の平凡なサラリーマンの日曜日の実態ではないかと思えます。

この質問によって、社会クラブがあえてこうした問題を取り上げたふしは、せめて日曜日には家族そろって気軽に楽しめる程度の施設を作ってほしいということであります。その程度のものであれば、大して経費をかけずにも何とかやっつけていけるんじゃないかと、こういうように考えるわけです。

この点につきまして、ただいま中島議員のほうからも南部丘陵地帯の公園施設の開発というような問題等にも触れられておりましたが、やはり計画だけで具体的に実践されないものは、たなばたにすぎないと思います。やはり少しでも道路を開き、そこにブランコを作り、そういうことによって少しずつでも前進していくんじゃないか、このように考えます。

それは法的に言えば、事業決定がすんでおらないからそういうようなことはだめなんだ、ただ一がいにそういうようにいえるような現状でしょうか。公害地域で日夜みんな悩まれとって、たまには泊山までいい空気を吸おうか、子供でもぶらぶらつれて行くと、こういうふうなところがなくちやいかんと思うんです。

というのは、私はそれはあえてそのむかしを追求するわけじやないわけですが、やはり四日市市というのは、工業立国でやはり臨海工業地帯の工場が相当多数設立されてきたわけでございます。それと並行して、そういうような文化施設というものが総体的に成長された均斉の取れた施設の市政でなくてはいけない、このように考えるのでござい

ます。数行的な施設の政策はまずい。あくまで均斉の取れた一つの市政であらなければならない、こういうふうにごえております。

それがゆえに、あえてこういうようなことをいうわけでございますが、もちろん文化施設としてはいろいろの建設を要望すればあります。美術館、博物館、総合文化会館、図書館等いろいろあるわけです。

私たちは、市では年に一べんですか視察をしるというて、やはり先輩議員の方につれられて各都市も見学してまいります。いろいろ参考になり、勉強になります。ほんとうに教えられることは多くあります。しかし、それを持ち帰って具体的に生かすということは、何一つできないわけでございます。

四日市市においては、やはり宇部とかやはり各所を回ってみた経験を生かして、それをなんとかそのような方向にもっていききたいと、私たちは願うわけでございますが、具体的にはその足がかりすらつかめないというのが現状でございます。

どうかこういうような点、いろいろ勉強させてもらって、勉強するわけでございますが、その勉強をどうか具体的に生かしていただいて、それを早急に実現してもらおう。なお、われわれもそうでございますが、少なくとも平田市長の時代においては、やはり泊山公園のこれだけ雄大なところに、こういうような公園施設をもたせ、文化施設を作ってやはりあったんだと、なるほど子供たちが成長して孫ができたときにでも、なるほどむかしの人はえらかったなあやはりこういうところにこういう施設まで作ってわれわれに残したんだと、子供や孫に夢と希望を与えるような一つの施策を私は希望したいわけでございます。

そういうことが現在の四日市市においては、非常にたいせつなことではないかと、こういうように考えるがゆえに、こういうような御提案を申し上げ、市長の御意向をお伺いしたいわけでございます。

以上で終わります。

○議長（錦安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後一時二十九分休憩

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

午後一時四十二分再開

庄司助役。

〔助役（庄司良一君）登壇〕

○助役（庄司良一君） 都市改造の御質問に対しましては、昨日志積議員、山中議員等からも御質問がございまして、工場に隣接する、私どもが考えましても住宅地としてふさわしくない地域の改造についてどういう考え方で、どういう現在具体的な行動をしているかということについて御説明申し上げたわけでございますが、公害害の防止について実は都市改造だけをお願いしてるわけではございません。この都市改造とともに、四日市市の大気の状態、気象の状態を的確に把握するために、気象観測所を四日市市に設置してくれと、こういうお願いをいたしております。これにつきましては、国も積極的に動いてくれまして、四十年年度において何らかの具体的な措置が取られるように現在進んでいるように聞き及んでおります。

次に、公害の総合研究所を四日市市に設置してくれ、さらに産業公害の防止技術の研究所を国でも考えてくれ、企業はもちろんみずからの責任においてこの問題と取り組み研究していくことはもちろんであるが、国においてもこの問題を重大事項として取り上げてやってもらいたい、さらに公害防止のための設備設置等の場合に、これに対して国

も応分の財政的な資金融資も考えてもらいたい、こういった点に集約いたしまして、各方面にお願いしてるわけでございます。

ただいまの御質問は、そういったことの成果が上るのには相当の日時がかかるだろうと、それまでの間、具体的問題をどうするかということでございます。

たとえば九月十五日の小学校で起こったという問題、あるいはタンクヤードが人家に非常に近接して建設されておるという事実をどうするかという問題でございますが、御承知のように本年五月から四日市地区がばい煙等規制法の適用地域に指定せられまして、たとえ二年間の猶予期間はあるとはいふものの、そういうことにかかわりなく私どもは企業の社会的責任、これは当然追及いたしまして、公害害防除のために全力を尽すことを要請していく考えでございます。

従って、そういう事態が発生した場合、直ちに調査をいたしまして、その根元をつきとめました場合には、それ相応の責任を追及する考えであります。もとより規制法の趣旨は県知事が権限者として措置することになるんでございます。これは県と協力いたしまして、そのようにいたしたいと思っております。

タンクヤード等の問題につきましては、昨日消防長からお話があったわけでございます。

たとえば午起地区にも、プロパンガスの供給源として球形タンクが私どもの知らないうちにできております。こういった施設について、許可されるのはこれは県でございますが、いちいち私どものほうに連絡があるわけでなく、今日の高圧ガス取締法の規定に合致していれば、許可されているのが実状のようでございますが、こういった点につきましても、通産省と私どもとの話し合いの現状におきましては、いままでは産業の公害を防止するという考えであらゆることが立法化されており、そういう態度で進んできたのであるが、今日以後は強く規制の面を表に出して立法化

もし、法改正も行なっていくんだと、こういう建て前のようになっているようでございます。この点は、改善を私どもは期待しているのではないかと思っております。

次に、本市の用途地域の指定が三十七年度当初行なわれたのでございます。

これにつきましては、御説明に東京の諸先生方を煩わしましたマスタープラン等の参考にはいたしております。今日から見れば、石油化学地帯の本市といたしまして、現状に合わないということを私ども重々感じておるわけでございます。

従って、これではいけないということから、今年当初から県とも話し合ひまして、これの抜本的な調査をいたすことにいたし、工業立地センターに委嘱いたしまして現在調査が行なわれている状況でございます。この調査に通産省でも非常に協力をしてくれまして、この調査の成果を高めるためには、本格的な風洞実験もする必要があるだろう。従って、風洞実験の予算も国が出そうということになりました。調査は、約六百万円ばかりのうち三百万円をたしか国が出し、あとの不足分を県・市が出しまして、四日市市の模型をつくり、二面的な方向の風洞実験を最近行なうことになっております。

そういった結果をもちよりまして、私どもはある程度成果のある報告が出されることと思っております。これが出てまいりました場合に十分検討も加へ、さらに皆さまにも御提案いたしまして、現在の用途地域の改正を本省にお願いして決定いただきたいと、こう思っております。

単に公害調査のみならず、災害の対策についての調査も合わせて現在行なうことにいたしておりますから御了承いただきたいと思います。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 答えいたします。

才二間の経費節約について、このうちで学校建設の問題でございしますが、御指摘いただきましたようにお手元にも資料を差し上げましたように、十カ年計画が実施されてから三十九年の九月の追加予算までの外注いたしました設計管理監督料は約三千九百万にのぼっております。そういう意味におきまして、これを何らかの形で節約してはどうかという御趣旨に対しましては、私たちが賛成を申し上げます。ただ問題は、それをどういうふうにしてやるかというところでございますが、一案といたしまして提案されましたのは、標準化された学校のタイプを作つてそれにやつてはどうかということでございますが、これも一つの案だと思ひます。現在体育館は一つのタイプで二つやつてきましたから、こんど九月に実施いたしますものもそれになると思ひますが、体育館はだいたい一つのタイプにまゝっております。

従いまして、校舍につきましてもそのことについては私も原則的には賛成でございしますが、立地条件が違ふところと、大きな建物と小さい建物のところ等がございまして、これを消化いたしますには、これは建築課のほうの関係でございすけれども、私たちの要望いたしますものを私たちの要望いたす期間にやっていただけということでございますと、この問題は割合に早く解決できるんじゃないかと思ひます。そういう点におきましてこの問題を研究していきたいと、私は思っております。

次に、産業教育について、才一間の定時制高校の問題でございしますが、これは六月の議会におきまして訓導議員から質問を受けて、私もお答えいたしました。その後の経過を御報告いたします。

県の教育長と話し合ひました結果、三年間現在の場所に置いておくんだがらまあ心配はないだろうと、こういう話なんです。ということは、私は一つ心配したのは、現在の一年生はいつでも尾平にきていくことを承諾しますと

いう承諾書を保護者とともに出しておるのでございます。

従いまして、行けといわれたらいかんなんぬということになっておりますので、こうなると来年になって、お前らだけいけと、一年生、二年生は尾平にいけといわれた場合に、これはどうなるかということをお心配いたしました。県教育長の話では、知事はどう考えておるか知らんけれども、教育委員会としては、三年間はそこへ置くんだと、こういうお話でございまして、そうすると三年の間にことを考えたらいいと、こういう考え方なんです。しかしながら、私はそれではちょっと不満であり、解決できないと思ひまして、竹内委員を通じて県の教育委員会に提案をお願いしておるんでございます。

ということは、態度をとにかくはつきりしてくれと。どういう態度かといいますと、独立校舎を建てるのか建てないのか、建てる方向にもっていくという態度であるのか、将来向こうへもっていくという態度であるのか、それをはつきりしてもらわないことにはやはり不安であると、事実、生徒たちが私のところへきまして、来年入る新入生についてもこれは不安があると。現在入っています一年生につきましては、なるほど承諾書は書きましたけれども、この大部分はよそからきた子供であつて、その尾平がどこにあるのかというようなことを知らない子供で、どうも判を押さなければ入れてもらえないということと判を押したという状態で、この間尾平へつれて校舎を見せたところがとてもここへは通うことができないということであつたと。従つて、来年になるとまた入ってくる子供が同じような結果をまねくので非常に心配であるということをお聞きしましたので、その点を申し上げまして、工業高校の移転の問題にからんで工業高校の定時制をどうするかということと合わせて、基本方針を早く立ててほしいと、そうできない方ができないということをお申し上げておるのであります。

それから、私たちといたしましては、純粹に教育的な立場からこれをどうもっていくかということで、四商の校長

さん、それから定時制の主事さん、工業高校の定時制の主事さん、それから四日市の通信教育の校長さんと通信教育の主事さん、それから私たち合しまして、いまは委員会のようなものをつくつて会合をしたんでございすけれども、この会合ではやはりなんといひましても現在の学校自体のまあ利害関係についていふんですか、そういうものが先へ出ましてなかなかまとまりにくいと、これは私は、もう少し考え方を改めて違つた角度でこれは私たちの意見をまとめるについては考えていかなきゃならぬと思つております。

現在はそういう段階でございすので、まだ県のほうで私たちの希望する方向に態度決定はしてもらつていないと、はなはだ残念でございすますが、そういうことでございす。

それから、これはあとで市長からお答え願ふことと思ひますけれども、工業大学または工学部の設置についてでございますが、これはもう御承知のように三年前に県に国立三重大学の工学部を設置するという準備委員会ができております。現在これは生きております。この準備委員会に対して、四日市市が工学部をこちらへ誘致する意思があるという申し入れはしておるのでございます。これはあとに市長からお答えいただきます。

次に、オ四間の生牛乳の給食についてでございますが、脱脂粉乳につきましてはいろいろの取り沙汰についていふんですか、悪い方につきましてもお話しは、私もこれは聞き、文部省からのそれに対する反論、それから三重大学の三上教授のストロンチウム九十の粉乳の実験等に対する各学者の反論、ここにもまあ持つておりますけれども、まあそういうことは抜きにいたしまして、生牛乳と脱脂粉乳とどちらがいいかということは、いろいろ栄養価の問題それからカロリーの問題につきましては一長一短があると思ひますが、問題はうまいか、手数が省けるか手数が省けないかと、私たちの立場からいへばそういうことに結論的にいくのでございすますが、これは、生牛乳はうまいということでございます。手数も省けるということでございます。

ただ需給の関係がうまくいくものとしたしまして、問題は経費の問題になると思います。三割生牛乳を混入いたしますと、現在のところ三円三十八銭一回分高になります。というのは、脱脂粉乳は現在一円四十一銭でまかなっていただきますものを三割混入いたしますと四円七十八銭になります。それから全部牛乳にいたしますと、補助あるものとしたしまして、一合が現在より五円五十銭の負担高になりまして、だいたい三割混入いたしますと六十円、一カ月でございます。全部、生牛乳に切りかえた場合には、だいたい百円見当のものが父兄負担としてふえるということでございます。こういうことがございますので、なかなか踏み切りにくい現状でございますし、先に申し上げました需給の関係が、はたしてうまくいかぬかということでございます。三割の混入につきましては、これは、昨年の途中からやりました中学校のミルク給食に関連いたしまして、三割混入をいたしておるところもございますので、これについては、もし私たちが態度決定いたしさえすれば、そちらへの需給関係がうまくいくと思いますが、全部、生牛乳に切りかえた場合にどうかということになると、ちょっと私たちとしては、自信がないのでございます。

そういう問題が解決したあかつきで、経費の問題を検討して、これについては考えてみたい、こう思います。

〔建設部長（鬼頭鉄郎君）登壇〕

○建設部長（鬼頭鉄郎君） 学校建設経費の節約について、御説明申し上げます。

ただいま豊多野市会議員がいわれました件は、よく了承できました。私、五月、建設部長にもどりまして、いろいろと学校建設に対します設計の方式につきまして検討しましたところ、いままでこの学校建設に対しましての三つの設計者に依頼して、おのおの特徴ある設計をとるわけでございます。

そこで、そのとき、いまいわれましたような統一基準の設計書をつくりましたならば、これは、経費も安く上りますし、設計期間も短かく、しかも、施工も容易にできるであろうという確信をもちまして、建築課長とも話し合っ

おる次第でございます。

ただし、この問題は、発注者であり、御使用になる教育委員会との関係もございますので、よく協議いたしまして、御趣旨に沿うようにいたしたいと思います。

なお、この統一基準をつくりましたから、すべて外注が廃止できる、こういうことは、現在のところ非常に困難でございます。そこで、何がゆえに困難かと申し上げますと、現在の建築課が担当いたしております事業量と、人員の素質と人員数におきまして非常に不足しておりますので、増員が望ましいわけでありますが、四日市の関係の建築の事業量というものは、年々によって増減いたすわけでございます。ここで必要量の増員を願いますれば、将来、人事管理上、問題も起こると思いますので、増員につきましては、できるだけ節約をし、お申し出の趣旨に沿いまして統一の基準を定めて、そして、なお、現在おります建築課員の程度の低い者を指導、訓練いたしまして、将来、御希望に沿えるように努力いたしますことをお約束いたします。

〔農林課長（鷲野正和君）登壇〕

○農林課長（鷲野正和君） 先ほどの生牛乳の給食についてであります。現在の生牛乳の需給状況、この点を申し上げまして、御了解をえたいと存じます。

生牛乳の給食を実施されますことは、栄養上の点からいいまして、また、酪農振興の面からいきまして、非常にけっこうなことだと存するのでございます。現在、四日市の酪農協同組合が供給いたしております生牛乳は、年間の平均で一月約五十石でございます。これは、市内の生産量だけで申し止めますと三十石でございます。そのうち二十八石程度が市内の乳業者に配乳されまして、残りの二十二石が県内及び県外の乳業会社に配乳されておるような現状でございます。

そこで、もし学校給食にこの牛乳を回すといえますならば、現在、県内外に配乳されております二十二石を充当する方法しかないと存じます。しかし、この点につきましては、よく四日市酪農協同組合と協議しなければならぬと考えております。いずれにいたしましても、学校給食はその日数が平均約百八十日足らずでございますので、あとの百八十数日の生牛乳が残余乳として処分されなければならないということになるわけでございます。生牛乳の残余乳ということになりますと、乳業メーカーといいたしましても工場の運転計画に支障をきたしますので、いわゆる一般の取引価格では引きとらないと思います。その場合、これは実際にやっておりませんのでわかりませんが、三ないし四割程度の価格値引きといえますか、三ないし四割程度の減額となるだろうというふうに想像いたします。従いまして、残余乳の価格差及び乳価の維持が完全に行なわれますときに、また、農民の犠牲においてでなく実施されることがありますならば、牛乳の給食も可能だというふうに考えております。

しかしながら、年々二割程度の牛乳消費の増加をきたしております今日、現在の生産乳量では十分ではなくて、こんごます酪農の奨励をはかりまして、自立経営農家の育成をはかりますとともに、多頭化、共同化という方向に進め、現在の農家一戸平均飼育頭数は二・八頭でございますが、これを五頭程度にいたしまして、所要乳量の確保を期したいと、このように考えておるわけでございます。

〔清掃ヤ二課長（赤塚啓次郎君）登壇〕

○清掃ヤ二課長（赤塚啓次郎君）　オ五項で御質問のございましたし尿処理事業について、お答えを申し上げます。

その前に、不肖、新任の私が市民生活と環境に密接かつ不可欠な条件を有します本事業を拝命以来、今日までつづがなく実施しつつありますことは、本事業の重要性的の今日あることを遠く皆知せられ、受け入れ態勢の万全を期された議員諸公と先輩諸兄の御努力の賜物と存じ、感謝いたす次第でございます。

しかしながら、清掃事業には終着駅はなく、逆に生活環境の近代化と生活文化の向上に比例いたしまして、いっそう対象物は増量の一途にございます。さて、し尿処理事業を説明いたす前に、説明の要点を、汚物の排水量の経過と処理体系並びに清掃行政面の三点について御了承を願いたいと存じます。

まず、排出量の経過は、し尿処理事業開始の昭和三十二年、一万五千キロリッター程度であった処理量は、今日では五万五千キロリッターが予想せられ、歴年平均二〇％以上の増量の処理が要求せられております。これを一日当たりの処理量に要約いたしますと、約二百キロリッターと相なっております。以上が汚物の排出量でございます。

さて、この生み出されてくる汚物の量を起点といたしまして、汚物の受け入れ態勢でございますが、作業の性質上これを一応、収集運搬部門と終末処理部門に分けて申し上げますので、この点、御了承をお願いいたします。

さて、収集運搬部門のうち収集作業について申し上げますと、事業開始当初に比して二・九倍の運搬作業力を要しなお、運搬車については、三倍の送量の拡充をえて効率的な運営につとめ、市民生活に不祥をかけぬよう努力をいたしておりますが、近時、交通地獄と称せられる交通事情の悪化は、作業車の送行難に基因する作業の遅滞と、道路側等に残置せられました自家用車あるいは物件にさまたげられまして、作業も多分に阻害されがちで、ますます予定集荷を往すことも多分にあり、かかる障害排除の説得にわれわれ極力つとめておりますものの、市民各位の協力の度合いが、清掃事業完全遂行上の成果に大きな要因とも相なりますので、市民が信頼、尊敬する議員諸公におかれまして、何とぞこの旨を、機会がありましたならば、市民各位に御教導いただきますよう、心よりお願いする次第でございます。

次に、終末処理部門でございますが、当初、御案内のとおり全量を農村還元で処理いたしておりましたし尿も、農業経営の近代化と化学肥料の普及に、現在では全然御縁のないような状態でございます。まして、海洋投棄処分に全量をゆ

だねておるようなことでございます。本年、当初予算で御決議をいただきましたして、し尿投入槽設備を、日永下水地隣地に建設して、本施設が稼働いたします明春二月には、日量五十キロリットル、これは、現在、市の処理いたします全量の四分の一に当たっておりますが、衛生処理が可能と相なりますが、残量の四分の三の百五十リットルは相変りませず海洋投棄を続けてまいらなければならないと考えております。

御案内のとおり大気汚染等により起こる補償問題もいろいろありまして、将来性はきわめて少なく、早急に単独処理場建設の必要に迫られている現状でございますが、何分にも処理対象人口一人に対しまして約千六百円の建設事業費を必要といたしますので、これを総建設費に回しますと、二億四千万とばう大な経費を要し、目下、これが財源確保の折衝に国・県等関係機関に働きかけております。

ときあたかも昭和三十八年を契機といたしまして、国の施策にも清掃施設整備五カ年計画が取り上げられて、重点的に取り扱われておりますので、この時期を失することなく、当市も終末処理場の建設に一步進めたいと存じまして上司に進言いたしている現状でございます。

何分にも清掃事業達成の使命は、終末処理体系が勝利を握っていると申し上げても過言ではございません。重大事業でございますので、何とぞこの目的達成に御指導、御協力をいただきますよう、重ねてお願いいたします次第でございます。

最後に、清掃事業における行政面と申しますか、行政上のことについて若干申し上げたいと存じます。

現在、特別清掃指定地域には、人口面では全人口の八〇％が居住いたしております。これのだいたいの面積は三五％でございます。この区域の中で汚物の計画処理を実施いたしておりますのでございますが、近時、都心地帯より郊外部に急激に人口の増加が見られ、当然起こりうる汚物の処理要求と、地域外ではございますが、住家が比較的密集いた

しております、いわゆる都市的生活環境におかれる部分的処理要求等の度合いが逐次増加いたしてまいりましたので、指定区域外の計画収集に影響を及ぼさないように努力いたしまして、隔週ぐらいに土曜または日曜を返上し、順次処理しているような現状でございます。収集、運搬、終末処理部門の整備拡充と相まって、ただいま御指摘がありました直営、民営の解決もあわせ、関係清掃一課と相ともに上司にはかり、事業運営の万全を期した上で指定地域の拡張もと存するような次第でございます。

が、ただいまは、ひたすらにいかにしたら目的達成ができるや否やと、最善の方途を見つけて前進していく所存でございますので、何とぞよろしくお願いをいたします。

以上をもちまして、お答えとさせていただきます。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） 工業大学の問題でございますが、これは、前々からいろいろ県・市の間で論議をいたしまして、四日市には工業大学をもっていくのがいばん順当をえたやり方であろう。何かのひとつチャンスをつかまえてこれが実現をはかりたいということは、県の御当局も、とくに知事さんもそういうことをお考えになっておっていただきますので、私といたしましては、たえずこの問題に口を入れますして、一日も早くそういう線にのせていただきたい、こう申し上げておるのでございますが、ちょうどこの問題と定時制の学校の問題、こういうものが一連のなんとなしのつながりをしておりますので、その点につきましても、このさい申し上げて、皆さま方の御理解をえたいと思うのでございますが、七十メートル道路の開発につきまして、現在の高等工業学校をどこかへもっていかなきやならぬ。それについては、非常に財源的にむずかしい問題が加味しておるのでどうするかということですが、一応の、なんといいますが、理念といいますが、目安の立て方といたしましては、整備に要する区域をなくして、そし

てなおかつその地所が余ったならば、これを処分して、まず一番に高校を築させる。これは通勤十五分くらいのところと適当な場所が見つかれば、さまで県のほうでは干渉しないというような御意見でございます。

そうしますと、それに伴いまして定時制をどうするか、ということでございますが、この定時制を交通の非常に便利なところから切り離しますという、皆さんがお困りになると。そして、現在、商賈のほうの問題もいろいろ紛糾をして困った。だから、交通の便利なところで候補地を見つけて、そこへ別に一つくつたらどうであらうか。それと同時に、やはり高等商業学校のほうのもそれと同じようなところへもって行って、そして、共通に使えようなのは、たとえば運動場のようなものでございますが、利用していきけるようなふうにしたならば、いまよりも便利になって、皆さんも喜びになるというふうなふうに考えられるが、そういうことはどうだろうかというようなことが、意見として交換されておるのでございます。なおかつ、その上に工業大学を持つてくる場合に、それらの諸経費を引いて、そして、余裕があればやっていただきたい、こういうようなことが話しておるのでございまして、そのチャンスをおねらうとおくというとおかしゅうございますが、しきりに考えておるわけでございます。

片方、定時制の問題につきましては、できる限り早く候補地を見つけてまして、そうして、これを移転することにした。まずもって商業学校のほうから実施に移したいということなんでございますが、商業学校の現在の敷地が、県が売却されますので、その経費も県のほうでなるべくひとつ出していただきたいということを申し上げておるんですが、何かそのところにはちよっと私どものまだまだ勝に落ちるようなお答えをいただいております。いりません。むしろ、県のいろいろの財政のつごう上、一方的にある程度まで御予定がついているのじやないかというような懸念がございますので、非常にこの点は期待が薄くて困ると思っておりますが、総体的に考えますという、そういうことが四日市としては望ましいし、県としてもそれに協力していこうと、こういうことで、と

くに西浦の地所につきましては、そういうような、なんといいますが、事前に、こういう場合にはこうしようじやないかという、覚悟書というほどの強いものではございませんが、双方、了解事項をしておるというような内幕になっておる次第でございます。

従いまして、さしすめとりたいと思いますことは、電車の沿線にしかるべき相当な地所を求めまして、そこに一石打って、そして、事件をはぐしていく。一歩をつくりたいと、こう考えておるような次第でございます。

それから、工業大学のことでございますが、これにつきましては、もう御承知のとおり、この前、工事の問題が起きましたときには、この次に大学の問題が起これば、もちろんこれは四日市へもっていかなきやならぬし、皆が協力しようということは、その当時、強くいわれておったことでございますので、おそらくこれは一つの、きょうまで伝わってきた固まった考え方だろうと思っておりますので、こんどの都市改造にも関連をいたしまして、衆参議院の方々のお力も借り、そうして、四日市がこういうようなところに一つの足がかりをもっておるから、それを土台としてこの実現にひとつお力をいただきたいということ、いままでよりも強力に実現方をお願いしたらどうかということ、いずれこういうようなことにつきましては、市会の委員の方々、教育界の方々とお相談を申し上げて、歩調をそろえて進めていきたいと思いますし、また、県の御了解もと一つつやらしめていただきたいと、こういうふうに考えております。

それから、市民の文化向上という御願望で、市の均斉のとれた諸般の施設をやって、市民が喜々として生活ができるような市に早くしたかどうかという御勧告でございますが、市長といたしましては、なんとかしてこれが実現をはかりたいと思ひまして、実は非常に苦んでおるのでございます。これは、皆さまも御承知のとおり、の次第でございますが、これを実現いたします上におきましても、やはり昨今の財政問題等が深く食い入っておりますので、なん

らか別途の方法を講じない以上は、早急には進めかねますので、市の一つの大きな段階でもつきまするような事件ができましたならば、それを機会として、これに充当すべき財源を考えて、そうして、着手させていただかなければならぬのじやないかと思っております。

もつとも、いま考えられておりますいちばん進んでおります例の泊のほうの公園でございますが、これにつきましては、計画も熟しておりますし、ずっと一つの根をおろしておりますので、さしずめは県のお約束しておる補助をいただきながら、市も相当な負担になると思ひますけれども、一つ一つ設備を進めていきたいと、こういうふうに考えております。

なお、ちよつと横へそれますようでございますけれども、このさいでございますので、御報告を申し上げて御了承をえておきたいと存じますことは、国体の問題でございますが、先般、県のほうへ招かれまして、担当の方がこちらからも出まして、いろいろ御相談にあずかったのでございますが、その項目は非常にたくさん出ております。十も十五も出ておりますが、いずれも三重県が非常に弱いということのいいわけ、いい聞きというような意味に解せられる部分が多うございまして、こういうわけだからなかなか三重県にはもってきにくいのだと、こういうことも欠けておるからいけないのだということが羅列してあるわけですが、このことにつきましても、少し四日市といたしましては、えらい失礼な話ですけど、なんとかして皆さんとともにふるい立って、ぜひひとつやらしてもらいたいという気持ちをもちまして、主たる体育館をひとつ四日市へもってきただけじゃないか。そうすれば、県の御補助は、これはどこでおやりになつても出していただかなかきやならぬが、地元としては、市長は、そういう場合ができれば、市単独ではできないが、市に在住しておるところのもろもろの機関と相談をして、たとえば事業団とも相談をして、大いにこのさい発奮をして、市民の喜ぶようなところにひとつ協力をしてほしいと呼びかけて、そして、少しく荷物が

重いけれどもやらしていただきたいと思う意欲はある、こういうことで強くこの点は呼びかけましたが、どうしても主たる体育館は四日市にはもっていきにくいという逃げの一点張りでございますので、主たる体育館の来ない体育館につきまして、四日市が率先してぜひひとつというわけにもちよつといきかねるように思ひますので、切先がにぶっておるようなことでございしますが、聞きますというのと、こんど場合は、まずまず、残念しぐだがいかないので、もうひとつそのすみだと、そうすると、もうひとつその次にしても四十二年までにはなんらかの格好を整えて、そうして四十六年を待ちうけるということではならぬのだということだそうでございます。

こういうような動きをなしておりますので、はなはだ残念でございますけれども、私どもとしては、市でできることからやらしていただいて、そして、市自体の設備といたしまして整えていかなければならぬということでございますので、理想どおりにやろうと思ひますと、ただいま申し上げたように、いいチャンスをつかみまして、市並びに業界の方々のひとつ御奮発をお願いして、市民の皆さんとともに喜ぶような四日市の建設に御協力を願うということをやらしていただきたい、こういうふうに考えておるような次第でございますので、どうぞ、その節には御支援をいただきたいと存じます。

〔喜多野等登壇〕

○喜多野等 各担当者から懇切にいいなおことは賜わりまして、私も感激したわけでございますが、種々の問題につきまして、研究、検討を賜わらなきやならない点があると思ひますので、そういう点につきまして、各担当課におきまして、いろいろ御検討賜わつて、よりよい方向に進んでいただくことをお願い申し上げます。

なお、市長からいろいろ懇切にいいなおことは賜わりまして、最後の市民文化の問題等につきましては、新しい着想を御発表賜わりまして、そういう面であったならば、なんらか早期にいろんな解決策が見出せるというふうな

われわれとして明るい見通しをえましたことは、非常に市民全体に、ともども喜ばしい結果ではないか、このように考えるわけでございます。

どうか、大学の問題、また文化施設の問題、非常に問題が大きいわけでございますが、こういうような問題につきましても、ほんとうに皆が協力しまして、その実が早急にあげられんことを、切にお願い申し上げまして、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（鍋安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後二時四十二分休憩

午後二時五十五分再開

○議長（鍋安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

訓覇議員。

〔訓覇也男君登壇〕

○訓覇也男君 喜多野議員の質問に関連いたして、二、三御質問をいたしたいと思ひます。

経費の節減でございますが、この問題は、かつて話題にもなったことがございます。その後いろいろ聞いてみますと、建築の現場ではそのことが可能であると、技術的な職員がいつております。従つて、教育委員会当局として、地区の要望、立地条件などあらうと思ひますけれども、要は、今日の市の経済事情からいつて、ひとつ十分その点を考慮してやつていただきたい。つまり、注文服でいくか既成服でいくかという点であらうと思ひわけでございます。で少々すぐわなないことがあつても、このようになりました今日、既成服のような形でせひやつていただきたい、これは

要望にとどめておきます。

次に、きわめて事務的な質問で恐縮ですが、いまの市の事業の中には、補助金奨励事業として国・県・市がそれぞれ経費を受け持つてやつてる事業がございますが、たとえば国が十万、県が十万、市が十万、合計三十万の事業をやつておるといふ例をとらえてみますと、県が十万出さなければならぬのを、五万しか負担してない。国も五万しか出さない。そうすると、市は十万出せばいいものを、その倍の二十万出さなければならぬという事情になつております。こういう事実があるわけですが、ほかにもたくさんあらうかと思ひますが、県が出さないで国さえ出さないという、こんな理屈に合わない話はないわけですが、こんなふうにはバラ色の市政からつまつてまいりますと、その辺のところも十分考へていかなければならぬと思ひますが、これについて、県に対してどのようにいままで対処をせられたか。あちらにもこちらにもこういう事実が出てくるとするならば、われわれとしては、県に対してなんらかの態度を示さなければならぬと思ひますが、あまりにも理屈が合いませんので、その辺の事情について、これは財務課長にお願いいたします。

次に、生牛乳の給食の問題でございますが、酪農関係では、いままですいぶん補助金が出されて、生産の奨励をされてきておると思ひますが、これが価格の問題についての対策をいま考へていかなければならぬ時期にきているのではないか。開放経済下になりまして、その問題はいつその問題とされてくるところであらうと思ひます。教育委員会及び関係当局の話では、無給関係の問題をいわれましたけれども、これは何も四日市だけじゃなくて、すでに実施している地域があるわけでございますから、この辺の問題についてと、それから、給食の単価が上るといふ問題については、いままでの補助金の出し方などを勘案すれば、できるのではないかと思ひますし、その辺のところを早急に両者打ち合せられて、学校給食としていくらか計数を整理せられて、せひ実施するように対処をせられたいと

思います。

陳情も出ているようですが、当然、先ほど申しましたように補助金が出されて奨励をされてきた。そして生牛乳がどんどん生産されておる。すぐ隣りではアメリカから来たまずい牛乳を自分とところの子供は飲まされているという、こういう矛盾から出ました陳情は、きわめて素朴であります。またきわめて自然であろうと思います。従って、酪農の問題については、いま申したように対処の仕方もあるわけでございますから、ここで任期の問題になりますけれども、ひとつ教育長は、需給の問題よりむしろ子供の問題として、生牛乳の給食をするかどうかをはっきりひとつお答えをいただきたいと思ひます。

次に、清掃事業について一点お伺いしたいのですが、関連いたしましたして、経費の節減云々ということになってまいりますと、いきおい出すものを減らしたらいということになります。半面、能率効果を上げ、行政効果を上げるといふ点も考えなければならぬと思いますが、たいへん困難な事業で、日夜、清掃関係の人が御努力いただいていることは、敬意を表するのですが、ここにおける職員を能率的に働かせるための、条件の整理についてお伺いをしたい。

いま詰所は二十四坪、そこに八十人の職員がいるわけですが、従って、一人当たり〇・三坪で食事が一緒にできないという事情でございます。更衣室にいたっては十二坪しかありません。こういうことでは能率が上らない。これについて、緊急にこの条件を整理する必要があると思いますが、部長はそれに対してどう対処するか、部長からお伺いをいたしたい。

以上でございます。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 生牛乳を給食の中に取り入れてやるかどうかということでございますが、これは、委員会の態度として申し上げさせていただきます。

現在、私たちもできるならば生牛乳を取り入れていきたいと思っておりますが、先に申し上げましたように、経費の問題というのは、これは父兄負担の増大でございますので、急々によろしみ切らないでおるということでございますので、需給の関係がつかますれば、父兄に相談しまして、了承をうるならば私たちとしてはやっていきたい、こう思っております。

〔財務課長（伊藤源一君）登壇〕

○財務課長（伊藤源一君） 才一間の補助関係で、県の補助がつかないために市の補助がうまくいかない、そういうものがあるかどうかという御質問でございますが、本年度は、私の聞いております範囲では三件ほどあったわけなんです。一つは、青少年補習関係の経費、それから一つは老人福祉関係、もう一つは児童館の運営費でございますが、この青少年補習関係のセンターに対する補助金でございますが、これは、対象が非常にむずかしいように聞きとりましたので、その後、関係課のほうから強力に折衝をお願いしまして、どうか見込みがありそうだ、こういうような状態でございます。

老人福祉関係につきましても、これも非常にむずかしい。本年は見込みがないかもしれない、こういうようなことを聞きましたのですが、関係課のほうから強力に折衝をお願いしました結果、これもなんとか見通しがつきそう、こういうような情勢を聞いております。

ただ一つ、児童館の運営費でございますが、これは予算に二十万円の運営費の補助が計上されておるのであります。が、これは、国が十万、それに対して県が十万、合計二十万でございますが、県の補助がつかないのでどうもむずか

しいと、こういう状況でございまして、関係課のほうから折衝をお願いしておりますのでございますが、どうもこれはむずかしいと、こういうような見通しでございします。

以上、三件をいままでに聞いております。

「衛生部長（中山英郎君）登壇」

○衛生部長（中山英郎君） 清掃業務に従事する職員の環境ということについての御質問にお答えします。

オ一のごみのほうの関係は、南部清掃センターの設置を見まして、一応旧来よりは倍化された環境に、坪数もふえております。しかし、末永の焼却場におきましては、南部清掃センターと違いまして、非常に環境が悪いということは事実でございまして、これは炉の修理とともに考えたい。

とくに、いま御指摘になったことは、オ二清掃事務所のし尿処理場のことだと思いますが、この点につきまして、ささやかながら、とくに坪数が狭隘で、人員増加に伴って建てましをしませんので、少ないことは事実でございします。それで、暫定措置といたしましては、現在は、海洋投棄場のとくにとくに休憩場所を設けたということで、だいたい検査係ともに三名配置する予定でございしますが、そういうことで彌縫的に手を打ったということでございしますが本質的には、あの泊山にある南部清掃事務所の、清掃オ二課の事務所は、だいたい十五名程度建設当時より増員になっておりますので、改造工事をするかということ、この間も話し合ったのでありますが、車庫の問題とともに将来、考えたい。両方とも車庫の問題がいま出てまして、車庫の問題と合わせて考えたい、こういうような所存であります。

（「議長、関連」と呼ぶ者あり）

○議長（錦安吉君） 橋詰議員。

「橋詰興隆君登壇」

○橋詰興隆君 社会クラブの喜多野議員が代表質問をした中で、関連するいちばん最後の六項について、きわめて事務的に質問をしてみたいと思います。

市長の御答弁その他を伺いしておりますと、大上段に振りかぶった御答弁でございします。もちろん、そのためには大きな資金の調達があるだろうし、あるいは時間が必要なわけで、それだけに計画がなかなか進まないという欠陥が現在出ているのではなからうかと思うのです。ところが、そういうようなことも必要なことでありますし、またやらなければいけないと思いますけれども、現在、市民の広い各層の方々が求めておるものは、まとまった、すぐにも利用ができるという、そういった、だれにでも利用ができるし、すぐにやってもえらるというものをとにかくつくってほしい、そういうものを整備してほしいという声が全市にみなぎっておる。こういう現実に立って、私どもは質問をいたしておるわけです。

たとえば、先日、新聞に松原公園の草がたくさんはえておるといふニュースがございました。あるいは、それに類似したニュースがたびたび出るわけですが、私が承知をいたしております範囲の中では、すぐにそれが善後策をとられたということをあまり聞かない。あるいは、この前の中央通りの草の問題等にしても、なかなかそれが進行しないやかましく議会でいわれて、愚うございしましたということを手をつけていくという、そういう、いわゆる文化方面に対する、衛生方面に対する態度の仕方というところに問題があるのやなからうか。そのことが、いわゆる市民としては、なんとか自分たちが利用できる、少なくとも自分たちの、大きなものを求める前にもかく利用したい、そういったことをやってほしいという要求になってきているのだらう、そういう理解をしている中で質問をしているわけです。

従って、たとえばの問題としていふならば、緑化の問題にしても、各層、各界が盛んに主張いたしております。そういう点を考えるならば、これもたとえばの話ですが、中央道路のあの緑地帯といいますが、いわゆる草がぼうぼう

とはえておるところをなんとか活用して、そこに草花あるいは木等の苗を植えて、一つの利用化していくということによって、さらに、それが将来大きな発根の芽が出てくるのであらうと、こういった問題とか、あるいは市内の中には垂坂山だとかさらには生桑の山だとか、あるいは一生吹の山だとか、たくさん古来から市民が遠足などで利用してきた、そういったことがあるわけです。そのものを、現状の施設を若干整備してやる。たとえば一生吹の山にしても桜の木を一本五、六百円の苗木を植えてやれば、たとえば五百本植えてやれば昆沙門さんが桜の名所になるという可能性すらも出てくるわけです。そういったさやかな問題、大きな金をかけなくても、あるいは長い時間をかけなくともすぐやれるという問題がもと手近い問題として考えられる必要があるんじゃないだろうか。そういった面で何か理事者のほうで、これは、市長がすぐこうだということでもなくとも、市長を補佐するそれぞれの部長なり課長なりのスタッフの中でそういうことが考えられておるかどうかということ、ひとつお聞きいたしておきたいと思います。それから、いま一つの問題は、先ほど喜多野議員がいちばん最初に質問いたしております保育所の保育料の問題については、先般、社会クラブの訓導議員のほうからなんとかしてやれという質問に対して、なんとか考えをいたします、研究をいたしますという答弁がなされておりますが、その後三月ないし四月たっているわけですが、その作業がどこまで進行しているかということについてのみ、御答弁をこのさい求めておきたいと思ひます。

以上です。

〔厚生部長（平井清三君）登壇〕

○厚生部長（平井清三君）　さる六月の定例会で訓導議員から保育所の保育料の問題について御質問がございましてそのとき検討させていただいた旨お願いを申し上げたのでございますが、その後の私どもの作業について申し上げます。

われわれの同格都市と思われる三十市ばかりの資料をとりまして、再三部内会を開きまして検討したのでございますが、残念ながらまだ結論を出しておりません。この機会に三十余市の状況を簡単に御紹介申し上げますと、国の基準どおり保育料をさめておりますものが、尼崎市とか静岡市等二十市でございます。大阪市とか名古屋市のような大都市も国の基準どおりでございます。それから、国の基準を一部修正して弾力をもたして運営しておりますものが、西區市、それから千葉市等九市でございます。それから、市独自の基準によってやっておりますのが、神戸、高知それから和歌山、尾張一宮、この四市でございますが、これにつきましても私どもいろいろな意見がございまして、その市でやっておられるものをそのまま四日市で実施することは困難かと思っております。

そのような状況でございますが、こんご検討を続けていきたいと、このように考えておりますので、よろしく御了承をいただきたいと思います。

〔土木部長（城井義夫君）登壇〕

○土木部長（城井義夫君）　ただいま緑化等の問題について、いろいろありがたい示唆をいただいたわけでございますが、そういった面の具体的な問題としまして、現在、都市計画課におきましてとっております一つの方法でございます。

これは、県の赤水に市有地が相当ございまして、現在、相当松がはえておるわけでございますが、これを、遂次一昨年より開墾いたしまして、開墾しておるわけでございます。現在ございします松の苗と申しますか、松の木は、学校の運動場に一部植えておりますが、その開墾したあとには、比較的傾斜の張らない小さい苗で、苗を植えまして三年、四年のちに街路樹として使うという考え方をしております。また、緑化週間、国等で行ないます緑化週間等で一年生程度の苗の無料配布等がございしますが、これも直接街路あるいはその他に移植いたしますと、なかなか歩どまりが

悪いのでございまして、これも数年苗圃で育てましてから適当な場所に移したいというふうな考え方をとりまして進めております。

また、一つの試みといたしまして、農家で、比較的耕地の許す方にお願いたしまして、委託栽培をしておるわけでございます。これは、年間の肥料代あるいは除草、消毒等をいろいろ研究いたしまして、一年間の委託費によってお願いしとるわけでございます、これも非常にこんご成績を上げると期待しておる次第でございます。

「橋詰興隆君登壇」

○橋詰興隆君 市民の文化の向上の施設問題について、もう一回尋ねてみたいと思います。

その前に、保育所の料金の問題については、さらに関係の各部課あるいは機関等と御相談願ひ、なるべく早く市民の不満が解消されるためにいっそうの努力を尽していただきたいと思ひます。

土木部長のお話、それはそれとして了解をするわけですが、現在、政策の問題として市長の考え方の中に、やはり市民がさしあたり必要としているものをどう取り上げるかという端え方というものが十分でなからうかという気がするわけです。つまり、私は、二、三例を申し上げましたことは、やろうと思えばすぐにでもやれる問題です。従ってここでいよいよ社会クラブが考へておりますアイデアなり、あるいは着想というものを申し上げるわけにはまいりません。

そこで、一つだけお聞きをしたいのですが、実は先般、私どもは、いわゆる市民の方々が日曜日なりに子供さんをつれて気怪くいけるという、そういうたいこいの場所がなからうかということで、市内を数カ所見てみたわけですが私は、たくさんそういう場所があると思うし、ちよつと金を出し整備をすれば市民の方々が喜んでもらえそうなのところがあるという判断をいたしております。従つて、県体、国体、オリンピックもけっこうですが、やはり市民の多数

の方々が望んでおる、そういう、いわゆるいこいの場といひますか、そういうものが、わずかに道をつける、あるいはまわりにベンチを置く、そういうことでけっこうなわけです。そういうことを、たとえば、泊山の構想がたいへん大きく出されておりますけれども、あの中の一カ所でもそういうことが可能であるのかどうかということ。あるいは、さらに、こんご私どもが市長のほうに、こういふことをやってみたらどうかということをもち込んだ場合に真剣にそのことが取り上げてもらえるかどうかという、この二点について、市長のほうの御答弁を求めておきたいと思ひます。

「市長（平田佐矩君）登壇」

○市長（平田佐矩君） ただいまの御意見拝聴いたしました、まことに感服いたしました。実にいい御意見だと、われわれそこで助役と話し合つたのでございしますが、お説のとおり、いま現在あるものでも、少し手を入れれば子供さんをつれて、お弁当を持って、そしてそこへ遊びにいけるというような個所はかなりあるだろうと思ひます。また、いま開発しようとしておりますようなところは、事前にそういうことができればそういうことをやらしていただいていいと思ひますし、いわば、市内を巡回して、皆さんが散歩に行つてのびのびとやれるような、きわめてなんともいいですか、簡易であつて、しかも清楚な場所というようなものを選びまして、経費の点等につきましても、なるべく軽くすまして、そして喜んでいただける、こういうようなものを、御趣旨に従ひまして、私どもさつそくにひとつ勉強いたしまして、おそい申し上げるように努力いたしたいと思ひます。

○議長（鍋安吉君） 前川議員。

「前川辰男君登壇」

○前川辰男君 いままでの社会クラブの質問に対しまして、市長の構想と担当部課長の答弁との間に非常に食い違い

があると思つて心配をしておつたわけですが、ただいまのお答えで、私どもは、こんごの具体的な政策というものに期待をもちまして、この点で質問を終わりたいと思ひますが、一つだけたしかめておきたい点がございます。

それは、昨日から都市改造問題につきまして、非常に四日市の現状というのは大きな問題であつて、国・県・市をあげてやらなければならぬと。全力をあげて国のほうに要請をしておることにつきまして、かなり具体的な説明がなされておつたわけですが、これは、それだけ事が大きいだけ問題を解決するのは非常に時間もかかりまして、精力もあるいは経費もかかるわけですが、従つて、そういう根本的な問題解決と同時に、当面している問題、これをどう解決するかということについての具体的な答弁がもう少しほしいと思ひます。

具体的に申し上げますと、先ほど庄司助役の答弁の中には、企業の社会的責任を追及するということが出ておつたわけですが、この点はいへんけつこうだと思ひます。現在、施工されておりますところのばい煙等の規制法につきましては、これは、あくまで排出の規制であつて、環境の規制ではないわけですが、アメリカの大統領ですらクリン・エア・アクトというものをつくりまして、その中で排出の規制と同時に環境の規制というものを、非常に大きな問題として取り上げておるわけですが、法律というものは、えてして実態より遅れて、一つの問題が起こつて、それから皆の手によつてつくられる。従つて、先行している地域におきましては、かなり問題が残されたまま時間が経過されるわけですが、この点を助役が指摘しておられるという点は、たいへんけつこうだと思ひます。

それじゃ、どうするのかということについて、もう少し具体的なものが出されなければ、ちよつと市民として不安が残るわけですが、説明の中にもありましたように、あるいは、昨日、伊藤議員が申されましたように、塩浜中学校におきましては、昭和四日市石油の新しい施設が、すぐ隣接して目の前にかぶさつてくるような形ででき上つてゐるわけですが、これに対して市民はたいへん不安を感じております。こういう問題について、市長はどう対処していくのか

あるいは牛起、高浜地区における住民のいままでの訴え、これに対してどう対処していくのかということが出されなければ、せつかく企業の責任を追及するということばがあつても、ことばだけに終つてしまふのやないかと思われまふ。先日、市の公害防止対策委員会といたしまして、視察をかねて東京にまいり、各企業の責任者の方々といろいろ懇談をいたしました。企業においても、やはりこういう問題については、十分に考えておられますし、また、一方といつて、それが十分な形で国や県あるいは市のほうにどうも連絡がとれてないのじやないかというふうなふしも見られるわけです。この大きな都市改造の問題につきまして、国のほうに問題をもつていきますと、企業はいつたどう考へてゐるのか、いっこうに何もやつてないじやないか。まず、企業のはうで積極的なものが必要である、こういういい方も出ておるようです。こういう点につきましても、もっと具体的に、市が直接、企業に対して申し入れる点があるんじゃないかと思ひますが、ただいま一、二例をあげましたので、こういう例につきましてどう対処されるのか、お答えをいただきたいと思ひます。

〔市長（平田佐矩彦）登壇〕

○市長（平田佐矩彦） お説のとおりで、非常に困惑しておる問題でございますが、やはり基本線といたしましては、このたび提案いたしましたような大きな都市改造というふうな面にのせていかなきやなりません。しかし、おつしやるとおり、これがきようあす実現する問題でない。

そこで、現在、非常に困つておる場所というふうなことにつきましては、これはひとつケース・バイ・ケースで準備的な処置を講じていかなきやならぬ、こういうふうな考えられるのでございますが、それにつきましては、市も県も十分考へを練りまして、さらに企業方面にも御協力をえてやつていきたいと、こう考へておるのでございますが、同時にまたその方針に地元の方々も御協力を願ひまして、できる限りそれがスムーズにいくようにいたしたいと思ひ

んでございますが、少しくちよつと問題が横へされるかと思いますが、たとえば、雨池周辺の集団的なんと
かしてひとつ新しい天地を求めていこうということから、地元の方々も非常に御熱心になられて、市理事者といまし
ましても熱心になり、また、周辺の会社におかれましてもあながち御反対でないのみならず、場合によっては、協力
もしたいというふうに、三者とも皆同じような方向に進んでおるのでございますが、さて、それを実行いたします
場合になりますという、いろいろの問題が起こってまいりまして、なかなか前へ進みにくいというのが実情でござ
います。従いまして、やはりこういう問題につきましては、地元の方々の御協力もえ、また、医師会とかその地区
の市議員さん方の御推進もえまして、そうして、ことごまかにやっていかなきゃならぬというのが実情でございま
す。また、ある場所におきましては、現実に出くわしておる問題でございますが、越してもいこう、越してください
といつて、だいたひ話や方針としてはよく似ておるんですが、さて、それならば具体的にいろいろのこと
とをやらうと思ひますと、これくらい金があると。それはなかなか職出としては処理しにくいというようなことが
起こってまいりましたりいたしまして、なかなか双方とも誠意をもってやつとるのでございますけれども、やはり片
方のほうには、あとをひくいろいろの実例にもなりますし、また、市のやり方としての一つのよりどころというよ
うなものに将来なるものですから、そうそうはめをはずしてというわけにはまいりません。ところが、地元の方の御
いい分としては、そういうことよりも、自分たちの立場の上からこういうふうにしてほしいと、こういわれるので
が、これもなかなかごもつともな点があります。ですから、それはいちがいにはいきませんと申し上げるわけにも
いかなので、そういうような点を妥協を見まして、そうして、ひとつひとつ解決していかなきゃならぬのですが、た
まごういうふうにして、大きな都市改造というような問題が出まして、これは、いずれも国・県・市というよ
うな大きな線を打ち出してあります。ただいまおっしゃいましたとおり、企業体のほうもどうだといつておられます

が、いずれこれは御配慮をいただきたいと思いますが、しかし、市にいたしましたとしても県にいたしましても、このほう
大なる計画を実施しようと思ひますと、われわれがそのごく少ないパーセンテージを負担するといいたしましても
県にも市にもなかなかそれが重荷になるということで、実際の面で実行しようと思ひますと、国がせっかくやって
くれました、市や県のほうが足を引きずりおろす。ついていけないというようなことじやなんにもなりません。従
いまして、国のほうに大方のお力を借りたいということがわれわれの趣旨なんでございます。それを通していきます上
におきまして、組織だった運動をやらうとしておるのでございますが、先般も衆参議院の御関係の方々にお集まり願
いました結果は、やはりこのことについては、地元の代議士が窓口になっていただいて骨を折っていただきたいとい
うことで、山平先生のお帰りを待つということになっておりましたが、お帰りになられましたそうでございますので
二、三日お休をお休め願ひまして、先生にお目にかかり、いよいよ窓口になっていただきまして、さらに才二回の会
合を県市共同でお願いを申し上げて、そして具体的にその方面もとり進めていくと。また、部分々々でわれわれの力
でやれていくことの問題については、会社にも御協力をえながらひとつ解決つけていくというふうにとり進めていき
たいと、こういうふうにご考えておりますので、理論より實際を重んじてやらなきゃならないな、こういうふうにご
おるような次です。

どうぞ、よろしくお願ひいたします。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 夾際に一つの問題を解決しようと思ひますと、かりに一軒の家を取り上げた場合でも非常にいろいろ
問題があると思ひます。市長がいわれるようにケース・バイ・ケース、なるほどそういうことだと思ひます。た
いへんむずかしい問題がありますが、しかし、誠意をもって、これに対する要請とともにやっていこうという気持ち

をひとつ実行に移していただくようにお願いしたいと、期待するわけです。

御答弁は、こんごの市政の上に現わしていただくことによって御答弁願えればけっこうでございますが、しかし、それにも、困難はもちろんつきものです。たとえばはつきりした問題もあると思うのです。こんど昭和石油があれだけ大きく増設をやったために、そのために塩浜中学というのが非常に問題になってきているわけです。これは、明らかに昭和四日市石油と塩浜との関係だと思われまます。その辺のところをもっと割り切っていたら、はつきり解決をする。たとえば、実際に危険が伴い、実際に公害が伴ってくるとすれば、昭石の責任において塩浜中学を善処すると、あるいはそうでなしにないのならないと。昭石の責任においてそういうことは絶対にないということを証明させる方法があると思うんです。これらもケース・バイ・ケースの一つの問題ではないかと思われまますので、蛇足でございますが、つけ加えまして質問を終わります。

○議長（錦安吉彦） 次に、酒井議員にお願いします。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 公明政治連盟四日市公明会を代表して、四つの項目にわたって質問をいたします。

で、質問に先立って、私の質問はもちろんでございますが、同僚議員の方々あるいは各派の方々の質問にも関連がございますので、一言、発言をお許し願いたいと思います。

この四項目の通告を見た一人の理事者が、毎回同じことを質問しているじゃないかということをおわられたわけです。それならば、なぜ毎回、質問をさせるようなことをするのかと私はいいたいわけでございます。どうか、同じことを繰り返さぬような質問をさせないように、市長はじめ理事者の方々もよく考えていただきたい、そのように切望いたします。

一例を挙げれば、過日、私は葉っぱ服を着まして、印鑑証明をもらいに来たときにはつっけんどんな扱いをされたわけです、窓口で。こんどは背広を着てきたときにはそれほどではなかった。ところが、十日ほど前にまた印鑑証明をあげにきたら、三度、印鑑証明の紙を下さいといつても話をしながら、私どもの扱いは冷淡であった。四度目にだまって紙を差し出されたわけでございます。私だけかと思つてしばらく腰かけておりましたら、一人の見すばらしいおばあさんがやはり印鑑証明をもらいに来ておつた。このおばあさんに対してはもとと失礼なことばを一人の人がはいたわけでございます。で、この席上において過日、そういうことのないように、あたたかい思いやりのある市政ということを、市長は叫ばれておりますけれども、去年から同じことを繰り返していらつしやる。だから、何回も質問をしなければならぬ、こういう結果になるわけであります。また、過日は、わずか一、二分のことで市長に面会を求めましたところ、順着があるというので待つておつたところが、一時間半も待たされました。市議会議員という、その名をいただいたそれでもつて市長に面会を求めたにかかわらず、一時間半、何も連絡なしに待たされておつた。私もこみ入った話があるかと思うので待つておりましたところが、何も連絡もなしにその待たされたということは、ほんとうにあたたかい思いやりのある市政であるかどうか。私どもに対してもそのような態度をとられるならば見すばらしい老婆に對してする態度は、およそ察しがつくわけでございます。どうか、何回もそのようなことを、あたたかく思いやりのある市政という主張が、何回も私どもの口から同じことをいわせないように、ひとつこれから、絶対にそのようなことがないようにお願いしたいと思います。

最後になってまいりますので、気分がだれてきますので、私の質問は少し向きをかえて申し上げたいと思うわけでございますが、「吹けば飛ぶような将棋の駒に」という歌がございます。ところが、その将棋の駒にたとえれば、市長という人は王将であり、私どもは歩であり、市民は香車である。ところが、そのような下賤な身分が歩であり香車

でありますけれども、金となりあるいは成金となって敵陣に切り込んで行ったときには、その王将をせっちゃん詰めにするということもあるということを、市長は心えていただきたい。もう一面からいえば「へボ将棋、王より飛車をかわいがり」ということがございますが、市長がそのへボ将棋の差し手とすれば、王将はすなわち主権在民の大衆であって、そして、市からいえば四日市市民であるわけで、王将をかわいがらない将棋さしは将棋でもなし、大衆を無視した政治は政治ではないということを、市長はじめ理事者の方々はよくお考えいただいて、次の四項目にお答えを願いたいと思います。

まず最初に、農産対策についてでございますが、これは、全般的なものではなくして河原田方面でございます。南河原田、北河原田、内堀、貝塚と、この四つの地区にわたったことでございますが、本年度は史上最大、最高の収穫高ということを新聞紙上でも聞いておりますし、事実そのように思いますが、その四つの地方にわたっては、春から減収をしておるということを聞き及んで調査したわけでございます。どうか、理事者においては、なぜそのように減収をしたか、その理由ともう一つ各地区の根本原因を一つ。

それから、減収高。

三番目には、農戸一戸当たりにとのくらいの損害があったか、金額に表わしていただきたい。

四番目には、一反当たりの減収高。

五番目には、それに対してどのような対策が打たれたか、この五項目をお願いしたいわけです。

二番目には、これは特殊学級の生徒に対して、その教育の全部を市の負担でやっていただきたいということを、市長にお願いしたいわけでありますが、市長はどう考えていらっしゃるか。できなければ、できない理由。できれば、それはいつからやっていただけるか。

俗間に「はえば立て、立てば歩めの親心」ということばがございますけれども、どういう因縁かどういう因果か、その子供を持ったその親の気持ちを感じて、どうか、市長はもともととあたたかい、自分の子供のような気持ちになつて、その教育費を全部市の負担にお願いしたいと思うわけでございます。

で、それに関連してでございますが、精薄児とか身体の不自由な子供、そういう人々に対して大至急施設をつくつて、ただきたいということと、先般キリスト教の牧師が云々という話がございましたが、そのことはどうなっているか、これも合せて御返答願いたいと思います。

で、その次には、学校給食が非常にまずいということを聞いておるわけでございますが、現実に、学校から帰ってきた子供が、私のところは子供がございませんので、これはわかりませんが、いろいろの方面から聞いた結果、給食は食えずにうちへ来て御飯を食べる。そうすれば、一日に四食食えるという結果になるわけです。世の中にはそういう子供を持った方もいらつしやると思いますが、どうか、自分の身に就いて、そうして、給食がほんとうにうまいのかまずいのか。子供が給食を負わずにうちへ帰ってまた子供は御飯を食べるか、そういう実情はよく御存じのことと思います。そういうことを教育関係の方々は聞いていらつしやるか。なぜまずいのか。まずければ、その対策をどうすればいいか、この三点についてお答えを願いたいと思います。

次に、公害の問題でございますが、これは、いろいろと先ほどから各派代表の方々あるいは関連質問の中でございましたので、省略いたします。

ただ一つ申し上げたいことは、あまりにも塩浜とか牛起とかそういう大きい公害そのものにかくれて、実は阿倉川のはうの万古工業の関係の人々の公害が忘れがちである。そういう人々に対してどのように解決をしてやっていたか、どうか、一つの大きい公害のかけに、また同じ公害に泣く人もあるということを、市長はひとつお忘れ

ないように御答弁を願いたいと思います。

それから、もう一つは、先ほど前川議員からだったと思いますが、やはり三浜小学校、塩浜小学校の件、それをお願いしたいと思います。これは省略いたします。

その次に、これも社会クラブから御質問があったので省略しますが、文化施設を積極的に早急に敏速にひとつお考えを願いたい。日曜日に親子ずれで行くというようなところがない、四日市にはないわけです。そういうことも合せてお考えを願いたいわけです。

それから、もう一つ、その羊面、親子ずれで遊びに行けないような、そういうような人もいるわけです。というのは、母子寮とか引揚寮に入っている人々は、やはり貧しいがためにそういうところへ行けない。それに加えて自分の住んでいる部屋さえも直すことができない。そういう人々もあるということ忘れていらっしやるのではないか、こう思ってお尋ねするわけですが、どうぞこういう人々に対しても、どのような対策を具体的に立ててくださるのか、大きいことをもくろまれる市長であるならば、ひとつ小さいことも現実の問題としてこのことを具体的にお答え願いたいと思います。

時間の関係で、以上で省略しますが、よろしく願います。

〔産業部長（芝田敬太郎君）登壇〕

○産業部長（芝田敬太郎君） 河原田の減収の問題につきまして御質問を賜ったわけですが、御質問いただきました原因、それから減収量、一戸当たりその他の問題等につきましては、現時点におきましてはお答え申し上げる資料を実は持ち合せておりません。

原因につきましては、私ども、これは六月議会のさい、助役から干ばつ問題を取り上げて御説明を申し上げてあり

ますが、河原田は市内いちばんの早植え地帯でございます。ちょうど四月から六月にかけての、私どもは今年度、オ一位の干ばつだというふうにしておりますが、その当時、早植え地帯は非常な干ばつを受けたわけでございます。御指摘の内部、内堀、南北河原田、貝塚等におきましては非常な干ばつを受けて被害をみたわけでございます。

それで、私どもはこの干ばつ対策といたしまして、耕地農林両課合せて当時河原田に集中いたしましたので、この被害状況の問題に取り組んだわけでございますが、御承知のように、あの付近は、いや用水路の漏水等もございまして、そしてまた内部川の被下流でございます。そういう意味から非常に水が不足をいたしました。それで、非常な被害を見たわけでございますが、当時、私どもと地元の各位と話し合いましたことは、現在のような用水路で水を求めるということは、非常な至難な問題でございます。それで、こんごの問題といたしましては、恒久的な対策として浅井戸を掘りまして、機械揚水をするような恒久施設をやらなきゃならぬじゃないかということさえ相談をいたしたようなわけでございまして、これは、県のほうにも御連絡を申し上げまして、現在、県におきましては団体事業として四十年から二カ年程度でこの問題を解決してやろうじゃないかというふうなお話までもいたしておりますが、そういうふうな恒久的な、あえて相当な地元負担をもちましてでも解決をしなければならぬのが、河原田のいわゆる耕地の状態でございます。そういう意味から、私どもは、河原田の減収原因は、干ばつが非常に影響をいたしておる、こういうふうにご考えております。

過般、農林課におきまして九月の十一日でございますか、河原田につきまして三カ所坪刈り調査をやったわけですが、まだもみの状態でございます。そういう意味合いから、最終的な終了決定までいたっておりませんが、相当な減収を見ております。そしてまた、もう一つ、これは本年度史上最大の豊作といいますが、市内各地のたんぼ

を御覧いただきますと、とくに早植え地帯におきましては、いわゆる省力経営栽培、極端な申し方をいたしますと、ひえさえ引いておられないようなたんばが非常にあります。そういう面等も影響をいたしておるところもございます。そういう意味合いで、河原田につきましては、御指摘の地区全体の漁収とか一戸当たりの漁収という問題につきましては、現在の時点では資料を持ち合っておりません。

これが、こんご坪刈り調査等を実施いたします。そしてまた、市役所だけでなしに、農林省の統計調査事務所というものもございまして、それぞれ収量把握をいたしておりますので、実収のあかつきには、河原田のみならず、各地域におきます実収損害等の事実が判明いたしてまいれると思っておりますが、御質問を賜りました問題に正確にお答えを申し上げることができませんことを、まことに申しわけなく思っております。

〔教育長（山本軍一君）登壇〕

○教育長（山本軍一君） 二番目の学校宿用費に關連する点二点でございますが、そのうちの一点目の特殊学級の費用を全部市の負担でやってほしいと。これは市長に対する要望だと存じますが、委員会の態度を申し上げます。現在、宿用費は子供一人当たり小学校で約千四百円、中学校で約千六百円でございしますが、特殊学級につきましては、小学校で一人当たり二千二百円、中学校で一人当たり二千四百円でございします。これは、私たちいたしましては、漸次特殊学級をふやしていきたいと思っておりますので、その面では多少の御趣行に沿うことになるかと思いますが、御質問の中を御推察いたしますと、全部という意味は、PTAの会費その他についてもいわれておるのやないかしらんというふうにも御推察するんですが、それにつきましては、浜田の特殊学級につきまして、一応、調べたところ、ある事情のためにある月が特別に多かつたということがございます。そういうことは、これは、個人のものを買ってしまったということでございましたので、一般の子供と比較いたしまして、特別に特殊学級であるためにたくさんPTAの会費をとっておるということではなかったのでございますが、それも全部含めて市で負担してやってほしいという御趣旨だと思っておりますが、委員会といたしましては、私がいま申し上げたようなことでございます。その次に、学校給食のまずさということでございますが、これは、私たちも聞いております。なぜまずいのかというところでございますが、これは、現在、一食低学年二十五円、高学年二十八円、平均二十六円で調理をいたしております。二十六円といいますが、なかなかいまいのところ、ほんとうにうまいものを食べさせるということにはいけなくて、限界に来ておることだと思っております。従いまして、うまいものを食べさせるためには、もう少し値上げしなければならぬということにきておるのじやないかしらと、こう思っております。現在、値上げの問題も起こっておりますけれども、これは検討中でございます。

〔商工課長（小西忠臣君）登壇〕

○商工課長（小西忠臣君） ただいま万古の公害についてはどうしているのか、ということにつきまして、商工の面から近代化設備ということで御報告をさせていただきたいと思っております。

お手元の陳情文書表の中に、万古の工業協同組合の理事長から陳情書が出されておりますことにも関連するわけでございますが、ばい煙規制法に抵触いたします万古の企業の数は、百三十二業者の中で五十八ございします。その中で本年度十八企業が設備近代化の資金の申し込みを県を通じて行なっておりますわけでございます。御承知のように中小企業近代化設備資金助成法に基づく助成金でございますので、申込額の四五％から五〇％を国・県が見ることに相なっております。その残額資について、いわゆる零細企業であるので、なんとか見る面がないだろうかというものが、陳情の趣旨でございますので、この面につきましては、商工の窓口といたしまして、真剣に取り組みまして、ばい煙規制法でいいますと、集塵装置ということになるわけでございますが、業者の皆さんがこのさい近代化をはかって、いわ

ゆる燃料を石炭からガス等にするという際、の近代化でございしますが、非常に趣旨が趣旨でございしますので、これから極力商工課でこの問題を取り上げて、皆さんの御趣旨に、御納得のいくように努めたいと思っておりますので、よろしく御了承をお願いいたします。

○議長（鍋安吉君） 暫時、休憩いたします。

午後四時一分休憩

午後四時十三分再開

○議長（鍋安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

〔厚生部長（平井清三君）登壇〕

○厚生部長（平井清三君） 身体障害児と精神薄弱児の施設のことについて申し上げます。

肢体不自田児の早期治療と機能回復をはかるための施設が、関係者の間に強く要望されておったんでございますが、中部西小学校の空教室の一部を利用して、この九月三日から四日市療養センターが発足いたしました。

この運営につきましては、法人組織に切りかえて拡充強化しようと計画しております。四日市社会福祉協議会の事業として進めていきたい、このように考えております。

それから、精神薄弱児の施設につきましては、御承知のように市立のみはと学園がございしますが、その他の身体障害者の施設とか精神薄弱児の施設につきましては、技術的にも非常に困難でございしますし、また財政的にも問題がございしますので、いまずぐ着手することは考えられないと思ひます。

それから、浜田のカトリック教会のムニ神父から出されておりました精神薄弱児の施設について、その後どうなってお

るのかということですが、まず用地として萩田地の國有地を予想しまして、新界の権威者でございします近江学園の糸賀先生にも見ていただきまして、ここならよろうということとでございましたので、この土地について施設計画とか将来の運営計画を詳細に立てて市のほうへ提出するように、こういうふうにしておりましたが、昨日夕方設計図とか計画書を持ってまいりましたので、こんごこれについて検討したい、このように考えております。

〔酒井昌一君登壇〕

○酒井昌一君 産業部長からの御答弁でございしますが、非常に答えにならないような答えであつて、どうかと思ひうけななです。

で、一つ私が調査したことを申し上げますので、それを参考にしてどのように現実はなっているか、ひとつお考えをお願いいたします。

二百七戸のうち、百七十五戸について調査したのでございしますが、田地は九十一町三反、漁収は千四百七俵です。千四百七俵が漁収であつて、それにくいとめるためには、また多数の人員とそれから費用が要つたわけでございします。が、金額にして約一千五百万円、そのように調査しておりますが、市のほうとしては早急になにかの手を打って調査をされて、そうして善処というよりも、考えてみれば農業基本法とか地方自治法にも違反するようなことが行なわれておりますので、ひとつそれを御調査願ひたいと思ひます。

それから、産業部長からの答へによりますと、干ばつのために水がないというだけの御返答であつたけれども、上水道が建設されたがためにそれによる被害が甚大であつたということとを認めていただかなければならないということではないかと思ひますが、それも御返答願ひたい。

きのう「舟をためて牛をころす」という市長及び助役からのおことばございましたけれども、まさに上水道による

水の不足となれば、「一角をためて牛をこらす」ような結果になったんじゃないか。そういう政治をやってはいけないと市長も助役もいわれたにかかわらず、ここにその例があるような気がいたします。ですから、どうか他の面と比べ合せて、本当にそうであったかなかったかひとつ産業部長において調査を願って、そうしてそこにその住む農家の人人に状態を、あるいは原因はそうではなかったということを了解を求められるとともに、もしそうであったならば、至急に手を打っていただきたいわけです。

それから、ことしはそれで終ったにしても、また来年、また来年と繰り返すわけでありますので、早急にその対策を講じて、そうして善処というよりも至急にしかるべき御配慮を願いたい、このように思うわけでございます。

いろいろ事務も多端な折からではございますが、そういう声はことしから起こっておったことを聞いておるにかかわらず、現在、私どものところへ、耳へ聞こえてきたということは、産業部長を責めるわけではございませんが、事務怠慢ではなからうかと思えますし、また市長もその点についてよく考えていただきたい。

きのうもどなたがおっしゃったように、声なき声を聞くことが政治なんだとおっしゃったことを私は伺いましたがまさにそのとおりであって、どうかこの河原田地区における漁収のことについて、市としては最大の努力を払われるとともに、そういう事例がまだ四日市の市内にあるように承っております。上水道のために水がない、だから米が漁収する。しかし、それをいえば上水道が止って、そうして止るから痛しかゆしだというような現実の証拠もあるように聞いておりますので、至急それを調査を願いたいと思います。

それから、二番目でございますが、特殊学級の子について、どうか心を大きく持たれて、その教育を全部市の負担においてお願いしたい、これはとくに重ねてお願いするわけでございます。

精薄児の件は、せっかく御努力願いたいと思います。

次、学校給食の問題でございますが、金額云々をいわれましたけれども、しかし、この金額を出して、しかもまたうちに行って食べるというなれば、これは余分になってくる。うちに帰って食べないようにひとつ学校給食のほうも考えていただきたい。うちに帰って食べるなれは同じことであって、それなら学校給食の目的がいささかずれるような気がいたしますので、その点も台せて教育の部門においてお考え願いたいと思います。

阿倉川の公害問題でございますが、どうか大工場に関する公害とともに、中小企業がとかく忘れがちでございますので、その辺もつとめて関心を同じように持たれて、公平であつても不公平であつてはいけないし、平等であつても不公平ではないけないと、こういう点をよく考えられて、公平しかも平等という、そういう点をお考えになってひとつ善処をしていただきたいと思ひます。

以上に關していろいろ申し上げましたけれども、どうか市長におかれましては、こんご私ども市議会の關係から何れも何れも申し上げることのないように、一ぺんで済むようなひとつ御行動をとっていただきたいとともに、先ほどいわれたところの、私は私なりの信念を持っておるとおっしゃいましたけれども、その信念も過ぎれば頑固になります。信念は、私どもも持っております。しかし、信念が過ぎれば頑固になるということも知っております。

どうかそういう点を、よく市長には失礼でございますが反省をされて、そうしてなを根本にしてその信念を持つか、そういうことをお考え願いたい。大衆の声というものはどおそろしいものはない。強いものはないわけでございます。大衆の叫びほどまた正しきものはないし、大衆の怒りほどおそろしいものはない。こういうことをよく考えられて、市長はこんご善処されて、どうか二十万大四日市のために、大政治家たらんことをお祈りするとともに、私も市長の手足となって十分に大馬の力をいとうことのないことをお約束して、私の質問を終わります。

○議長（錦安吉君） 大島議員。

○大島武雄君 先ほども商工課長のほうから公害問題について御答弁があったわけですが、お話の中に陣情に出ていたということで、どうかと思いましたけれども、先ほども酒井議員がお話になりましたように、いままでの話の中においても阿倉川方面が忘れがちであったというような感をおぼえておるわけであります。

このことについては、皆さんも御承知のように近代化に伴って石炭から重油に変わりつつあるわけですが、その重油をたいているところの近くの人たちの訴えによればですね、非常にくさい、のどが痛いという訴えを種々訴えております。この点について、この前六月だと思えますけれども、産業経済の委員として視察をさせていただいたときには、いろいろ試験的にメタンガスでそのかまをたいているというようなことを見せていただいて、非常に金額的に、あるいはその他の面においてはまだ詳しいことはわからないけれども、このほうがみんなに困らないというような、ある程度の結露を出しておいたわけであります。非常に喜ばしいと、このように考えておったわけですがその後どのように進んでいるか自分も調べてなくて申しわけないと思いますが、重油をたいているところのかまの近くにおいては、いままでに公害の問題、臭気の問題において亜硫酸ガス等によって非常に煙突が高くしておてもくさかったのに、ましてや阿倉川方面においては煙突が低いために、直接そのにおいというものが市民の、あるいは空気のの中にとけ込んで非常に影響を及ぼしておる、こういう実態があるわけであります。

このような改革、近代化に伴ってこの設備資金といいますが、その改革によって先ほども商工課長は話されましたが、約五〇％によって県と国との負担で、あとはいろいろ相談しなければならぬということでありましたが、この前視察させていただきましたときには、いろいろその金利の面においてもある程度具体的なことまで話が進んでいたように思います。とくに九月ごろにおいてはある程度予算化したいというようなことも聞いておったわけであ

りますが、今回は、それは出ておらないようであります。

こういう点について、公害問題という四日市の皆さんの関心の高いものにおいて、本当にこの公害に対する問題を解決するというその気持ちが高いというように判断しておるわけであります。こういう点について、惜しみなくできる限りの援助をして、解決に当たっていただくかどうか、この点についてまずお伺いしたいと思えます。

それから、福祉厚生の問題のところでありますが、精薄児の施設、あるいは収容不自由児の施設においては、これからの新しい施設をするには考えられないというような答えでありましたが、まことに残酷な返事であると私はこういいたいのであります。

その困っておる子供を自分が持ったときには、このことばを聞いてどのようにその家族が反響するであろうかというのを、先ほど聞いておりました所の中がじーんとしたわけでありますが、そのことと市長が方針に出されておりますが、あたたかく行き届いた市政というこの点について、全く天地水火の返事であると、このように考えるわけであります。先ほど部長が答えられたことについて、市長はどのようなお気持ちでそれを聞かれたか、あるいはこれをごんご増設、あるいは新しい施設にかえて、そうして不自由ながらも楽しい毎日を過ごせるようにすべきであると私は考えるわけでありますが、この点についての市長のお考えをお伺いしたいと思います。

次に、十八才以上になりますと、そういう施設のところへは入れないように聞いております。いろいろ話を聞きますと、全国数カ所によって十八才以上そのように困った人が入るようなところもできておると聞いております。このような施設も、現在一、二私も相談を受けたことがあります。実際いままでも十八才まではお世話になったけれども十八才過ぎたらうちへ帰ってきて、もう自分が働きに行きたいけれども、その子供がいるからいけないというような状況も起きてきております。また、このことについて三重県のそれぞれの関係の方々が、国立のものを作っていき

いというようなことで、いま運動をやっているそうであります。

こういう点に合せて、わが四日市においてこのような困った方々の施設を作る考えはあるかないか、その点についてさらにお答え願いたい、このように思います。

次に、先ほどの質問に答えられなかったわけですが、母子寮あるいは引揚寮のことでもありますけれども、直接四日市市が管理していないとしても、一応住んでいる人たちが市民税を納めている人が相当おります。こういう観点から、皆さまも御承知のようにあの様な貧しいというか、もう強い雨がふれば相当の、場所によって雨漏りをしておる。あるいは風が吹けば相当寒いという様なところに入っておるわけでありまして、いろいろと指導はされて、自立できるようには指導されておると聞いておりますけれども、現実の問題としてなかなか大変であります。こういう観点に立って、また母子福祉法や二条、あるいは三条、あるいは憲法の二十五条等に考えてみましても、わが四日市の住民であるならば、市民であるならばなんらかの方法をもって低家賃の住宅を建てて、現在の母子寮あるいは引揚寮というものをこわしていくと、そして本当に暮んで毎日の生活がおくれるように配慮すべきであると、このように考えたわけでありまして、それらの点についてお答え願いたいと思います。

〔商工課長（小西忠臣君）登壇〕

○商工課長（小西忠臣君） 万古に対して資金援助の面を九月にみるというたが、九月にみていないことは残酷ではないかというようなお説でございますが、その当時は九月をめどに考えておりましたけれども、国・県の査定が遅れてまいりまして、九月に入つてようやく査定の段階に入っておる、こういうことでございます。このことについては業者のほうも承知をしております。

それで、問題はこの残融資でございますが、業者といたしましては、いわゆる商工組合中央金庫等いろいろな中小

企業を対象とする融資の方法があるわけでございますが、通産省あるいは中小企業庁あたり申請されておる中で、その残融資については、商工組合中央金庫等でもみようにやないかということをおるわけでございます。

それで、その残融資を商工組合中央金庫でどのようにみるかということがまだわかっておらぬわけでございまして、そういういろいろな問題等を考え合せまして、これから市としての考え方をきめていきたいと、こういうことでございますので、よろしく御了承願います。

〔厚生部長（平井清三君）登壇〕

○厚生部長（平井清三君） 母子寮と引揚寮のことについて申し上げます。

母子寮につきましては、先ほどおっしゃられましたように、社会福祉法人の四日市厚生会の所管でございます。古い建物に六十室と、家賃を新築しました新しい建物に二十室合計八十室の収容力を持っております。

現在、ここに収容されております世帯は、五十二世帯でございます。そのうちの半数二十六世帯が生活保護家庭でございます。この生活保護を受けておられない方々につきましては、こんご母子アパートとか、また公営住宅法によります母子向き住宅とか、こういった方向で考えていきたいと思っております。

それから、引揚寮につきましては、市営でございます。現在九十室ございます。このうち五十三世帯入居いたしておりますが、古い建物でございますので、こんごは不良住宅改良法とか、また公営住宅法の低家賃住宅、こういった方向で考えていきたい、このように考えております。

〔助役（二宮力君）登壇〕

○助役（二宮力君） 精薄児施設、身体障害者施設につきまして、厚生部長の答弁の中で申しましたことは、現在、精薄児施設としてあるもの、並びにムニ神父さんあたりの企画にあるものを述べ、かつ身体障害児のために最近訓練

室を作った点を御説明しまして、それ以外につきましては、現在のところ考えていないという意味であったのでありまして、とくに残酷な答弁であったというようにお感じいただきましたのは、申し方が足らなかつたものだと思はれます。

ところで、国の進路が社会福祉を実現するにありますので、これらの福祉を少しでも進めることは、われわれの市政の上における目標でなければならぬと思います。そういう点におきまして、福祉計画をここに立てまして、それらの計画を順を追うて実現するように進めることが最も適当であろうという考え方から、いまそれを検討しております。その一つとしましては、福祉センターの考え方、これは泊山方面に場所を考えております。並びに、それに続くところの福祉計画としまして、年次の計画をもって財政の許すかぎりその方向に進んでいきたい、こういうふうな行き方をするのが最も賢明であると信じておる点を御承知願いたいと思います。

「大島武雄君登壇」

○大島武雄君 先ほど商工課長からいろいろお話がありまして、了解したわけであります。

十八才以上の方のことについて、御答弁がなかつたように思いますが、まことに大ぜいの人が四日市市内においても不自田しております。こういうことについて、市当局だけでできないというふうな考え方でありましかれども、現在、三重県のような関係の方々が、政府に要望しようという運動を起こしておるときであります。どうかこのときに、便乗というか、あるいは願えば市単独でも、このようにお願いしたいわけでありましかれどもそれはいまのお話から不可能であります。いずれにいたしましても、わが四日市にそういうものを建設してもらつて、そうして福祉事業の大きな、あるいはそういう身体障害者等の方々が、そこから力強く生活できて、そうして喜びを感じて毎日過せるというようなことをさらにお願いするわけでありますが、時間も超過しておりますので、この

辺で終りたいと思いますけれども、先ほど部長のほうからただ考えておくというようなことばがあつたわけでありますが、いつもそのような抽象的なことばでごまかされるとか、そういうようなことになっておりますが、いづころからそれを考えて、だいたいいつごろまでに案を作りたいとか、そういう具体性のない答弁が今日まで相次いでおるわけでありま。そういう点について、さらにまあこれから考え方と申しますか、まことに失礼であります。私たちがもたないというふうな聞かれても、それは考えておく程度の返事しかできませんので、もっと確信ある、あるいは具体性のある返事もいただかないと、市民に聞かれても返事することができないわけでありま。そういう点から、これからの返事については、ひとつ確信ある、あるいは具体性のある発言をしていただきたい、このようなことを強く要望いたしまして、私の質問を終わります。

○議長（錦安吉吉） 以上で一般質問は、全部終了いたしました。

○議長（錦安吉吉） 次に、日程第二、議案第百十七号昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（第三号）を議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

御質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結いたしまして、議案第百十七号を関係常任委員会に付託いたします。各常任委員会の担当部門は、付託議案一覽表によつて御了承願います。

○議長（錦安吉吉） 次に、日程第三、議案第百十八号昭和三十九年度四日市市印刷所特別会計補正予算（第一号）

ないし日程第六、議案第二百二十一号昭和三十九年度四日市市市立四日市病院事業会計一回補正予算の四議案を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）
質疑なしと認めます。これをもって質疑を終結いたします。

議案第二百十八号ないし議案第二百二十一号を関係常任委員会に付託いたします。
各常任委員の担当部門は、付託議案一覧表によって御了承願います。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第七、議案第二百二十二号昭和三十九年度四日市市水道事業会計一回補正予算を議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。

御質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）御質疑はありませんので、議案第二百二十二号を建設委員会に付託いたします。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第八、議案第二百二十三号昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定についてを議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。（「議長」と呼ぶ者あり）

水田議員。

○水田利一郎君 ——（聞きにくい）一度に御提出願うように……。

○議長（錦安吉君） 御登壇願います。ちよつと聞こえませんか。

○水田利一郎君 それならやめます。（笑声）

○議長（錦安吉君） 他に御質疑はございませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）
質疑がございませんので、議案第二百二十三号を建設委員会に付託いたします。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第九、議案第二百二十四号市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について、ないし日程第十六、議案第二百三十一号孤野伝染病隔離病舎組合規約の変更についての八議案を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。（「質疑なし」と呼ぶ者あり）

御質疑もないようでございますので、議案第二百二十四号ないし議案第二百三十一号を関係常任委員会に付託いたします。

各常任委員会の担当部門は、付託議案一覧表によって御了承願います。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第十七、議案第二百三十二号四日市市第一期公共下水道事業会計の変更について、及び日程第十八、議案第二百三十三号簡易水道建設事業についての二議案を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。（「質疑なし」と呼ぶ者あり）

御質疑がございませんので、議案第二百三十二号及び議案第二百三十三号を建設委員会に付託いたします。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第十九、議案第百三十四号工事請負契約の締結について、ないし日程第二十二、議案第百三十七号市道路線の一部廃止についての四議案を一括議題といたします。

御質疑がありましたら、御発言願います。（「議長」と呼ぶ者あり）

加藤議員。

〔加藤定男君登壇〕

○加藤定男君 ただいま上程されました議案第百三十四号について、工事請負契約の締結についての御質問をいたします。

過日、この契約についていろいろと問題を耳にするわけでございますが、一たん理事者において申請かつ業者の実態を把握して、指名をして入札寸前において建設業界から異議が出て、地元業者育成の見地から指名の変更を申し出られたということを承っております。

これについて理事者の、契約についての実態を御説明を願いたい。それによって、また再質問させていただきます。

〔調達契約課長（小林清君）登壇〕

○調達契約課長（小林清君） お答えいたします。

本工事の指名につきまして、業者のほうへ指名通知を出しましたが、建設協会から市の中小企業育成の見地から市内の業者をもっとふやしてほしいという御要望があったのでございます。

それにつきましては、市内の業者は三社を予定して通知をしたのでございますが、もう二社追加することにして市内の五社になったのでございます。なお、市内の大手業者は九社が入っておりますので、市内の業者の数をふやしてほしいという要望に先の趣旨から二社選定のうへ、追加指名をいたしたわけでございます。

〔加藤定男君登壇〕

○加藤定男君 ただいま契約課長から御説明がありました、私は市長の市政方針の中に、地元業者育成という、中小企業、零細企業の育成ということがいつも市長の市政方針にうたわれておるわけでございます。

それにかかわらず今回の入札は、地元中小零細企業をたった三軒しか指名に入れなくて、終戦以来、四日市の各工事関係は、全部地元ゆだねてやっていただいていたことは、これ私、過言ではないと思います。いずれの、九社の指名の方々は、四日市のどれまで工事をやったかということを明らかにしていただきたいと思っています。

工事金額は、四千数百万円ではございますが、地元業者はさらに大きな事業も完遂し、市民の期待にこたえて今日まで努力をしてこられたことは申すまでもないと思います。それにかかわらず、今回は、地元を抜いて、終戦以来なんら貢献もない大企業九社を指名したその原因たるやは、市長の市政方針とは相反することはあるのでございます。ただし、私は、いったん指名されたものをまた取り消されて、追加の指名をした。このこと自体は、こんごかかることは、四日市の事業推進に対して大きな問題であり、また権威を失する問題であると私は思うわけでございます。なせきめたら、それで遂行しないか。やるまでに、なせいままでの過去の実績、過去の努力を認めてやらないかというところに、大きな疑惑を持つひとりでございます。いわれたから指名、また追加をする、また取り消す、それが地方自治体の行政であっては、私はならないと思うんです。や一回に指名したなら、あくまでもそれを遂行し、その次に考え合せて地元育成に万全を期せられるのが正しい行き方ではないかと思うわけでございます。

いま、指名審査会というものができて、やはり厳格なる格差をつけて審議をされましたのは、正しいに違いないと思いますが、ただいま申しましたとおり指名された九社が大企業であろうとも、四日市のこの発展度合いに合せた努力をなにしてくれたか。何回指名しても、なに一つやってくれたことのない業者を、さらに再度こういうような指

名をたびたびしなければならぬのか、その点は私、疑問を持つひとりでございます。

だから、こんどこういうような工事指名を申請なされきめられたら、絶対にそれを遂行していただく。それまでにいろいろの角座から考えられて、申請なら申請のもとに指名されたんなら、中間においていかなる問題が起ころうとも、理事者はそれを遂行するのが四日市の行政の権威もかかる問題であるので、私も長い間土建をしておりますが過去においてこのような問題はあまり遭遇をいたしません、地元の業者の育成という市長のあたたい気持ちからそういうような処置を収められたかは存じませんが、やはり地方自治体というのは、いまだに厳格であり、また、極性があり、あらゆる角度から考え合せて、なすかぎりいろいろその点を、お考えを、とくに私は要望するわけでございます。

こんごかかるような、あとで人に文句をいわれたら指名を変更するような権威のないことはぜひともやめていただきたいことを、地土から市長初め担当理事者の方々にお願いをいたします。

また、この実態は委員会に付託されますので、その場で詳しいいままでの実態を十分に把握して、委員長より御報告をしていただく考えでございますので、どうかこういうことのないように、地元業者育成をさらに深めていただくことを要望いたしまして、私の質問は終了します。

○議長（鋪安吉君）　はかに御質疑はありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

他に質疑なしと認めます。よって、議案第百三十四号ないし議案第百三十七号を総務委員会に付託いたします。

付託議案一覧表（昭和三十九年九月定例会）

◎総務委員会

議案第百一十七号　昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（第百三十三号）中

第百一十号　収入歳出予算中

歳入金般

歳出第百二款　総務費

第百九款　消防費

第百二条及び第百三十三号

議案第百一十八号　昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正予算（第百一十号）

議案第百一二十四号　市の区域内にあつた土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について

議案第百一二十五号　四日市市役所出張所設置条例の一部改正について

議案第百一二十六号　四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

議案第百一二十七号　四日市市用品購入基金条例の制定について

議案第百一二十八号　消防本部及び消防若の設備等に関する条例の制定について

議案第百一二十九号　四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について

議案第百一三十四号　工事請負契約の締結について

議案第百一三五号　市道路線認定について

議案第百一三六号　市道路線廃止について

議案第百一三七号　市道路線の一部廃止について

◎教育民生委員会

オ一一七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（オ三号）中
歳出オ 三款 民生費

オ 四款 衛生費

オ 五款 労働費、オ二項労働諸費

オ一〇款 教育費

議案オ一二一号 昭和三十九年度四日市市立四日市病院事業会計オ一回補正予算

議案オ一三一号 四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について

議案オ一三〇号 蕨野伝染病隔離病舎組合規約の変更について

◎産業経済委員会

議案オ一一七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（オ三号）中

歳出オ 六款、農林水産業費

オ 七款 商工費

オ 一一款 災害復旧費中、オ一項農林水産施設災害復旧費

議案オ一一九号 昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算（オ一号）

◎建設委員会

議案オ一一七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（オ三号）中

歳出オ 八款 土木費

オ 一一款 災害復旧費中、オ二項土木施設災害復旧費

議案オ一二〇号 昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（オ一号）

議案オ一二二号 昭和三十九年度四日市市水道事業会計オ一回補正予算

議案オ一二三号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について

議案オ一三二号 四日市市オ一期公共下水道事業計画の変更について

議案オ一三三号 簡易水道建設事業について

○議長（錦安吉君） 次に、本日までに受理いたしました請願及び陳情は、お手元に配布の文書表のとおりであります。それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次会は、米る十月五日午前十時に会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後四時五十七分散会

昭和三十九年十月五日

四日市市議会定例会会議録（第四号）

四日市市議会

昭和三十一年四月四日市市議會議事速記録 第四号

○昭和三十一年十月五日（月曜）午前十時四分開議

○出席議員（三十二名）

坂	宮	鈴	伊	志	前	喜	岩	坪	安	藤	錦	北	酒	米
上	崎	木	藤	根	川	野	田	井	垣	谷		村	井	出
長	春	愛	太	政	辰	久	妙	佑	安	与	呂		好	
十	郎	吉	次	郎	一	男	等	雄	子	勇	一	吉	市	一
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	兼
														速
														記

○欠席議員(五名)

○議案説明のため出席した者(四十六名)

市	助	助	収	総	税	遊	厚	衛
長	役	役	入	務	務	策	生	生
長	役	役	長	長	長	長	長	長
平	二	庄	川	君	國	芝	平	中
出	宮	司	崎	野	浦	田	井	山
佐	良	祐	見	和	敬	消	英	
矩	一	男	齊	巳	三	郎	郎	
君	君	君	君	君	君	君	君	君

田	中	日	須	大
村	島	比	森	島
末	忠	義	総	武
松	勝	平	太	雄
君	君	君	君	君

野	荒	矢	伊	前	加	山	高	笠	服	橋	永	谷	訓	味	山	増	渡
崎	木	田	藤	川	藤	中	橋	田	部	詰	田	口	霸	岡	本	山	部
貞	武	繁	泰	宗	定	忠	伊	七	昌	興	利	專	也	一	榮	英	樞
芳	治	郎	一	雄	男	一	祐	衛	弘	隆	一郎	九	男	郎	一	一	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

教育委員	杉浦四太郎
教 育 長	菅 本 一 郎
管 理 課 長	小 林 義 喜 君
學校教育課長	水 原 義 壽 君
保健体育課長	館 義 夫 君

市立病院事務長	三 輪 昌 代 司 君
副事務長	数 山 裕 君

消防長	竹 内 鉄 雄 君
消防次長	金 田 妙 弘 君
總務課長	大 倉 尚 明 君

土木課長	杉 本 義 広 君
下水道課長	天 野 助 春 君
調達契約課長	小 林 潤 君

土木部長	城 井 義 夫 君
建設課長	鬼 頭 鉄 次 郎 君
副収入役	村 木 喜 代 君
秘書課長	阿 南 輝 彦 君
人事課長	佐々木 晃 精 君
企画開発課長	六 田 猶 裕 君
總務課長	天 野 正 春 君
財務課長	伊 藤 涼 一 君
管財課長	杉 本 治 芳 君
市民課長	喜 田 喜 重 郎 君
稅務課長	小 林 治 正 君
資産稅課長	伊 藤 治 郎 君
商工課長	小 西 思 臣 君
農林課長	鷺 野 正 和 君
耕地課長	奥 村 仁 人 君
民生課長	村 山 了 君
青少年課長	国 保 義 一 君
消防第一課長	荒 木 三 郎 君

○市議会议務局(四名)

技 術 部 長	山 本 文 雄
総 務 課 長	滝 本 文 雄
業 務 課 長	岡 本 林 衛
工 務 課 長	加 藤 弘 君
拓 張 課 長	美 濃 部 博 美 君
事 務 局 長	菊 地 英 也 君
議 事 係 長	小 坂 靖 君
主 事	佐 藤 正 俊 君
事 務 試 補	芳 野 孝 君

○議事日程 才四号

昭和三十九年十月五日(月) 午前十時開議

- 才一 議案才一一七号 昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算
(才三号) 委員長報告：質疑、討論、議決
- 才二 議案才一一八号 昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正
予算(才一号) " " " " " "

- 才三 議案才一一九号 昭和三十九年度四日市市と沼場食肉市場特別会計補正予算(才一号) 委員長報告：質疑、討論、議決
- 才四 議案才一二〇号 昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(才一号) " " " " " "
- 才五 議案才一二一号 昭和三十九年度四日市市立四日市病院事業会計才一回補正予算 " " " " " "
- 才六 議案才一二二号 昭和三十九年度四日市市水道事業会計才一回補正予算 " " " " " "
- 才七 議案才一二三号 昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について " " " " " 認定
- 才八 議案才一二四号 市の区域内にあつたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について " " " " " 議決
- 才九 議案才一二五号 四日市市役所出張所施設条例の一部改正について " " " " " "
- 才一〇 議案才一二六号 四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に關する条例の一部改正について " " " " " "
- 才一一 議案才一二七号 四日市市用品購入基金条例の制定について " " " " " "
- 才一二 議案才一二八号 消防本部及び消防署の設置等に關する条例の制定 " " " " " "

才一三	議案才一二九号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について……………	委員報告…質疑、討論、議決
才一四	議案才一三〇号	四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について……………	〃
才一五	議案才一三一号	飯野伝染病隔離病舎組合規約の変更について……………	〃
才一六	議案才一三二号	四日市市才一期公共下水道事業計画の変更について……………	〃
才一七	議案才一三三号	簡易水道建設事業について……………	〃
才一八	議案才一三四号	工事請負契約の締結について……………	〃
才一九	議案才一三五号	市道路線認定について……………	〃
才二〇	議案才一三六号	市道路線廃止について……………	〃
才二一	議案才一三七号	市道線の一部廃止について……………	〃
才二二	議案才一三八号	教育委員会委員の任命について……………	議案説明…、同意
才二三	委員会報告才六号	請願書等審査結果報告……………	採否決定
才二四	委員会報告才七号	請願書等審査結果報告……………	〃
才二五	委員会報告才八号	陳情書等審査結果報告……………	〃
才二六	委員会報告才九号	請願書等審査結果報告……………	〃

○本日の会議に付した事件

才一	議案才一二七号	昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算(才三号)
才二	議案才一二八号	昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正予算(才一号)
才三	議案才一二九号	昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算(才一号)
才四	議案才一二〇号	昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(才一号)
才五	議案才一二一号	昭和三十九年度四日市市立四日市病院事業会計一回補正予算
才六	議案才一二二号	昭和三十九年度四日市市水道事業会計一回補正予算
才七	議案才一二三号	昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定について
才八	議案才一二四号	市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について
才九	議案才一二五号	四日市市役所出張所設置条例の一部改正について
才一〇	議案才一二六号	四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
才一一	議案才一二七号	四日市市用品購入基金条例の制定について
才一二	議案才一二八号	消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定について
才一三	議案才一二九号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定について
才一四	議案才一三〇号	四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について
才一五	議案才一三一号	飯野伝染病隔離病舎組合規約の変更について
才一六	議案才一三二号	四日市市才一期公共下水道事業計画の変更について

才一七 議案才一三三三 簡易水道建設事業について
才一八 議案才一三四四 工事請負契約の締結について
才一九 議案才一三五五 市道路線認定について
才二〇 議案才一三六六 市道路線廃止について
才二一 議案才一三七七 市道路線の一部廃止について
才二二 議案才一三八八 教育委員会委員の任命について
才二三 委員会報告才六号 請願書等審査結果報告
才二四 委員会報告才七号 請願書等審査結果報告
才二五 委員会報告才八号 陳情書審査結果報告
才二六 委員会報告才九号 請願書等審査結果報告

○議長（錦安吉彦） ただいまから本日の会議を開きます。

本日の出席議員数は、二十九名であります。

本日の議事につきましては、議事日程才四号により取り進めたいと思っておりますからよろしくお願いいたします。
議事説明者中、衛生課長、都市計画課長は病氣のため欠席いたしましたから御了承願います。

○議長（錦安吉彦） それでは日程才一、議案才百十七号昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（才三号）を議題といたします。

本件に関する各委員長の報告を求めます。

まず建設委員長にお願いいたします。

藤谷議員。

〔建設委員長（藤谷祐一君）登壇〕

○建設委員長（藤谷祐一君） 建設委員会に付託になりました議案才百十七号四日市市一般会計補正予算（才三号）中関係部分について、その審査の結果を御報告いたします。

本委員会におきましては、慎重に審査を重ねいずれも妥当なものと認めて原案どおり承認いたしましたのでありますが、以下その経過と要望のありました点について申し上げます。

まず、才八款土木費の道路橋梁費におきましては、市民からの強い増額要望にかかわらず現今の財政事情では十分なことは望めないのではやむをえぬものとしても、道路舗装面において計上された予算は、地区の要望にこたえる埋没者の熱感がうかがわれるのでありまして、こんごともなお一層の御配慮を願うと同時に、舗装工事については、時期を失することなく早急に着工して市民の要望に応えられ、より効果の上るようにされたいのであります。

都市計画費におきましては、とくに都市緑化について、防災、公習等を配慮した基本計画を樹立し、これを基盤として、逐次緑化運動を盛り上げるように方向づけ努力に推進をはかられたい。

また、都市下水路費につきましては、市内各所に点在する排水施設の不備な箇所については、財政等勘案の上、可及的速やかに根本的かつ適切な措置を講じていただきたいのであります。

以上の点について強く理事者に要望いたしました次才でございます。

住宅費及び才十一款才二項の土木施設費増収出費につきましては、別枚異議がなかったのであります。

以上をもちまして建設委員会の審査結果の御報告といたします。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 次に、産業経済委員長にお願いいたします。

〔産業経済委員長（伊藤泰一君）登壇〕

○産業経済委員長（伊藤泰一君） 産業経済委員会に付託になりました補正予算中の関係部分について、当委員会における審査の経過と結果について御報告申し上げます。

まず、才六款農林水産業費について申し上げます。

才一項農業費中農業委員会費につきましては、昭和三十六年より設置された農業労働力調整協議会委員、調査員並びに毎年行なわれます農家台帳補正調査員の報償金等で、いずれも二分の一の県補助金が歳入に計上されているのであります。

農業振興費に計上されました事業費は、内部地区における土壌病害防除事業費並びに紅茶工場経営合理化事業費が主なもので、病害虫防除事業については、歳入に県補助金が計上されており、紅茶工場経営合理化事業については、別途、県より補助金が支出されることになっているのであります。

農業構造改善事業費につきましては、本事業最終年度の事業費であり土地基盤整備事業としては、水沢野田地区における土地区画整理事業及び堂ヶ山地区における農道整備を実施するもので、これに付帯した用地買収費、作物補償費も含まれており、農業経営近代化施設事業としては、水沢野田地区に酪農を主体とした施設事業、和無田、内山、堂ヶ山地区に病害虫防除機具の導入、堂ヶ山地区に農機具格納庫建設事業費が追加されたものであり、三重県農業構造改善協議会負担金の減額につきましては、農業構造改善事業を計画実施する市町村が増加したため当初の負担

金三万四千二百三十円の減額をみたものであります。

なお、土地基盤事業に対しては県費七〇％、地元負担金一五％、近代化施設事業に対しては五〇％の県補助金が歳入に計上されております。

農業構造改善事業については、事業の実施が特定地域に偏しているが、他の地域における計画について、また事業の投資効果についてそれぞれ理事者の考え方をたざしたところ、「農業構造改善事業は、計画時において基幹作目として取り上げるにあたり、従来の実績に基づき国の指定がなされたため、緑茶と酪農についての事業を実施することになり、南部地区に偏したもので、他の地域については市単事業として主産地育成計画を樹立し実施しており、これからも農業振興の見地からこれが助成についても種々検討の上推進をはかる計画である。また各種事業についてもその事業効果を十分確認の上、こんごの施策に反映してゆきたい」という理事者の説明を了とし、農業費につきましては原案どおり承認したのであります。

次に、才二項畜産費において追加計上されております八十九万二千円は、特別会計と畜場貸付市場会計に対する繰出金でありまして別段異議はありませんでした。

次に、才三項農地費中土地改良費につきましては、市営土地改良事業として明水路工事の補助事業費決定による事業費の追加であり、また、非補助受託工事として六呂見地区における排水路工事費で市営土地改良事業に対しては県費四〇％、地元負担金三〇％非補助受託工事に対しては、受託金が全額歳入に計上されているのであります。

農地防災費の追加は、六月の早ばつ時に施工されました対策応急工事業中、国の補助対象外の小工事に要した材料支給費を負担するもので農地費につきましても、これまた別段異議なく原案を承認いたしました。

次に、才十一款災害復旧費中農業用施設災害復旧費については、昭和三十六年集中豪雨による災害復旧費地元立替

金に対する賠償金であり、本年度をもちまして過年度災害立替金の償還は全部終了するもので異議なく原案どおり承認いたしました。

才七款商工費につきましては、このたび林純之介氏より寄贈を受けました古万古の陳列ケース作製費であり、一陳列場所として商工会議所講堂サロンを予定している」という理事者の説明を得たのでありますが、陳列場所を市庁舎外に決定した理由、さらに将来危懼される品物の所有権等についてなされましたところ、この古万古は、まことにえがたい品物で、市庁舎の現状から見て管理上万全を期しがいこと、また商工会議所に維持管理を依頼するにあたっては市、商工会議所両者間で契約書を取り交わし慎重な態度で臨みたいという理事者の説明を了とし、あくまで暫定的な措置とし早急に恒久的な陳列場所を確定するよう強く要望して原案を承認したのであります。

以上をもちまして当委員会の審査結果の御報告をおわります。

よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（柳安吉君） 次に、教育民生委員長にお願いたします。

坂上謹同。

〔教育民生委員長（坂上長十郎君）登壇〕

○教育民生委員長（坂上長十郎君） 教育民生委員会に付託されました議案才百十七号中、関係部分について、本委員会は去る九月二十八日慎重なる審査を行なったのでありますが、その経過と結果について御報告申し上げます。

才三款民生費の老人福祉施設費においては、浴場改良工事に必要な経費が計上されているのでありまして、児童福祉費においては、ジュニアリーダー養成に関する事業費、その他養護施設費、乳児院においては、非常勤嘱託医師の報酬の増額及びテレビ等の備品購入のための経費が計上されているのでありまして、いずれも必要と認め原案を承

認いたしました。

次に、衛生費については従来県が主体となつて行なっていました生活保護家庭および低所得家庭の家族計画指導を、この市において実施することになり、その指導員に対する報償費と家族計画用医薬品等の購入費が計上されたのでありまして、別段異議なく承認いたしました。

清掃費における追加は、塵芥処理場のブルトーザーの借上料等の必要経費でありまして、これまた別段異議なく原案を承認したのでありますが、塵芥回収のあと始末等について横の連絡を密にし、市民に迷惑のかからないようにとくに配慮されるよう強く理事者に要請いたしました次才でございます。

才五款労働費につきましては、別段異議なく原案を承認いたしました。

次に、才十款教育費について御説明申し上げます。教育総務費においては退職者九名に対する退職手当が計上されたものであり、事務局費は松本市に教職員住宅を公立学校共済組合よりの、事業委託により市が建築を行うため、その関係分の土地購入費、工事請負費、委託料等でありまして、教職員住宅については入居者に対する管理運営等についていろいろ意見があり論議されたのでありますが、「市内公立学校教職員の住宅事情の緩和を目的としたものであり、教員の確保と住宅とが重要な関係にあるこの管理運営の問題については万全を期したい」という理事者の説明を了として本件を承認いたしました。

次に、教育振興費につきましては、メリーノール女子学院建設委員会負担金であり異議なく承認をいたしました。

小学校費は海蔵小学校および高花平小学校の建設費でありまして、海蔵小学校は明年度と二カ年で改築する計画が国庫補助金の決定により本年夏施行に切替えられたため、明年度の予定事業を繰り上げ計上されたものであり、また高花平小学校は児童数の増加により教室が不足する見通しが強く、来年度と二カ年にわたり施行されるものでその必要

を認め承認いたしました。

次は、中学校費であります。富田中学校の改築は国庫補助金の決定により単年度に切り替えられたため明年度の計画を本年度に繰り上げたものであり、また中部中学校の屋内体育館に対しても国庫補助金の割り当てがあり、計上されたものであります。ともに必要と認めて原案を承認いたしました。当委員会の長年の要望でありました学校建築が既決の四校に加え新しく中部中学校屋内体育館と高花平小学校管理棟の建築が実現されますことは関係理事者の御努力によるものと、市民とともに深く敬意を表するものであります。

次に、社会教育費においては、主として勤労青年学校、成人学校、同和教育及び婦人学級に対する補助決定により必要経費が追加されたものであり、商品購入費においては、入札の結果不用額が生じたことにより補正されたものであります。ともに妥当と認め原案を承認いたしました。保健体育費においては、去る八月熊野市にて開催されました県民体育大会への参加者の経費不足分と、オリンピック聖火リレーに係る諸経費が追加補正されているのであります。必要と認め承認いたしました。

以上をもちまして当委員会の審査結果の御報告をおわります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（柳安吉吉） 次に、総務委員長にお願いたします。

北村議員。

〔総務委員長（北村与市君）登壇〕

○総務委員長（北村与市君） 総務委員会に御付託になりました議案第百十七号、昭和三十九年度四日市市一般会計補正予算（第三号）中、関係部分に対する審査の経過と結果について御報告申し上げます。

当委員会は慎重に審査いたしました結果いずれもやむをえないものと認めて原案どおり承認いたしました。

以下その経過の概要と要領のありました諸点について申し上げます。

まず第一、繰入歳出予算中歳出から順を追って御説明いたします。

第一、二款総務費の補正は、都市親善使節団の旅費、自動車購入費等の追加と税務署施設建設に伴う工事費の精算による不用額の減額により差し引き四百二十四万五千円の減額となった一般管理費、退職手当を追加した人事管理費、旧税務署敷地購入にかかる差金及び用品購入基金への繰入金を追加した財産管理費及び各種負担金等が主なものであります。別改異議はなかったものであります。連絡員の報酬の増額につきまして、その昇進基礎や実施の時期等について質疑したところ「算出の基礎となるべきものはないが、過去二年間における職員給の上昇率、仕事量並びに経済事情の変動等を考慮した上で算出した、また実施の時期についてはできるだけ早い機会ということで十月より実施したい」という理事者の説明をえたのであります。こんごも不均衡の生じないよう充分に配慮されるようにと要望をいたしました。

公館費におきましては、会館の少ない本市の現状に対処するため、公会堂の施設整備に万全を期せられ、市民の利用度のより効率化に努められるよう要望をいたしました次第でございます。

また、交通安全のため国道一分線り街路灯の建設に対しての補助金は、徹底する交通事故に對してまことに時宜に適したものであるとしてその配慮に敬意を表するものであります。交通安全都市としての名に恥じないようさらに積極的に安全対策に取り組まれるよう強く要望いたしました。

徴税費、戸籍住民登録費、選挙費につきましては別改異議なく第一款消防費につきましては、出城所の消防署昇格に伴う必要経費が主なものであります。長年の複雑化に伴う人事管理の問題等について、さらに万全の措置を講じ

られるよう要望いたした次才でございます。

次に、歳入につきましては、歳出各款に関連した特定財源をはじめ繰越金をもって収支の均衡をはかられているのであります。とくに前年度繰越金の運用については、市財政調整基金条例の才五条才一号及び才三号の規定を適用されているのであります。が本市財政上まことにやむをえないものと考えられるのであります。

なお、昭和三十八年度決算につきましては、一億四千九百九十九万九千九百九十九円の実質剰余金となるようでありましたが、今回の補正によって残額は一千四百余万円になるといふ説明がありました。

なお、特定寄附金の使途につきましては、寄付者の善意に対して十分報いられるよう有効かつ適正な配慮をとくに強く要望いたしましたのであります。

次に、才二条及び才三条につきましては、いずれもやむをえないものと認め、関係部分を原案どおり承認いたしました次才でございます。

簡単ではありますが、以上をもちまして審査の報告といたします。
よろしく御審議の上御賛同のほどお願い申し上げます。

○議長（鎌安吉君） 以上で各委員長の報告は、終了いたしました。

各委員長は報告に対しまして御質疑がありましたら、御発言願います。（「議長」と呼ぶ者あり）

前川議員。

〔前川辰男君登壇〕

○前川辰男君 教育民生常任委員長にちよっとお伺いしたいんですが、と申しますのは、先ほど御審議願いました中で、教職員住宅の問題に触れられておったわけですが、

このうちの、いわゆる辺地における教職員住宅は別といたしまして、松本に作られる分についてお伺いしたいわけですが。と申しますのは、こういうふうな福利施設が充実されるということは大変けっこうなことなんですが、教職員に限らず、まず市の関係機関にもこのような形も考えられますし、またあるいは警察関係とか、これに関連した問題もたくさん出てまいっていると思います。このような福利施設が有効適切に効率的に利用されるとすれば、大変けっこうなことですし、こんごにも非常に大きなものを残していく関係上、この審査の内容についてももう少し詳しくお伺いできればと思います。以上。

〔教育民生委員長（坂上長十郎君）登壇〕

○教育民生委員長（坂上長十郎君） ただいま前川議員の質問の要旨を私が解釈しますと、公立学校の先正以外の方にもこの利用の面幅がないのかというように私は解釈したんですが、それに対してよろしいですか。（前川辰男君うなづく）

だから、今回の教職員の住宅は、説明にも申し上げましたように公立学校共済組合の融資によりましてやるのでございまして、委託事業のような形になるわけでありまして。そういう立場におきまして、教職員関係の方が入居することとを才一次として考えて埋当者はおるわけでございます。

それに対して、審議の過程において教職員以外の方、もし部屋が余ったら他の方にどうかというふうないろいろ御意見があったんでございますが、一応取組むを優先すると。将来、契機問題となったらならば、これが管理、運営についてよく検討していきたいと、こういうような理事者のお答えがあったんでございまして、そういう立場から承認したわけでございます。

だから、建設の資金のその目的がはっきりしておりますので、私どもは理事者の説明を了としたわけでございます。

から、どうぞ御承知を願いたい、こう思います。（「議長」と呼ぶ者あり）

○議長（綿安吉君） 鈴木議員。

〔鈴木愛次君登壇〕

○鈴木愛次君 建設委員長にお尋ねいたします。

才八款の土木費のうち、三目の道路新設改良費の中、道路局部改良工事負担費三百万円が計上されておりますが、道路の補修に關しましては、当初予算に三百万円が計上されましたが、これは五月下旬にすべて予算執行がなされまして、あと予算がないというような話を理事者側から承っておったのでございますが、今回、新たに理事者側の理解と建設委員各位の御配慮によって三百万円の予算が計上されましたが、この三百万円というものは暫定的な処置であつて、改めて不足すれば十二月に追加するか、あるいはこの三百万円で本年度の土木補修工事をなされるものか、その点について審議されたことがあれば、その審議内容について承りたいのと、それから次に、道路舗装新設工事請負費二千五百万円とありますが、この道路舗装新設という字が書いてありますが、すでに簡易舗装等におきまして相当痛んで、大きな穴があいて、夜間、自転車等で転倒するものがあつて非常に困つておる地域がありますが、そういう地域の舗装も、いわゆる補修ですね、それとも新設でなく、そういう補修等につきましてもこの予算においてなされるものかどうか、そういう点につきましても委員会で御質疑された点がありましたらお答えを願いたい、かように思います。

〔建設委員長（藤谷祐一君）登壇〕

○建設委員長（藤谷祐一君） ただいま鈴木議員の御質問にお答え申し上げます。

道路局部改良費は三百万円出ておりますが、これは道路の局部改良という一部を改良する予算でございまして、当

初に八百万円組まれておる予算であります。それをさらに三百万円の追加をされたのでありまして、説明によりまして本年は幸い非常に夏期の雨が少かったと。それで、相当心配しておつたが、そういう面で早く予算が消えるという心配もあったが、幸いそういう点であまり金がかからなかつたので、十分とはいへませんが、きょうまで維持してまいりましたと。将来これで、だいたいことしいばいは、今年度いっぱいはいけるだろうという予想をもっております。しかし、急変、どんな変動がくるかわかりませんので、そのときはまた別に變えていただきたいと思いますが、いましてそういう気持ちでありますという答弁でございました。

それから、ちよつと混同されがちなのですが、原材料費というところがございまして、原材料はとくに生榮、いまの尿施設の中へ原材料を入れて、それで道路補修とか局部、穴のあいたところを修繕する費用は原材料費で出るわけですが、これと局部改良とは違つております。

それから、千両百万円の道路舗装費ですが、これは簡易舗装の金でございまして、市民から要望のございます、たくさん出ておりますが、しかしとくに旧都市周辺の相当痛んでいるところ、またはどうしても必要などところを優先的に取り上げて、各計画表を土木でもつておりますが、そういう説明がございました。そういう箇所は十八箇所ございましたが、そういう説明でございまして、これと局部改良の分と補修とは違つております。これはあくまで新設改良ということでございます、そういう点がちよつと混同されがちなんですが、その他ははっきりしておると思います。詳しいことは、また土木のほうからお聞きしたいと思います。

○鈴木愛次君 この新設道路、舗装新設工事の二千五百万円うちに、既設の簡易舗装補修というものは、これに含まれておらぬか、理事者にお答え願います。

〔土木課長（杉本義広君）登壇〕

○土木課長(杉本義広君) お答えします。

舗装の新設改良費の二千五百万円のうちに、補修費が含まれているかいないかでございますが、当初予算にも二千万円いただいております、そのうちの約六百万円の補修費をみておるのでございます。今回も約五百万円くらいは補修費に充当したいという考え方を持っとるわけなのでございます。

補修といいますが、われわれの申し上げます補修は、いわゆる道路の再舗装、オールカバーでございます、点々の補修につきましては、野田の作業所で一貫してやるようにしております。

以上でございます。(鈴木愛次君「了解」と呼ぶ)

○議長(錦安吉君) ほかに御質疑はありますか。

これをもって質疑を――。(「議長」と呼ぶ者あり)

山中議員。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 産業経済委員長に簡単なことでございますが、一言お尋ねしてみたいと思います。

これは、市長の渡米の際に非常にまあ米国に行ってお骨折りが頗い、知事もお骨折りが頗って、伊勢肉の指定済として四日市港を指定されたというので、相当な伊勢肉を売り出せるだろうという予定のもとにこんどの屠畜場の冷蔵庫と申しますか、格納庫と申しますか改良の費用だと思いますが、すでに決ってから半年近くなると思いますが、その後の四日市港から出て行く肉の経緯と申しますか、相当上昇しておるのかいないのかと。こんごの見通しというようにものはどのようになっておるだろうという一点を、一つわかったなればお伺いしたいと。

又二点には、教育民生委員長にお尋ねしてみたい。

これも教育民生委員のお骨折りやら理事者のお骨折りで、国庫が単年度にすることに決ったので、四十年度のやつ

を繰り上げて、今年、二校だけ建築を進めたいと、まことに私はありがたいことだと思いますが、そうしますと教育十カ年計画に沿いましてどんどん進めていただいておりますが、米年度の建築は、どのように考えられておるんだろうと。一年休みになるのか、それともよけい本年いただいたんだから、米年度の事業としては計画をもっていくんだというようになことを議せられたか、その辺理事者とお話になったかということでございますが、以上の二点をお尋ねしてみたいと思います。

〔産業経済委員長(伊藤泰一君)登壇しようとする〕

○議長(錦安吉君) 発言を求めているのだと思いますが。(「議長」と呼ぶ者あり)

伊藤議員。

〔産業経済委員長(伊藤泰一君)登壇〕

○産業経済委員長(伊藤泰一君) ただいま山中議員の御質問に対してお答えしますが、このと畜場の冷蔵庫とそれから汚水場の設置、いろいろ分庫庫の設置とかという問題は、だいたいこのお金は起債によってやるということで、理事者の説明だけをだいたいちょっと聞きましたのです。

そこで、アメリカとの、対米輸出の肉につきましては、詳しいことはまだ決っておらぬ。ただ日本肉として百四十キロくらいはアメリカのはうに送られたという説明だけをお聞きしただけで、それ以上のことはあまり詳しいことはわかりませんので、その後のアメリカに対する肉を送っての経過というようなことは、まだはっきり聞いておりませんです。

アメリカ肉の輸出制限とかというのは、オーストラリアかあの方面をさして、日本の肉については、こんご日本よ

り取り入れる、商売を、貿易をするというような説明があっただけで、そういう点の問題だけをお聞きして了承したわけでございます。

○議長（綿安吉君）　ちよっとお待ちください。産業部長からかわって答弁せまじょうか。（産業経済委員長「はい」と呼ぶ）

農林課長。

〔農林課長（箕野正和君）登壇〕

○農林課長（箕野正和君）　ただいまの山中議員の御質問にお答えいたします。

対米輸出の問題でございますけれども、本年の三月の十七日に見本といたしまして百七十キログラム、これをロスアンゼルスに送っております。

それから、六月にアメリカの日本大使館に對しましてロース十キログラム、それから同月にニューヨークで世界博覧会が開かれておりますが、これに對しましてロースやはり五十キロ、このロース、配分肉として送っております。

それから、現在アメリカの商社のはうから日本の牛肉に對する引き合いがきておりますが、まだ曲格、それから輸送という点につきましていろいろ問題がございますので、現在、その後は進展いたしております。

それで、そういう点につきまして、こちらでもよく検討を加えまして、輸出がこんご増大するように研究中でございます。

以上でございます。

〔教育民生委員長（坂上長十郎君）登壇〕

○教育民生委員長（坂上長十郎君）　お答え申し上げます。

先ほどの説明の中に申し上げましたように、海蔵小学校、富田中学校が来年度の事業を繰り上げて事業ができるようになったことは理事者の国庫補助金をうるために大いに努力された場もので、われわれ委員会として喜んでいるのでございます。

これがために十カ年計画が延長されるかどうか、そういうことを討議されたかということでございますが、私どもはこれはもう討議の必要はないと思ひまして、討議いたしております。私どもは、市の財政のゆるす限り十九年計画の遂行を期しておるのでございますから、御了承を願ひたいし、また議員各位の格別な御協力を私は願ひたいと、こう思っておりますのでございます。（山中忠一君「了承」と呼ぶ）

○議長（綿安吉君）　ほかに質疑はありませんか。

これをもって質疑を終結いたします。

おはかりいたします。本件は、討論を省略し議案の採決を行ないたいと思ひますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（綿安吉君）　それでは、議案の採決を行ないます。

議案才百十七号は、谷委員長長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（綿安吉君）　御異議なしと認めます。よつて、議案才百十七号昭和二十九年四月市市一般会計補正予算（才三号）は、原案のとおり可決されました。

○議長（綿安吉君）　次に、日程才二、議案才百十八号昭和二十九年四月市市立印刷所特別会計補正予算（才一号）

ないし日程才五、議案才百二十一号昭和三十九年度四日市市立四日市病院事業会計才一回補正予算の四議案を一括議題といたします。

本件に対する各委員長の報告を求めます。
まず、総務委員長にお願いたします。

北村議員。

〔総務委員長（北村与市君）登壇〕

○総務委員長（北村与市君） 総務委員会に御付託になりました議案才百十八号について、審査の結果を御報告いたします。

議案才百十八号四日市市立印刷所特別会計補正予算につきましては、印刷機の買いかえによって不足を生じた臨時備入料を補正しようとするものであり、財源としては繰越金をもって収支の均衡を図られているのでありまして別段異議なく原案どおり承認いたしました。

なにとぞよろしく御審議くださるようお願い申し上げます。

○議長（菊安吉君） 次に、産業経済委員長にお願いたします。
伊藤議員。

〔産業経済委員長（伊藤泰一君）登壇〕

○産業経済委員長（伊藤泰一君） 産業経済委員会に付託になりました議案才百十九号昭和三十九年度四日市市と畜場食肉市場特別会計補正予算について、審査の結果を御報告申し上げます。

まず、才一条歳入歳出予算の補正について申し上げます。

歳入において、今回追加計上されました千二百二十八千円は本市の畜場食肉市場が昭和三十八年十二月対米輸出と畜場の指定を受けて以来計画しておりました冷蔵庫の増設、ボイラー設備汚水固形物分離装置設置等の設備工事費であります。

歳入においては、この財源といたしましてこのたび決定いたしました起債千二百万円と先程、御審議いただきました一般会計農林水産業費増築費からの繰入金八十九万二千円及び一般会計前年度繰越金二十三万六千円、計千二百二十八千円をこれにあて収支の均衡がはかれたのであります。

次に、才二条地方債補正については別段異議はなかったのであります。

対米輸出については、「全国にさきがけ牛肉見本を米国ロスアンゼルス市並びにニューヨーク世界博等に四回にわたり輸出し目下価格増進等引合中でありますが、こんごは部分肉としての輸出が期待される」との理事者の説明があり、本議案につきましては原案どおり承認いたしました。

なにとぞよろしく御審議くださるようお願い申し上げます。

○議長（菊安吉君） 次に、建設委員長にお願いたします。

藤谷議員。

〔建設委員長（藤谷祐一君）登壇〕

○建設委員長（藤谷祐一君） 建設委員会に付託になりました議案才百二十号、昭和三十九年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（才一号）に対する審査結果について御報告いたします。

今回の追加補正は才一期計画区域内の管渠工事及び日水処理場築造工事に対する国庫補助決定による事業費の追加でありまして、細部にわたり慎重に審議をいたしたのでありますが別段異議なく、原案どおり承認いたしましたのであり

ます。

なお、本事業は市民直結の問題であり、こんこの工事進捗に一層配慮され一日も早く市民に喜ばれるようとくに要望をいたした次第であります。

どうかよろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 次に、教育民生委員長にお願いたします。

坂上議員。

〔教育民生委員長（坂上長十郎君）登壇〕

○教育民生委員長（坂上長十郎君） 教育民生委員会に付託になりました議案第百二十一号昭和三十九年度四日市市立病院事業会計第一回補正予算について、審査の結果を御報告申し上げます。

資本的支出の主な内容は、現在の薬局の拡張改造費とそれに伴う備品類の整備費及び現在使用している兼用自動車を緊急患者輸送車に改装し、別途乗用車一台を購入するための経費並びに看護婦養成所に対する国・県の補助金の設定に伴い人体模型等教材用品を購入するための補正予算でありまして、やむをえないものと認めて原案を承認しました。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 約十分間の休憩をいたします。

午前十一時休憩

午前十一時三十分再開

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

各委員長の報告に対しまして御質疑がありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）

御質疑がありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）質疑なしと認めます。

おはかりいたします。これら四件は、討論を省略し議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） それでは議案の採決を行います。

議案第百十八号ないし議案第百二十一号の四議案を一括採決いたします。

これら四議案は、各委員長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百十八号昭和三十九年度四日市市立印刷所特別会計補正予算（第一号）ないし議案第百二十一号昭和三十九年度四日市市立四日市病院事業会計第一回補正予算の四議案は、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日通第百六、議案第百二十二号昭和三十九年度四日市市水道事業会計第一回補正予算を議題といたします。

本件に対する建設委員長の報告を求めます。

藤谷議員。

〔建設委員長（藤谷祐一君）登壇〕

○建設委員長（藤谷祐一君） 建設委員会に付託になりました議案第百二十二号昭和三十九年度、四日市市水道事業会計第一回補正予算に対する審査結果について御報告申し上げます。

追加補正の主な内容は、市内下野地区、山城町札幌町及び小山田地区小山町、西山町に簡易水道を建設するための事業費で資本的収入に簡易水道建設に伴う企業債、国庫補助金地元負担金を計上したものでありまして別段異議なく原案どおり承認いたしました。

よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 御質疑がありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。本件は討論を省略し議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） それでは議案の採決を行います。

議案第百二十二号は、委員長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百二十二号昭和三十九年度四日市市水道事業会計第一回補正予算は、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日置才七、議案第百二十三号昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定についてを

議題といたします。

本件に対する建設委員長の報告を求めます。

藤谷議員。

〔建設委員長（藤谷祐一君）登壇〕

○建設委員長（藤谷祐一君） 建設委員会に付託になりました議案第百二十三号は昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定についてであります。本決算の審査にあたりましては、理事者より詳細にわたり説明を求め審査いたしましたのでありまして、監査委員各位の御意見にもありますように計数は正確であり、財政諸表等により企業運営について、深い配慮がなされていることがうかがわれ理事者各位の御努力に対して敬意を表しまして、これが承認をいたしましたのであります。

なお、上水道事業について理事者は、維持管理費の増加により昭和三十九年度は収益的収支の予算上赤字となりこんど田舎な事業の推進に当って財政困難な状態に陥るものと考えられるが、こんどの運営については国の施政方針を尊重しつつ経営の合理化に努める一方、政府に対して企業債利子の引き下げ、償還期限の延長等を強く要望し、また水道協会を通じて全国的な運動を行なう等内外ともにでさうる限りの努力を払いたいという具剣な説明を了とし、本事業が市民生活に欠くべからざる重要な問題であるので企業経営の健全な発展を期するため改善の努力をつくされるよう強く要望いたしました次第でございます。

どうかよろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 委員長の報告に対しまして御質疑がありましたら、御発言願います。

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。本件につきましては、討論を省略し議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） それでは議案の採決を行います。

議案第百二十三号は、委員長の報告どおり認定いたしまして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百二十三号昭和三十八年度四日市市水道事業会計決算認定については、原案のとおり認定されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第八、議案第百二十四号市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について、ないし日程第十五、議案第百三十一号野田伝染病隔離病舎組合規約の変更についての八議案を一括議題いたします。

本件に対する各委員長の報告を求めます。

まず、総務委員長にお願いいたします。

北村議員。

〔総務委員長（北村与市君）登壇〕

○総務委員長（北村与市君） 総務委員会に御付託になりました議案第百二十四号、第百二十五号、第百二十六号、第百二十七号、第百二十八号並びに議案第百二十九号の六議案につきまして当委員会の審査の経過と結果について御

報告申し上げます。

議案第百二十四号は、地方自治法の規定によって市内石原町地充公有水面四万二千三百八十二坪余の埋立工事の完成に伴い新たに土地の生じたことを確認し、市内石原町に編入しようとするものであり、議案第百二十五号は、本市出張所設置条例の一部改正案でありまして羽津、海蔵、橋北地区の住居整頓事業の実施に伴いそれぞれの出張所の区域について所要の改正を行うものであります。

次に、議案第百二十六号は本市委員会委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正案でありまして、児童福祉施設の嘱託医師の報酬を上げようとするものであり、議案第百二十七号本市用品購入基金条例の制定案は、用品の集中采购によってその取付と管理事務を合理的かつ効率的に行うために用品購入基金を設置しようとするものでありまして、基金の限度額は三百万円となっておりますが、実施に当っては先程、議決されました一般会計からの繰出金百五十万円と在庫見直し八十万円の合計二百三十万円をもって運用していきたいという理事者の説明を了としたのでありますが、一括購入という運用についてはとくに慎重な配慮を行ない、不明確な疑惑の生じないよう十分留意されるよう強く要望をいたしました。

次に、議案第百二十八号は、消防本部及び消防署の設置等に関する条例の制定案でありまして、消防組織法の改正に伴い消防本部及び消防署の設置等に関して条例で定めることとされたこと及び消防力の強化のため南、北出張所をそれぞれ若に昇格しようとするものであり、議案第百二十九号四日市市消防団員等公務災害補償条例の制定案は関係法令の改正に従い、従来の条例を全面的に改め、救急業務、応急措置に従事した団員に対しても補償を行なえるよう適用範囲を拡大しようとするものでありまして、以上六議案はいずれも妥当と認め原案どおり承認いたしました。

よろしく御審議の上御賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 次に、教育民生委員長にお願いたします。
坂上議員。

〔教育民生委員長（坂上長十郎君）登壇〕

○教育民生委員長（坂上長十郎君） 教育民生委員会に付託されました議案第百三十号四日市市外三カ町伝染病隔離病舎組合規約の変更について及び議案第百三十一号植野伝染病隔離病舎組合規約の変更については、地方自治法の改正に伴い監査委員の設置が必要となったので改正せられたもので、原案どおり承認した次でです。
簡単であります。御報告いたします。

○議長（錦安吉君） 各委員長の報告に対しまして御質疑がありましたら、御発言願います。
質疑なしと認めます。

おはかりいたします。これら八件は、討論を省略し議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） それでは議案の採決を行います。

議案第百二十四号ないし議案第百三十一号の八議案を一括採決いたします。

これら八議案は、各委員長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百二十四号市の区域内にあらたに土地を生じたことの確認並びに町の区域の変更について、ないし議案第百三十一号植野伝染病隔離病舎組合規約の変更については、原案

のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、口糧第百十六、議案第百三十二号四日市市第一期公共下水道事業計画の変更について、及び日糧第百十七、議案第百三十三号簡易水道建設事業についての二議案を議題といたします。

本件に対する建設委員長の報告を求めます。

藤谷議員。

〔建設委員長（藤谷祐一君）登壇〕

○建設委員長（藤谷祐一君） 建設委員会に付託になりました議案第百三十二号及び議案第百三十三号について、その審査結果を御報告申し上げます。

まず、議案第百三十二号四日市市第一期公共下水道事業計画の変更についてであります。本案は、昭和三十年五月認可を受け継承してまいりました本市の公共下水道事業を南部丘陵地帯の開発に伴い泊山終末処理場を加え、排水区の面積を変更し事業費を修正したものであります。

次に、議案第百三十三号簡易水道建設事業についてであります。本案は、市内山城町、礼場町小山町ならびに西山町における環境衛生等を勘案し、文化生活の向上を期するため国庫補助金および企業負担金の見とおしがつき、地元負担も確定したので、簡易水道を建設しようとするもので以上二議案につきましては、別枚異議なく原案どおり承認いたしました。

よろしく御審議賜りますようお願いいたします。

○議長（錦安吉君） 委員長の報告に対しまして御質疑がありましたら、御発言願います。

質疑なしと認めます。

おはかりいたします。これら二件は、討論を省略し議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） それでは議案の採決を行います。

議案第百三十二号及び議案第百三十三号の二議案を一括採決いたします。

これら二議案は、委員長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百三十二号四日市市公一期公共下水道事業計画の変更について、及び議案第百三十三号簡易水道建設事業については、原案のとおり可決されました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第十八、議案第百三十四号工事請負契約の締結について、ないし日程二十一、議案第百三十七号市道路線の一部廃止についての四議案を一括議題といたします。

本件に対する総務委員長の報告を求めます。

〔総務委員長（北村与市君）登壇〕

○総務委員長（北村与市君） 総務委員会に御付託になりました議案第百三十四号、第百三十五号、第百三十六号並びに議案第百三十七号の四議案につきまして当委員会が審査の経過と結果について御報告申し上げます。

議案第百三十四号は、海蔵小学校の改築工事の請負契約案でありまして本契約に対しては別段異議はなかったの

ありますが、去る二十五日の本会議におきまして加藤議員から質問のありました指名業者の問題につきましては、とくに審査委員会委員長補助役の出席を求め詳細に契情を検討したのであります。すなわち、財務会計制度改正に伴い工事執行規則等を制定し、請負業者の公正な選定と工事の適正のため請負工事指名審査会が発足し、とくに慎重なる配慮が望まれるときにかかる不明朗な問題が生じたことを責めましたところ「決して地元業者の育成を忘れていたわけではない。また指名審査会の決定をくつがえしたことに對しては、深く反省している」という説明をえたのであります。

当委員会は、地元業者の育成については充分考慮する必要はあるが、しかし、請負業者の公正な選定については、審査会の権威を忘却することなく、二度とこのような疑惑の念を市民にいだかぬよう厳正公平なる態度で臨まれることを強く要望したのであります。

次に、議案第百三十五号、第百三十六号及び第百三十七号は市道路として調査できたものの認定、用途変更に伴う廃止及び一部を廃止しようとするものでありまして、以上四議案はいずれも原案どおり承認いたしました。

よろしく御審議の上、御賛同賜わりますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 委員長の報告に對しまして御質疑がありましたら、御発言願います。（「なし」呼ぶ者あり）質疑なしと認めます。

おはかりいたします。これら四件は、討論を省略し議案の採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） それでは議案の採決を行います。

議案第百三十四号ないし議案第百三十七号の四議案を一括採決いたします。
これら四議案は、委員長の報告どおり可決いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百三十四号工事請負契約の締結について、ないし議案第百三十七号市道改修線の一部廃止については、原案のとおり可決されました。
暫時、休憩いたします。

午前十一時三十六分休憩

午後一時十一分再開

○議長（錦安吉君） 休憩前に引き続き、会務を開きます。

日程第二十二、議案第百三十八号教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

市民の説明を求めます。

市長。

〔市長（平田佐矩君）登壇〕

○市長（平田佐矩君） ただいま御上程の議案について御説明申し上げます。

本案は、本市教育委員会委員杉浦西太郎氏が、このほど任期満了となりましたので、再び同氏を任命したいと存じ御同意をお願いするものであります。

よろしく御審議のうえ、御決議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（錦安吉君） 本件につきましては、別段御質疑もないこととしますので、質疑、討論を省略し、直ちに採決を行ないたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。

それでは採決を行います。

おはかりいたします。本案は、市長の推薦者に同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、議案第百三十八号教育委員会委員の任命については、これに同意することに決定いたしました。

○議長（錦安吉君） 次に、日程第二十三、委員会報告第百六号ないし日程第二十六、委員会報告第百九号の四件を一括議題といたします。

御質疑、御意見がありましたら、御発言願います。（「なし」と呼ぶ者あり）

別段、御質疑、御意見ありませんので、本件を委員長報告どおり決定いたしましたして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君） 御異議なしと認めます。よって、委員会報告第百六号ないし委員会報告第百九号は、各委員長の報告のとおり決定いたしました。

報告番号	件名	委員会 審査結果
六	<p>請願才一〇号 陳情才一五号 陳情才十九号 陳情才二十四号 陳情才三十三号 請願才五号 請願才六号 請願才七号 請願才九号 陳情才二三号 陳情才五号 陳情才六号</p>	<p>総務 採 択</p>
七	<p>鈴鹿高等学校教育助成金について 退隠料及び遺族扶助料の改訂について 浜田地区内国道一号线に通学陸橋架設について 西町地内国道一号线に歩道橋設置について 四日市ヘルスセンターの入湯税の非課税について 振動音の防止対策について よろず相談所及び結婚相談所に対する助成金について 新設計画中の労働会館を港地区の公民館施設に無償貸与若しくは 払下げ方について 港中学校プール建設について 青少年の野外活動施設設置にとりなり助成について 福祉センターの建設並びに市各例による障害者福祉年金並びに身 体障害者団体連合会に対し市助成金の増額について 富田一色海岸の災害住宅早期処埋並びにこれが児童遊園地としての 転用について</p>	<p>民生育 採 択</p>

七	八	九
<p>陳情才二〇号 精神薄弱者福祉センター建設について</p> <p>陳情才二一号 高花平小学校才二期工事促進について</p> <p>陳情才一十号 有線放送の公共施設に対する電話架設費について</p> <p>陳情才二三号 四日市港輸送案定業務に対する補助金交付について</p> <p>陳情才二九号 高花平雇傭促進事業団宿舍借用家賃の値下げ等について</p> <p>陳情才三一十号 公害防止のための設備改善資金確保について</p> <p>陳情才八号 納屋ポンプ場の汚水放流について</p> <p>陳情才一三三号 県道「別名一四日市線」山分、平津町区間交差緩和のための北迂回路線の建設について</p> <p>陳情才一四号 日永中ノ町地区の上水道布設について</p> <p>陳情才一七号 芝田町内南北線道路の拡幅について</p> <p>陳情才二二号 旧東海道富田西町地区内の道路開闢新設について</p> <p>陳情才二八号 下水排水工事継続施行について</p> <p>陳情才三〇号 富田浜海岸浜州の空地確保について</p> <p>陳情才三五号 四日市南部開発道路建設促進について</p> <p>陳情才三六号 富田西町地内における道路開闢整備について</p>	<p>経産 業</p> <p>採 択</p>	<p>建 設</p> <p>採 択</p>
民 教 生 育	採 択	採 択

○議長（錦安吉君）　なお、教育民生、産業経済、建設の各委員長から目下委員会において審査中の事件について、お手元に配布いたしました申出書のとおり閉会中の継続審査の申し出があります。
おわかりいたします。各委員長から申し出のとおり閉会中の継続審査に付することにいたしまして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（錦安吉君）　御異議なしと認めます。よって、各委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査に付することに決定いたしました。

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について、左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから、会議規則第六十八条の規定により申し出ます。

記

一、事件

陳情才三四号　市に貸与中の宅地（廣北中学校敷地内）返還申入れについて

陳情才三七号　学校給食に使用されている脱脂粉乳を生乳に切換えることについて

二、理由

調査研究のため

昭和三十九年十月五日

教育民生委員長　坂　上　長十郎

四日市市議會議長　細　安　吉　殿

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について、左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから会議規則第六十八条の規定により申し出ます。

記

一、事件

陳情才三二号　農業共済事業の市へ移譲について

（昭和三十八年度受付）

二、理由

調査研究のため

昭和三十九年十月五日

産業経済委員長　伊　藤　泰　一

四日市市議會議長　錦　安　吉　殿

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について左記により閉会中もお継続審査を要するものと決定したから、会議規則第六十八条の規定により申し出ます。

一、事 件

陳情才一六号 国道一号線諏訪交叉点附近における地下道建設について

陳情才二五号 職災復旧事業区域内近鉄駅裏地区の事業推進について

陳情才二六号 地下横断道建設反対について

陳情才三二号 四日市港の厚生施設（築港病院）の改築に対する助成について

二、理 由 調査研究のため

昭和三十九年十月五日

建設委員長 藤 谷 祐 一

四日市市議会議長 錦 安 吉 殿

○議長（錦安吉君） 次に、監査委員より監査並びに現金山納検査の結果報告について、報告才二十七号ないし才三十八号の十二件がまいております。お手元に配布いたしておりますので、これによって御了承願います。

以上をもちまして本定例会の議事については、全部終了いたしましたので、会議を閉じ昭和三十九年九月定例市議会を閉会いたします。

午後一時十五分閉会

右、地方自治法才百二十三条才二項の規定に基づき署名する。

四日市市議会議長	錦	安	吉
署 名、議員	前	川	宗 雄
署 名、議員	加	藤	定 男